富山県射水郡大島町

小　林　遺　跡

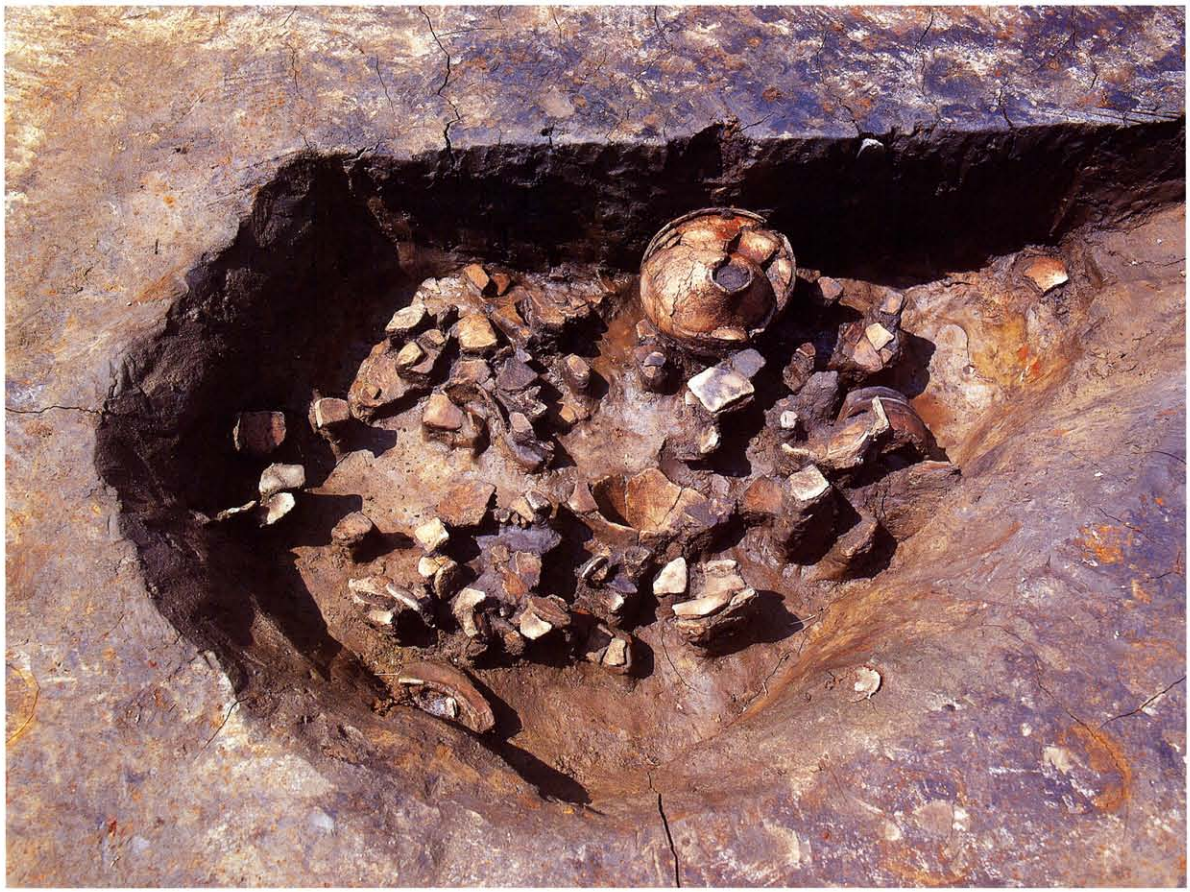
－ 町道北高木小林線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 －

２００３年

大島町教育委員会

巻首図版1

上　小林遺跡遠景（北から）　　下　F地区［下層面］遺構全景（北から）



上　E地区［下層面］81号土坑（東から）　　下　81号土坑出土遺物

巻首図版3

H地区［下層面］1号土器溜り出土遺物

富山県射水郡大島町

小　林　遺　跡

－ 町道北高木小林線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 －

２００３年

大島町教育委員会

序

この報告書は、町道北高木小林線建設事業に伴い、大島町が平成９年度から３箇年に亙って調査を実施した小林遺跡の発掘調査報告であります。

小林遺跡は、射水平野の重要な河川の一つである神楽川流域に立地し、弥生時代から江戸時代に亘る複合遺跡として知られてきました。小林遺跡として初めて発掘調査を実施した今回の調査では、弥生時代以降の各時代の遺構・遺物が検出され、この地には連綿と人々が生活を営んでいたことを実証してくれました。

この発掘調査の成果が、文献には表れない民衆生活の解明や学術研究等の参考となり、埋蔵文化財に対する理解ならびに保護の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元の皆様をはじめ、調査中や整理期間中に様々なご指導を賜りました関係諸機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成15年３月

大島町教育委員会

教育長　亀　谷　慶　英

例　　言

1　本書は、町道北高木小林線建設事業に先立ち実施した、富山県射水郡大島町小林地内に所在する小林遺跡の発掘調査報告である。

2　調査は、大島町役場建設課（現：産業建設課）に委託を受けて、大島町教育委員会が実施した。

3　調査事務局は大島町教育委員会事務局生涯学習係に置き、学芸員田中　明が調査事務を担当し、事務局長草野信正（平成９年度）・竹内三和（平成10・11年度）が総括した。

4　調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。

調査期間	平成９年度	平成 9（1997）年８月20日～平成 9（1997）年12月17日（実働64日）
	平成10年度	平成10（1998）年５月11日～平成10（1998）年９月９日（実働62日）
	平成11年度	平成11（1999）年４月６日～平成12（2000）年１月13日（実働134日）
調査面積	平成９年度	1,000㎡
	平成10年度	2,300㎡
	平成11年度	4,300㎡

調査担当者	大島町教育委員会	生涯学習係	学芸員	田中　明
		同　上	調査員	中村　恭子
		同　上	調査員	大友喜代子

5　本書の編集・執筆は、調査担当者田中がこれにあたった。

6　木製品樹種同定分析は、㈱吉田生物研究所に委託し、その成果について報文を得た。

7　現地調査ならびに資料整理にあたって、下記の方々からご協力を頂いた。記して謝意を表したい。（敬称略・順不同）

岸本雅敏・宮田進一・池野正男・久々忠義・神保孝造・島田修一・岡本淳一郎・高梨清志・越前慶祐・京田良志・鈴木景二・根津明義・岡田一宏

8　現地調査にあたっては、社団法人大島町シルバー人材センターの協力を得た。記して厚く御礼申し上げる。

9　本書の挿図・写真図版に用いた方位は磁北、標高は海抜高である。なお、遺構の標記にあたっては略号を用いた。使用した略号は下記のとおりである。

ＳＤ：溝・河川、ＳＫ：土坑、ＳＢ：掘立柱建物、ＳＥ：井戸、ＳＸ：不明遺構、Ｐ：柱穴

10　本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（1997年版）に準拠している。

11　出土品ならびに記録資料は、大島町教育委員会が保管している。

12　資料整理業務の参加者は下記のとおりである。

新中洋子・江幡幸子・高瀬直子・畠山りえ子・三箇正子・中嶋由利子・林紀予子・藤井真紀子・吉田和永・井上啓子・野村英美子

目　　次

第１章　位置と環境 …… 1

第２章　調査の経緯と経過 …… 2

第１節　調査に至る経緯 …… 2

第２節　調査の経過と方法 …… 2

第３章　調査の概要 …… 4

第１節　地形と層序 …… 4

第２節　遺構と遺物（上層面） …… 4

第１項　Ａ地区 …… 4

第２項　Ｂ地区 …… 5

第３項　Ｃ地区 …… 5

第４項　Ｄ地区 …… 6

第５項　Ｅ地区 …… 6

第６項　Ｆ地区 …… 6

第３節　遺構と遺物（下層面） …… 18

第１項　Ａ地区 …… 18

第２項　Ｂ地区 …… 18

第３項　Ｃ地区 …… 18

第４項　Ｄ地区 …… 19

第５項　Ｅ地区 …… 20

第６項　Ｆ地区 …… 21

第７項　Ｇ地区 …… 22

第８項　Ｈ地区 …… 23

第９項　Ｉ地区 …… 23

第４章　考　　察 …… 49

第５章　自然科学分析 …… 51

巻首図版目次

巻首図版１　小林遺跡遠景　Ｆ地区（下層面）遺構全景
巻首図版２　Ｅ地区（下層面）81号土坑　81号土坑出土遺物
巻首図版３　Ｈ地区（下層面）１号土器溜り出土遺物

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 1
第２図　調査区位置図 …… 3
第３図　基本層序模式図 …… 4
第４図　遺構実測図［Ａ・Ｂ地区］ …… 7
第５図　遺構実測図［Ｃ・Ｄ地区］ …… 8
第６図　遺構実測図［Ｅ・Ｆ地区］ …… 9
第７図　遺構実測図［Ａ～Ｃ地区］ ＳＤ01　ＳＤ03　ＳＤ33　ＳＤ35　ＳＫ16　ＳＫ17 …… 10
第８図　遺構実測図［Ｄ～Ｆ地区］ ＳＤ37　ＳＫ55　ＳＫ56　ＳＢ02 …… 11
第９図　遺物実測図［Ａ地区］　ＳＤ01　ＳＤ03　包含層 …… 12
第10図　遺物実測図［Ｂ地区］　ＳＤ09　ＳＤ10　ＳＤ33 …… 13
第11図　遺物実測図［Ｂ地区］　包含層 …… 14
第12図　遺物実測図［Ｃ地区］　ＳＤ35　ＳＤ36　ＳＫ18　包含層 …… 15
第13図　遺物実測図［Ｄ地区］　ＳＤ37　包含層 …… 16
第14図　遺物実測図［Ｅ・Ｆ地区］ ＳＤ37　ＳＤ62　ＳＫ56　包含層 …… 17
第15図　遺構実測図［Ａ・Ｂ地区］ …… 24
第16図　遺構実測図［Ｃ・Ｄ地区］ …… 25
第17図　遺構実測図［Ｅ・Ｆ地区］ …… 26
第18図　遺構実測図［Ｇ・Ｈ地区］ …… 27
第19図　遺構実測図［Ｉ地区］　ＳＤ73　ＳＫ168 …… 28
第20図　遺構実測図［Ａ～Ｄ地区］ ＳＤ18　ＳＤ24　ＳＤ30　ＳＤ47　ＳＤ51
ＳＫ26　ＳＫ32　ＳＥ01 …… 29
第21図　遺構実測図［Ｅ地区］　ＳＤ71～ＳＤ74　ＳＫ76　ＳＫ81 …… 30
第22図　遺構実測図［Ｆ・Ｇ地区］ ＳＤ73　ＳＤ80　ＳＤ83　ＳＤ89　ＳＫ109 …… 31
第23図　遺構実測図［Ｇ地区］　ＳＤ73　ＳＢ03 …… 32
第24図　遺構実測図［Ｇ～Ｉ地区］ ＳＤ73　ＳＤ91　ＳＤ97　ＳＫ167 …… 33
第25図　遺物実測図［Ａ・Ｂ地区］ ＳＤ18　ＳＤ20　ＳＫ26　包含層 …… 34
第26図　遺物実測図［Ｃ地区］　ＳＤ47　ＳＫ32　ＳＫ35　ＳＫ40　包含層 …… 35
第27図　遺物実測図［Ｃ地区］　包含層 …… 36
第28図　遺物実測図［Ｄ地区］　ＳＤ48　ＳＤ51　包含層 …… 37
第29図　遺物実測図［Ｅ地区］　ＳＫ76 …… 38

第30図　遺物実測図［E地区］　SD73　SK81……39
第31図　遺物実測図［E地区］　SD70～SD72　SD74　SK90　包含層……40
第32図　遺物実測図［F地区］　SD73……41
第33図　遺物実測図［F地区］　SD80　SK109　包含層……42
第34図　遺物実測図［G地区］　SD83　SD89～SD91……43
第35図　遺物実測図［G地区］　SD73　包含層……44
第36図　遺物実測図［H地区］　SX01……45
第37図　遺物実測図［H地区］　SX01……46
第38図　遺物実測図［H地区］　SD73　SD97　SK151……47
第39図　遺物実測図［H・I地区］SD73　SD98　SD113　包含層……48

表　目　次

第1表　遺物観察表（ 1～ 40）……53
第2表　遺物観察表（ 41～ 80）……54
第3表　遺物観察表（ 81～120）……55
第4表　遺物観察表（121～160）……56
第5表　遺物観察表（161～200）……57
第6表　遺物観察表（201～240）……58
第7表　遺物観察表（241～280）……59
第8表　遺物観察表（281～320）……60
第9表　遺物観察表（321～360）……61
第10表　遺物観察表（361～400）……62
第11表　遺物観察表（401～440）……63
第12表　遺物観察表（441～483）……64

図版目次

図版１	小林遺跡遠景			
図版２	遺構全景		［Ｂ・Ｅ地区］	
図版３	遺構全景・掘立柱建物		［Ｅ～Ｉ地区］	ＳＢ03
図版４	溝・土坑・柱穴・井戸		［Ｃ・Ｅ・Ｇ～Ｉ地区］	ＳＤ73　ＳＤ107　ＳＫ76　ＳＫ90 ＳＢ01　ＳＥ01
図版５	溝・土坑		［Ａ・Ｃ～Ｆ地区］	ＳＤ01　ＳＤ03　ＳＤ35　ＳＤ37　ＳＫ16 ＳＫ17　ＳＫ55
図版６	溝・土坑		［Ａ～Ｄ地区］	ＳＤ20　ＳＤ24　ＳＤ47　ＳＤ48　ＳＤ51 ＳＫ26
図版７	溝・土坑		［Ｅ・Ｆ地区］	ＳＤ71～ＳＤ74　ＳＫ76
図版８	溝・土坑		［Ｆ～Ｉ地区］	ＳＤ73　ＳＤ83　ＳＤ89　ＳＤ91　ＳＤ97 ＳＫ118　ＳＫ167
図版９	出土状況	土器・木製品	［Ａ～Ｅ地区］	ＳＤ01　ＳＤ11　ＳＤ33　ＳＤ35 ＳＫ56　包含層
図版10	出土状況	土器	［Ｅ地区］	ＳＤ71　ＳＤ72　ＳＫ81
図版11	出土状況	土器	［Ｅ・Ｆ地区］	ＳＫ81　ＳＫ109
図版12	出土状況	土器	［Ｇ・Ｈ地区］	ＳＤ89　ＳＤ91　ＳＸ01
図版13	出土状況	石製品	［Ｈ・Ｉ地区］	ＳＤ73
図版14	出土遺物	土器	［Ａ・Ｂ地区］	ＳＤ01　ＳＤ03　ＳＤ09　ＳＤ10　包含層
図版15	出土遺物	土器・陶磁器	［Ｂ・Ｃ地区］	包含層
図版16	出土遺物	土器・木製品・石製品・金属製品	［Ｃ～Ｆ地区］	ＳＤ35　ＳＤ37　包含層
図版17	出土遺物	土器	［Ａ・Ｂ地区］	ＳＤ18　包含層
図版18	出土遺物	土器	［Ｃ地区］	ＳＫ40　包含層
図版19	出土遺物	土器	［Ｃ地区］	包含層
図版20	出土遺物	土器	［Ｄ地区］	ＳＤ51　包含層
図版21	出土遺物	土器・石製品	［Ｅ地区］	ＳＫ76
図版22	出土遺物	土器	［Ｅ地区］	ＳＫ81
図版23	出土遺物	土器・石製品	［Ｅ地区］	ＳＤ71～ＳＤ73　包含層
図版24	出土遺物	土器	［Ｆ地区］	ＳＤ80　ＳＫ109　包含層
図版25	出土遺物	土器	［Ｇ地区］	ＳＤ91
図版26	出土遺物	土器・陶磁器・石製品	［Ｇ地区］	ＳＤ73　ＳＤ83　ＳＤ89　ＳＤ91
図版27	出土遺物	土器	［Ｈ地区］	ＳＸ01
図版28	出土遺物	土器	［Ｈ地区］	ＳＸ01
図版29	出土遺物	土器	［Ｈ地区］	ＳＸ01
図版30	出土遺物	土器・石製品	［Ｈ地区］	ＳＤ73　ＳＤ97　ＳＫ151　包含層
図版31	出土遺物	獣骨・金属製品	［Ｂ～Ｉ地区］	ＳＤ37　ＳＤ73　包含層

第１章　位置と環境

大島町は、富山県西部にあり、射水平野の中央に位置している。町の西側には飛騨高地に源を発する庄川が流れ、その庄川を挟んで高岡市、東は小杉町、南に大門町、北に新湊市と接している。この射水平野は沖積層で、その大半が約6,000年前の縄文海進期に、現在富山新港となっている放生津潟が射水丘陵付近にまで入り込み、町の大部分も海面下にあったことが想像される。その後、和田川・神楽川・下条川・鍛冶川の土砂堆積により潟が狭められ陸地化し、低湿地帯が広がる射水平野を形成していった。町は全体に平坦で、標高は３～８ｍを測る。

小林遺跡は、弥生時代中期から江戸時代に至る複合遺跡であり、和田川が形成した微高地上に立地している。この和田川は現在庄川へ合流しているが、もとは東神楽川と西神楽川の二つの流れとなって放生津潟へ注いでいた。舟運が重要な交通手段であった頃に砺波郡東部と射水郡を結ぶ東西神楽川流域内に立地していたことがうかがえる。周辺には、奈良・平安時代の川跡から木簡、人形、人面墨書土器などが出土し、県内有数の祭祀場であった北高木遺跡、同遺跡北側に一連の遺跡と考えられ墨書土器、布目瓦、などが出土した高木・荒畑遺跡がある。

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡（１／25,000）

1．小林遺跡　2．鳥取遺跡　3．新開発遺跡　4．水上・本開発遺跡　5．熊野神社遺跡　6．赤井遺跡　7．小林南遺跡
8．八塚B遺跡　9．八塚土田遺跡　10．八塚A遺跡　11．八塚C遺跡　12．小島遺跡　13．南高木B遺跡　14．南高木A遺跡
15．北高木遺跡　16．中野B遺跡　17．中野A遺跡　18．中野北遺跡　19．若杉遺跡　20．北野B遺跡　21．三ヶ・本開発遺跡

第２章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

平成６年度、大島町は町道北高木小林線の新設道路工事を計画した。大島町教育委員会は町建設課（現：産業建設課）から、路線計画地内の埋蔵文化財包蔵地の有無、その取り扱いについて照会を受けた。これに対し町教育委員会は、事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である小林遺跡であることから、今後の対応につき富山県埋蔵文化財センターと協議を図り、事業計画地約10,000㎡を対象とした試掘調査を実施することとなった。

平成７年10月、町教育委員会に調査員がいない為、県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受けて、試掘調査を実施した。調査は対象面積約10,000㎡に49本の試掘トレンチを設定し、重機及び人力により地表面下30～100㎝の遺構面まで掘り下げ、遺物包含層と遺構の有無を確認した。試掘調査による発掘面積は700㎡で全体の７％であった。調査の結果、事業計画地の北端、町道中野本開発線取り付け部分を除きほぼ全域から遺構・遺物が確認されたため、遺構の保護措置について町教育委員会・町建設課・県埋蔵文化財センターの三者による協議を重ねた。道路事業の性格上、計画変更による現状保存は極めて困難であり、記録保存を前提とした発掘調査を実施する方向で協議は進められた。これに伴い町教育委員会では発掘調査の計画策定を進めたが、調査員採用の問題を抱え膠着状態が続いた。平成９年度に入り、町職員として学芸員が採用されたことで調査体制が整い、懸案事項が合意に達し８月下旬より1,000㎡の本調査を実施した。同様に平成10年度は2,300㎡、平成11年度は4,300㎡と３年度に亘る発掘調査に着手することとなった。

第２節　調査の経過と方法

調査対象地は、農道、排水溝で南北に９分割されているため、便宜上Ａ～Ｉ地区とし調査を進めることにした。平成９年度はＡ～Ｂ地区（1,000㎡）、平成10年度はＢ～Ｄ地区（2,300㎡）、平成11年度はＥ～Ｉ地区（4,300㎡）の調査を行い、調査総面積は7,300㎡である。試掘調査の結果、本遺跡は時代の異なる遺構が検出される複合遺跡であるということで、文化層を２面に分けて調査を実施した。従って実際調査した図化面積は約２倍に亘る。

発掘調査は試掘調査の結果をもとに重機による表土・耕作土の除去を、調査員立ち会いのもと行った。その後、調査対象地の区画にあわせて10ｍ間隔に測量基準杭の打設を行い（第２図）、Ｘ軸を南北にＹ軸を東西に２×２ｍを一区画とした調査区を設定した。続いて、第一層目の遺構確認面の精査、遺構の検出を行った。検出した遺構にはマーキングを行い、平板測量による遺構概略図を作成した。

次に、遺構に便宜上の番号を設定し、各々の遺構に適宜、土層観察用の畦を残し掘削を開始した。遺構掘削後は各遺構の断面を20分の１で実測し図化を行った。遺構の平面全体図は航空写真測量を行った。各遺構の断面写真は35㎜カメラで、遺物出土状況や個別の完掘写真・ブロック写真はブロニー版もあわせて撮影した。実機ヘリコプターによる空中撮影終了後は最終レベルの確認・記録、遺物の採集を行った。また、空中撮影のために残しておいた畦などを取りはずし、遺構の完掘を確認し第一層目の調査を終了した。引き続き、第二層目も同様に第一層目の遺構検出面を掘り下げ、遺構確認面の精査、遺構の検出作業から順に進めた。

平成９年度は平成９年８月20日～12月17日（実働64日）、平成10年度は平成10年５月11日～９月９日（実働62日）、平成11年度は平成11年４月６日～平成12年１月13日（実働134日）と長期に亘る発掘調査を終了した。

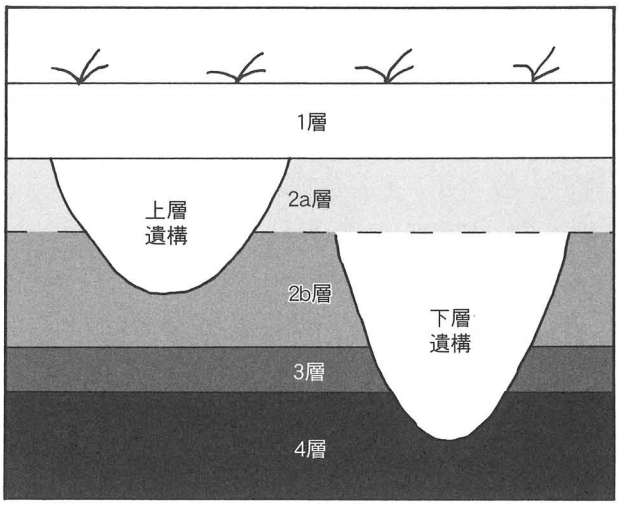
第２図　調査区位置図（1／2,400）

第３章　調査の概要

第１節　地形と層序

小林遺跡は、和田川によって形成された微高地上に位置し、その支流である東西神楽川に挟まれている。現況は標高4.5m前後を測り、北から南に向かって緩やかに傾斜する。

調査区付近は昭和28年にほ場整備を受け、調査区の中央を南北に走る農道を境に、東側が西側より低くなり削平を受けている。幅16～18mの調査区には、農道・旧用水が中央を縦断しており、撹乱をひどく受けている。



第３図　基本層序模式図

調査区の基本層序について記述する。その層序は概ね５層に区分できる。１層は褐灰色～灰黄褐色砂質土で表土・耕作土である。２ａ層は灰色～灰オリーブ色シルトで上層、２ｂ層は灰色～オリーブ黒色シルトで下層と共に遺構検出面であり、古代から近世の遺物包含層でもある。この２層は色調の違いによりａ・ｂ層と分けたが、ともに酸化鉄を豊富に包含している為、同一層位として捉えることとする。３層はオリーブ黒色～黒色粘質シルトで弥生中期から古墳時代の遺物包含層である。４層は明青灰色～緑灰色粘質シルトで、遺物の包含が認められないため、これより下層は地山と判断する。

第２節　遺構と遺物（上層面）

第１項　Ａ地区

１号溝（ＳＤ01、第４・７・９図、図版５・９・14）

Ａ地区の北側に位置する東西方向の幅120cm～210cmの溝である。途中撹乱により少し途切れるものの全長約17mを検出し、両端とも発掘区外へ伸びる。深さは30cm～45cmを測る。北東端部付近からＳＤ02が南北方向に伸びるが、ＳＤ01はこれよりも古い。遺物は弥生土器・須恵器・土師器が出土している。第９図２は須恵器杯Ｂである。直線的に斜め上方に伸びる口縁部をもち口径に比して高さが低い器形で、８世紀第２四半期のものである。４は須恵器杯Ａで、体部外面に「長」の墨書が残る。７は内面が黒色処理された土師器椀である。

３号溝（ＳＤ03、第４・７・９図、図版５・14）

Ａ地区の西側に位置する幅70cm～90cmの溝である。南北方向に直線的に伸び、全長約26mを検出。南端は発掘区外へ伸びるが、北端ではＳＤ02に切られていることからＳＤ02より古い。断面は逆台形を呈し、深さは5cm～15cmと浅い。覆土は灰色～灰オリーブ色粘質シルトである。遺物は須恵器・土師器が出土している。第９図13は口径11.3cm、高さ3.8cmの須恵器杯Ｈ身である。たちあがりをもつ杯身の終末にちかい形態で、時期は７世紀第２四半期のものか。18は土師器甕。直線的に外傾する口縁部に外傾する端部が付くもので、内外面ハケメ調整である。時期は７世紀後半から８世紀前半のものである。

包含層出土遺物（第９図、図版14）

包含層からは須恵器（杯・杯蓋・壷）・土師器（ミニチュア・高杯・皿）・珠洲甕が出土している。

第２項　Ｂ地区

９号溝（ＳＤ09、第４・10図、図版14）

Ｂ地区の西側に位置する南北方向の自然流路である。溝の掘り込みが確認されなかったため、谷部としておく。谷肩部の落ち際から測って、幅60cm～350cmあり、全長約22ｍを検出した。途中交差するＳＤ10・ＳＤ11より古い。遺物は須恵器・土師器が出土している。第10図35は須恵器長頸壺。37は須恵器甕。口径32.3cmを測り、口縁部が外反し端部が外傾して下方に引き出すもの。体部外面はタタキ後カキメ調整、内面は同心円文当て具である。38は土師器甕。口縁部が屈曲し端部を上方につまみ上げ、外端面は面をとり、中央が僅かに窪む。８世紀後半のもの。

33号溝（ＳＤ33、第４・７・10図、図版９）

Ｂ地区の中央部に位置する南北溝である。幅70cm～140cm、全長約15ｍを検出した。北端部はＳＤ12に合流し、南端部はＣ区へ伸びる。深さは10cm～30cmを測り、覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトである。遺物は須恵器が出土している。第10図47～49は須恵器双耳瓶。47・48は単孔、49は二孔の耳が付くもので、時期は９世紀末～10世紀前半にかけてのものである。

包含層出土遺物（第11図、図版15）

包含層からは須恵器・土師器・珠洲・中世土師器・青磁・伊万里が出土している。第10図52～58は須恵器杯Ａ。口径は10.8cm～14.3cmのものがあり、底部外面を除く内外面はロクロナデ、底部外面はヘラ切り痕跡を消すためナデ調整となっている。62の底部外面にはヘラ記号があり、63の底部外面には「□人」の墨書が残る。64～70は須恵器杯Ｂ蓋で時期は８世紀～９世紀前半である。口径は11.8cm～18.5cmを測る。73～75は珠洲甕。76は2.0cm幅に卸目９条の珠洲擂鉢。13世紀中葉～14世紀第３四半期のものである。79は内面が黒色処理された土師器椀である。

第３項　Ｃ地区

35号溝（ＳＤ35、第５・７・12図、図版５・９・16）

Ｃ地区の南西隅を南西から北東に向かって直線的に流れ、中央部でカーブして東に折れる溝である。幅50cm～280cm、全長約45ｍを検出した。途中交差するＳＤ36より古い。断面は不整形を呈し、覆土は粘質シルト。遺物は弥生土器・須恵器・土師器が出土している。第12図86は６世紀代の須恵器瑳か。内面に緑色自然釉がかかる。91は土師器の足鍋の脚。全面に煤が付着しており、時期は10世紀前半のものである。

16号土坑（ＳＫ16、第５・７図、図版５）

ＳＤ34の北側に位置する円形土坑である。規模は直径60cm、深さ12cm。断面は皿状を呈し、灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。

17号土坑（ＳＫ17、第５・７図、図版５）

ＳＤ34の北側に位置する円形土坑である。規模は直径50cm、深さ5cm。断面は皿状を呈し、灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。

包含層出土遺物（第12図、図版15・31）

包含層からは須恵器・土師器・珠洲・中世土師器・伊万里・越中瀬戸・金属製品が出土している。第15図97は須恵器杯Ｈ身である。時期は７世紀第２四半期。107は体部外面にヘラ記号があり、透かし孔をもつ須恵器円面硯である。108は越中瀬戸の陶器皿。見込みに菊の印花と直接重ね焼きした痕がある。109は貝の文様を型どった伊万里の型押し成形による紅皿で18世紀末～幕末頃のものである。111は手づくね成形によるミニチュア土器。時期は５世紀後半のものである。117・118は銅銭。117は渡来銭の開元通寶（初鋳621年）である。

第４項　Ｄ地区

37号溝（ＳＤ37、第５・８・13図、図版５・16・31）

Ｄ地区の北東隅を東西に直線的に流れ、調査区西端部手前でカーブして南に折れる溝である。幅100cm～330cm。全長約56mを検出し、両端とも発掘区外へ伸びる。断面は不整形を呈し、深さは10cm～25cm、覆土は粘質シルトである。遺物は須恵器・中世土師器・越中瀬戸・伊万里が出土している。第13図122～125は須恵器杯Ｂ。128は須恵器甕の口縁部、口径16.5cmで口頸部に細線の櫛描波状文が施される。時期は６世紀後半～７世紀前半のもの。130～132は非ロクロ成形の中世土師器皿。136はコンニャク印判の伊万里碗。体部外面に団鶴を描き、時期は18世紀後半である。

包含層出土遺物（第13図、図版16・31）

包含層からは須恵器・土師器・中世土師器・唐津・越中瀬戸・金属製品が出土している。第13図137～141は須恵器杯Ｂ。141は内底面にヘラ記号が残る。145は口径13.9cmの須恵器壷蓋、時期は８世紀後半のもの。147・148は土師器高杯の脚である。149は土師器小型壷。丸底・球胴の体部に口縁部が直線的に伸び、時期は５世紀中葉～後半のもの。151は中世土師器皿。口縁部内外面に油煙による炭化物が付着しており、灯明皿として使われたもの。152は底部削り出し高台の越中瀬戸の鉄釉皿である。153・154は銅銭。153は銭貨名不明瞭。154は寛永通寶であり、一文銭で背無文。

第５項　Ｅ地区

37号溝（ＳＤ37、第６・８・14図、図版16・31）

Ｅ地区の中央部に位置する南北方向に流れる溝である。北端はＤ地区、南端はＦ地区に伸び、全長約50mを検出した。断面は不整形を呈し、深さは20cm～35cm。遺物は弥生土器・須恵器・珠洲・伊万里・金属製品が出土している。第14図158は須恵器甕。口縁部に櫛描波状文があり、時期は８世紀代のものである。159は珠洲擂鉢。2.6cm幅の原体に11条の卸目が隅無く施され、口縁端面に櫛描波状文を加飾として廻らしている。時期は14世紀後半～15世紀前半のものである。

55号土坑（ＳＫ55、第６・８図、図版５）

ＳＤ54の南側に位置する土坑である。ＳＤ37に切られているため、正確な外形は不明。断面は皿状を呈し、黄灰色～暗灰黄色シルトが堆積する。遺物は須恵器が出土している。

56号土坑（ＳＫ56、第６・８・14図、図版９）

ＳＤ55の東側に位置する土坑である。試掘トレンチにより、正確な外形は不明。断面は逆台形状を呈し、黄灰色～暗灰黄色シルトが主体的に堆積する。遺物は土師器が出土している。第14図168は口径15.4cmの土師器甕。体部外面に煤が付着している。

包含層出土遺物（第14図）

包含層からは須恵器・木製品・石製品が出土している。第14図167は近世荷札木簡か。

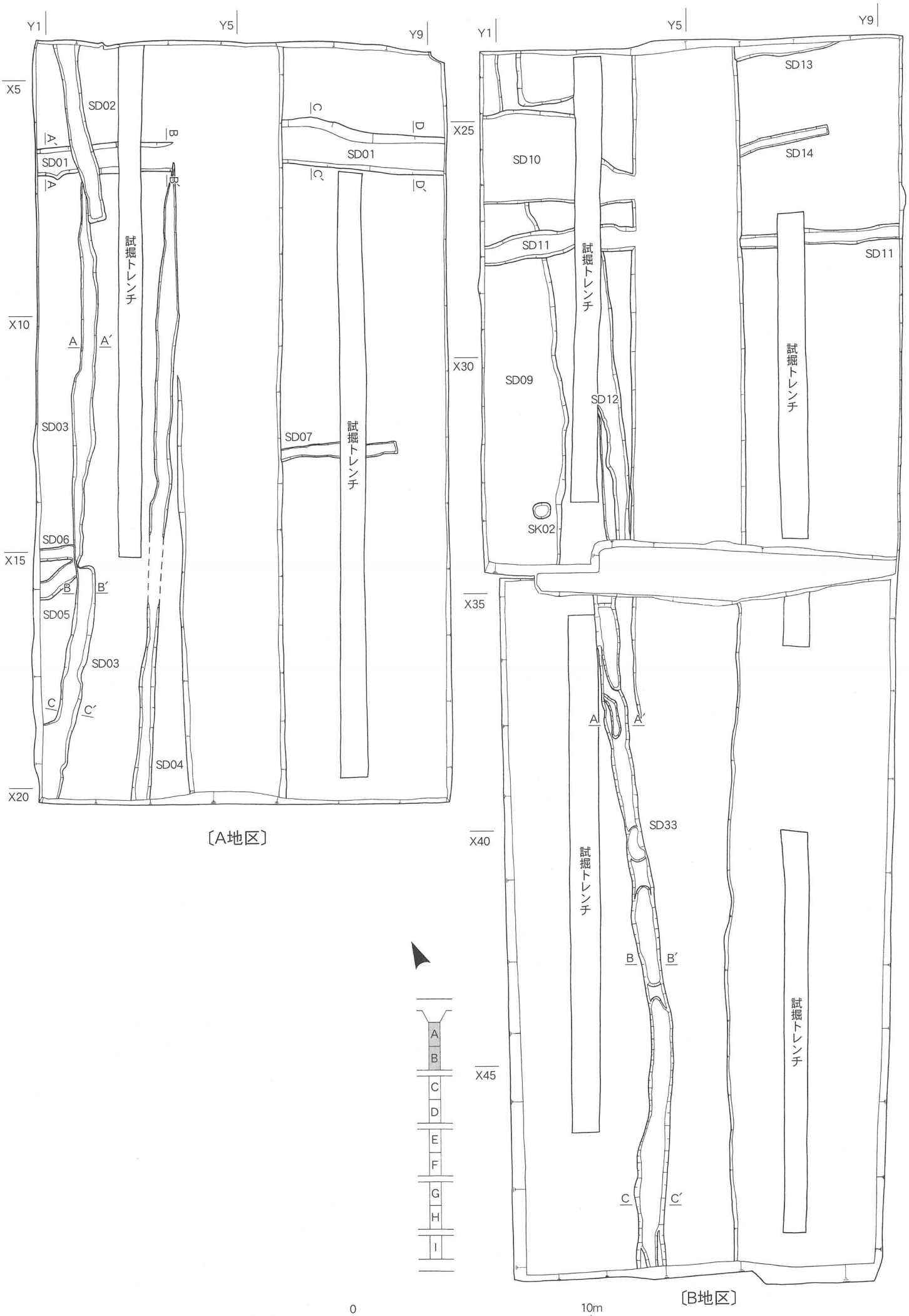
第６項　Ｆ地区

37号溝（ＳＤ37、第６・８・14図、図版16）

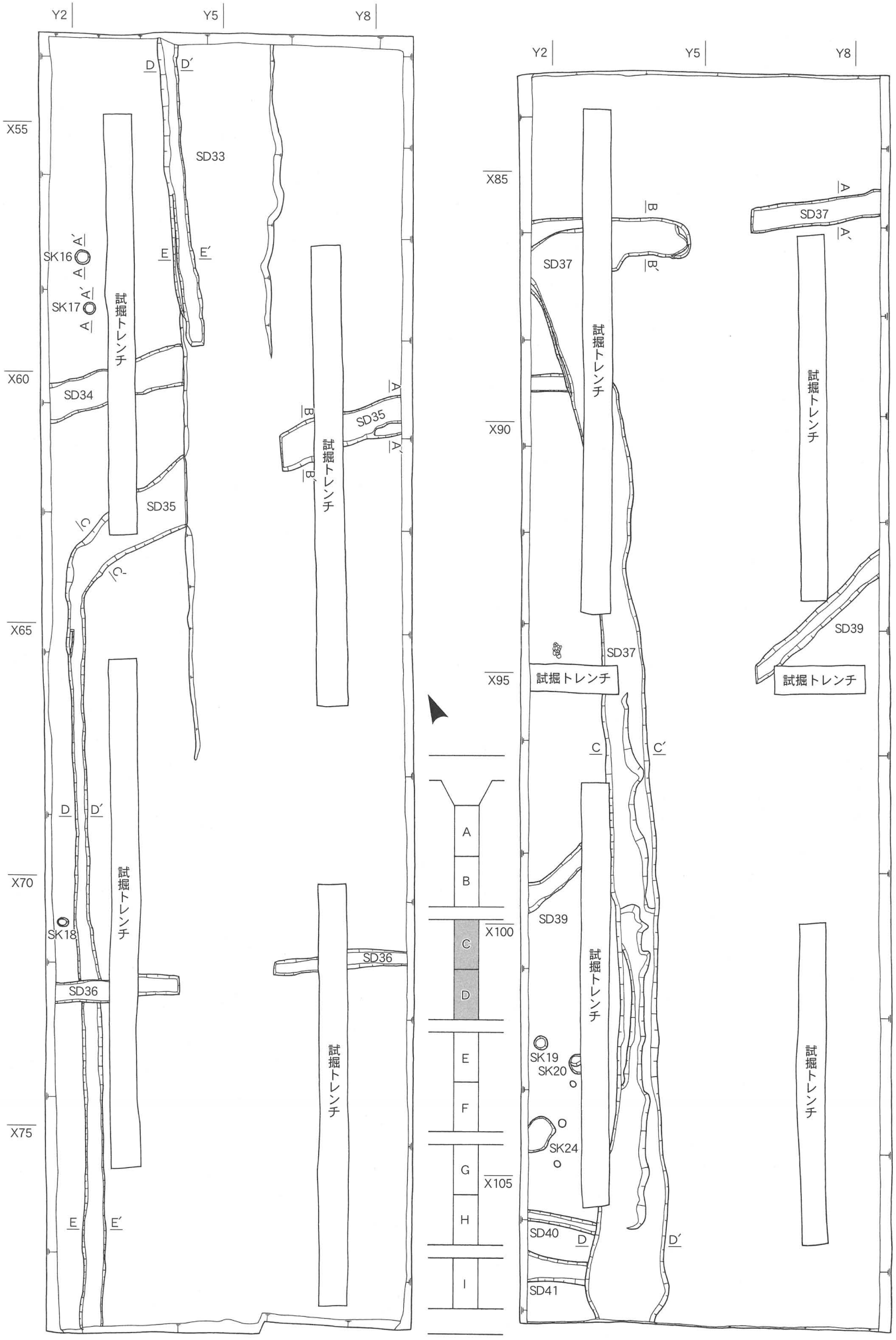
Ｆ地区の中央部に位置する南北方向に流れる溝である。Ｄ地区から伸びてきた溝も徐々に浅くなって消滅し、南端は土坑状になる。全長約22mを検出した。断面は不整形を呈し、深さは7cm～30cm。遺物は須恵器・珠洲・石製品が出土している。第14図164は勾玉未製品である。171は口径14.4cmの須恵器壷蓋、時期は８世紀後半のもの。172は珠洲甕。外面頸基部より若干下がった位置から平行叩きを施すもので、時期は13世紀中葉～後半のものである。

包含層出土遺物（第14図）

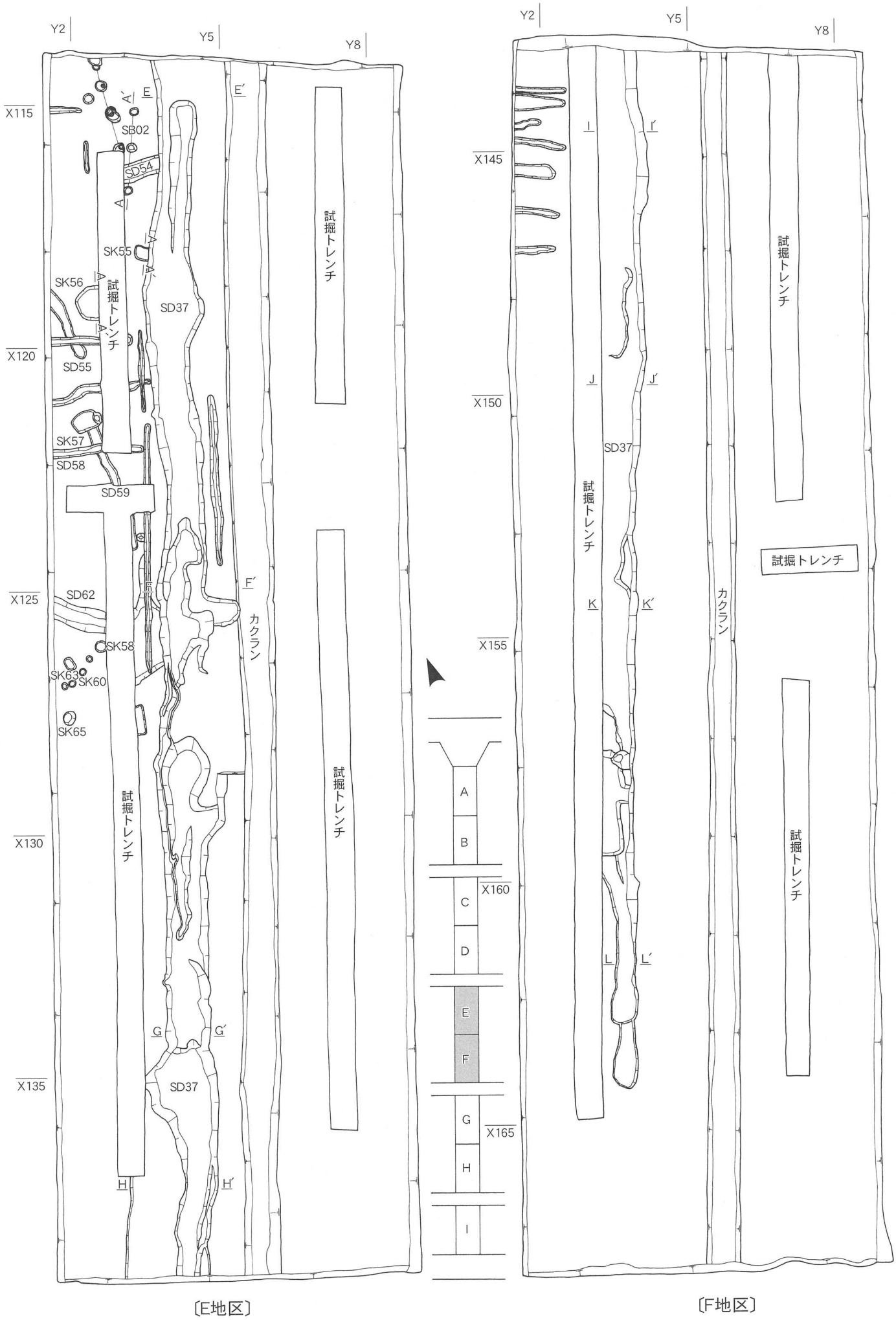
包含層からは須恵器・金属製品が出土している。第14図181は首部、182は吸口部の銅製煙管。



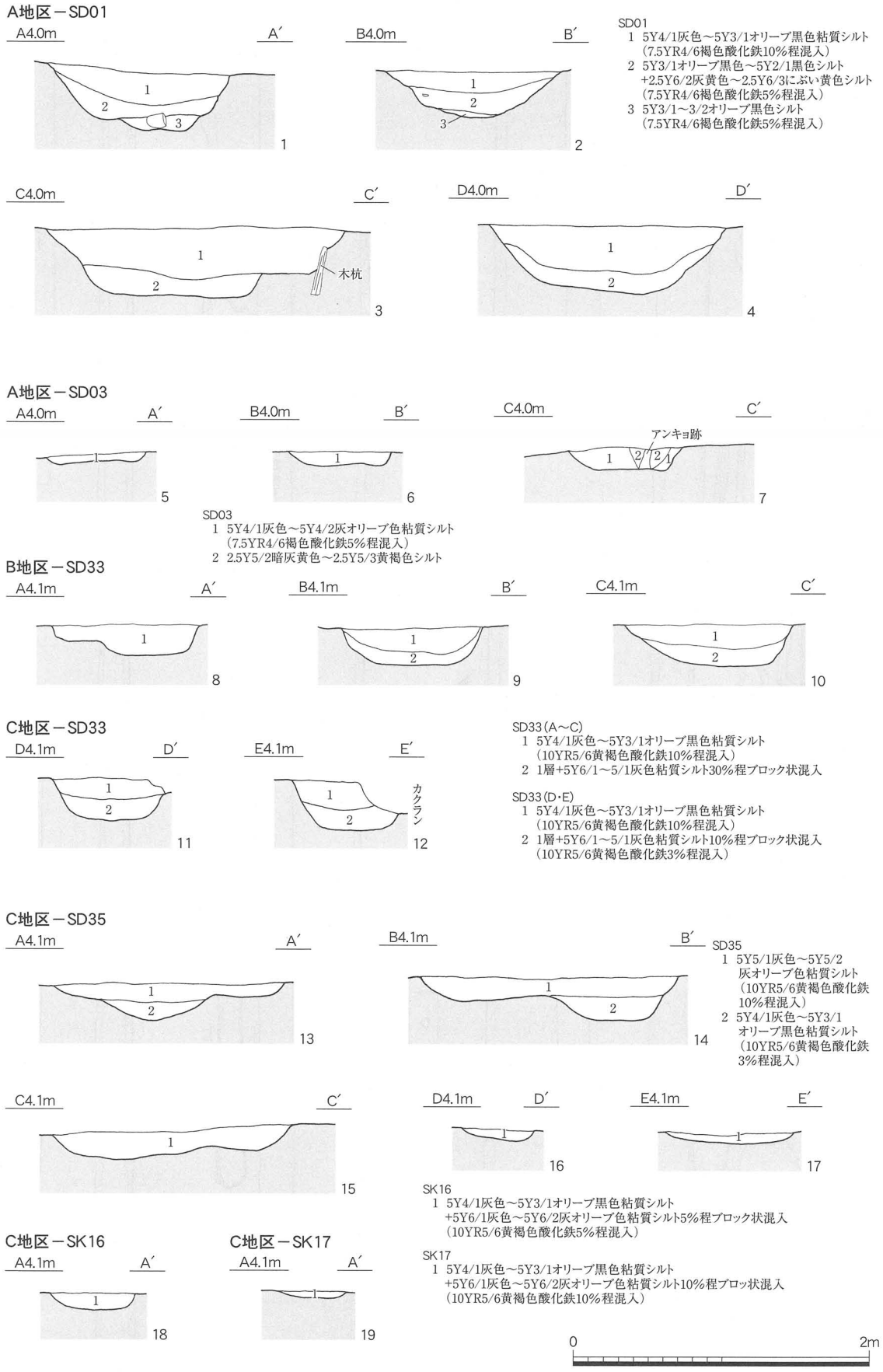
第４図　遺構実測図〔A・B地区〕（1／200）



第５図　遺構実測図〔C・D地区〕（1／200）

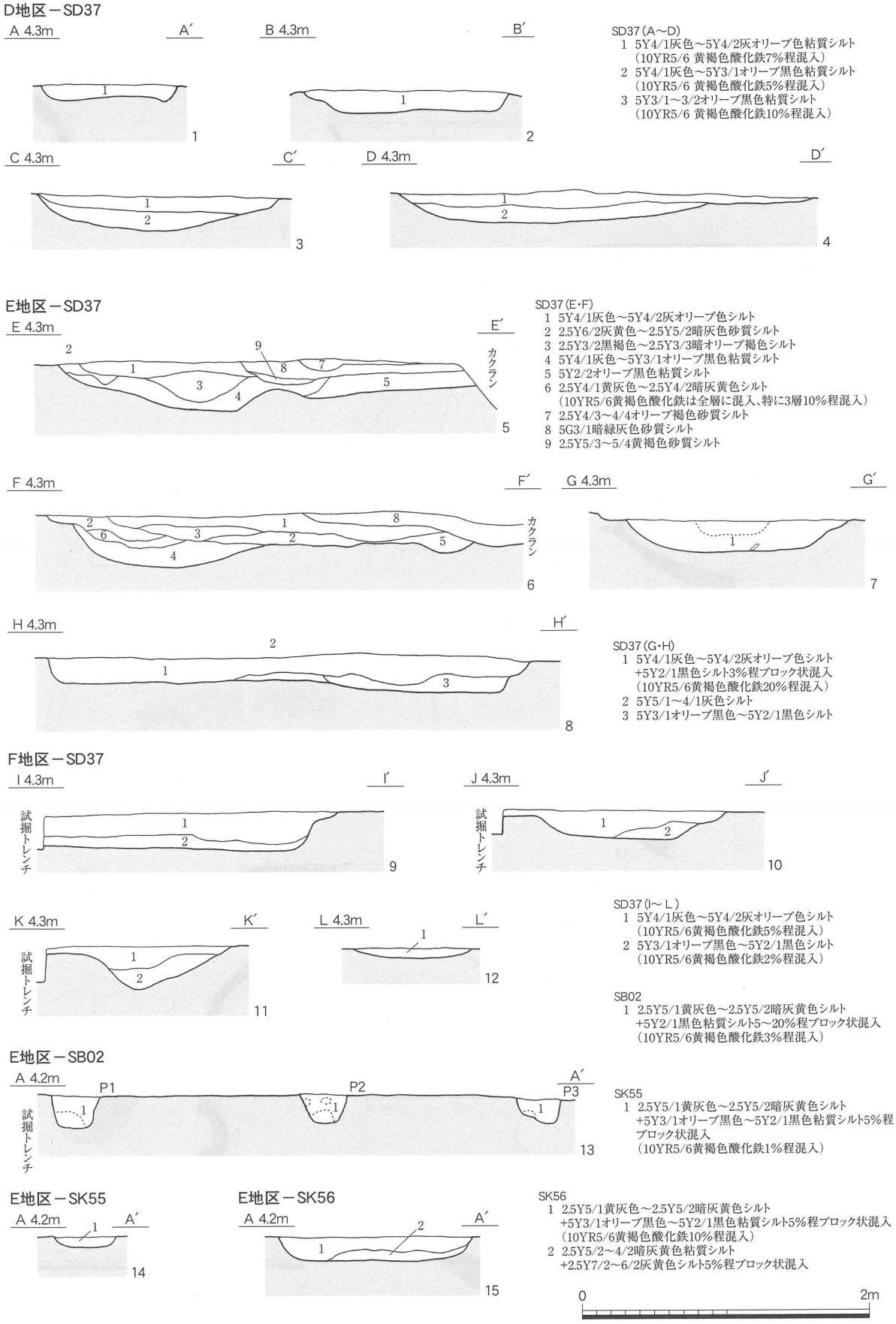


第6図　遺構実測図〔E・F地区〕(1／200)



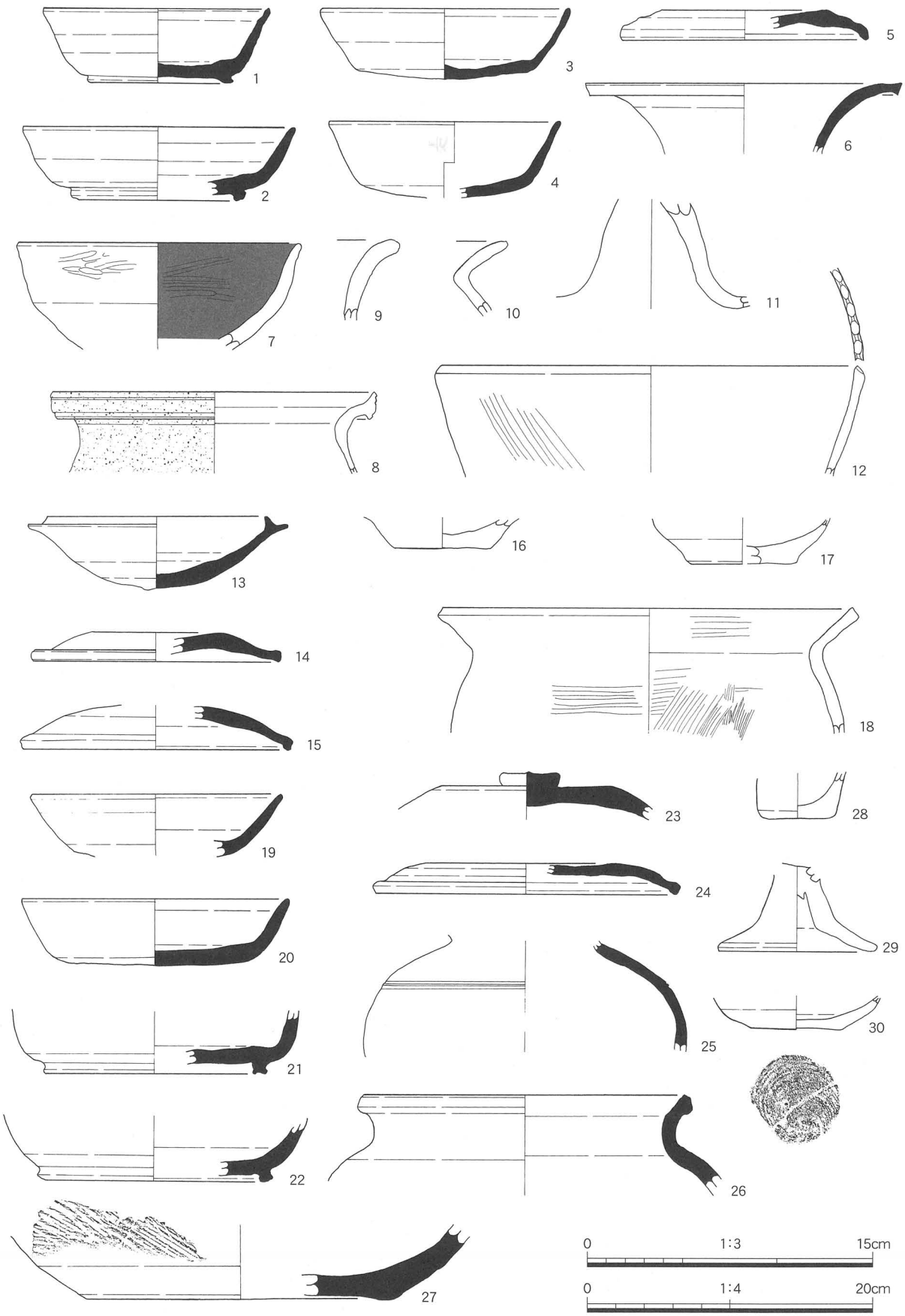
第７図　遺構実測図〔A・B・C地区〕（1／40）

A地区：SD01（1～4）　SD03（5～7）　B地区：SD33（8～10）　C地区：SD33（11・12）　SD35（13～17）
SK16（18）　SK17（19）

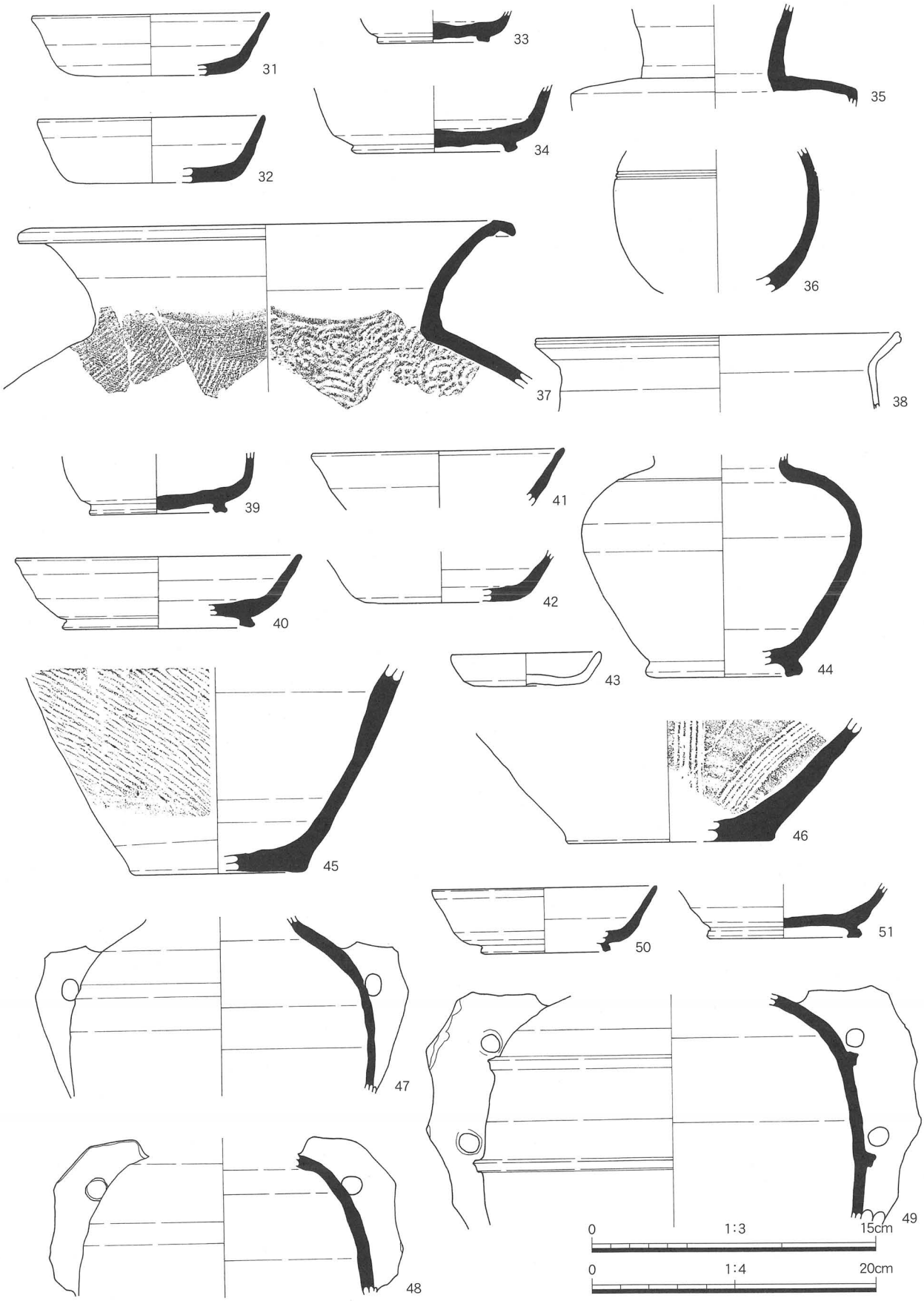


第8図　遺構実測図〔D・E・F地区〕（1／40）

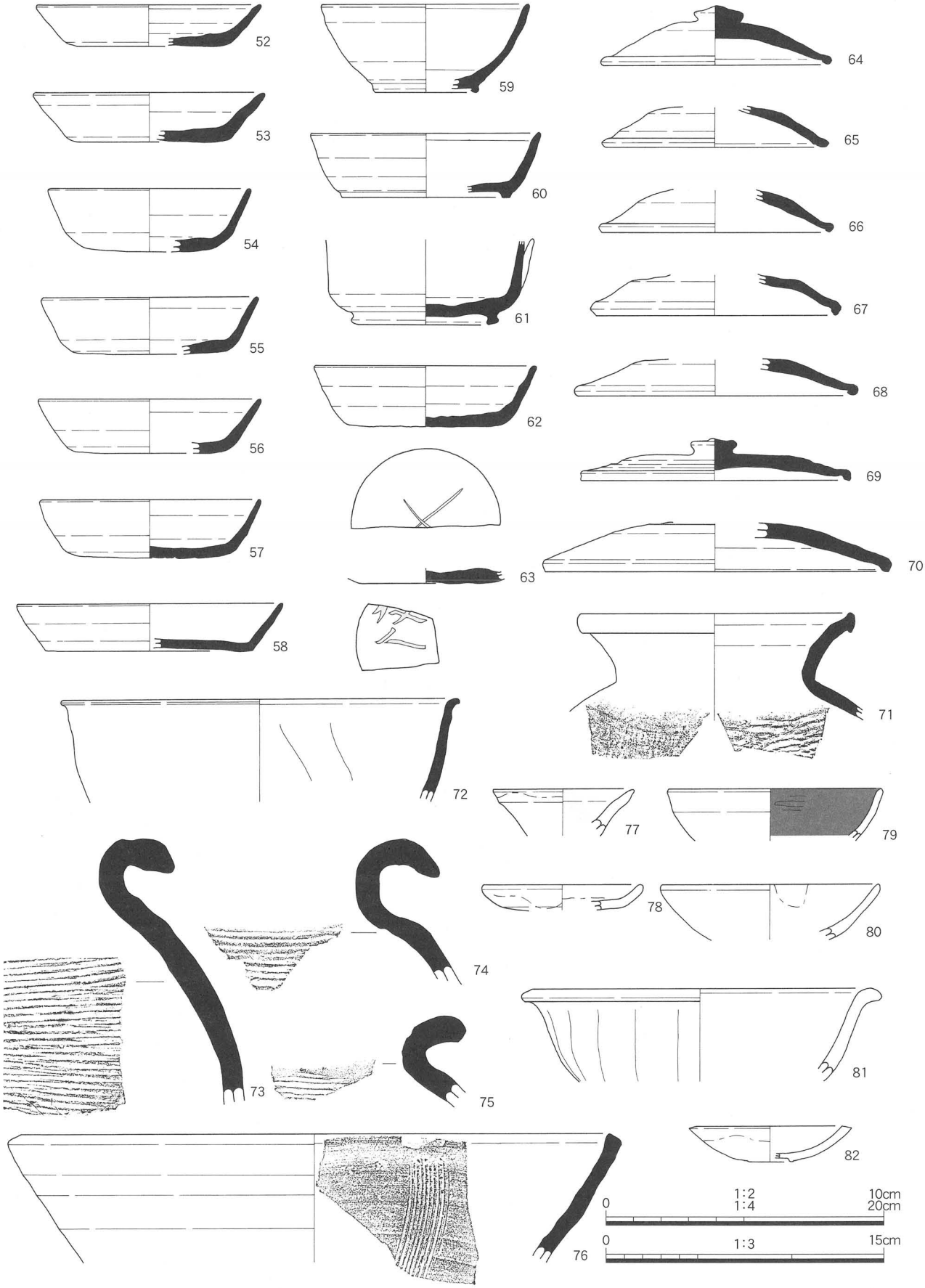
D地区：SD37（1～4）　E地区：SD37（5～8）　SB02（13）　SK55（14）　SK56（15）　F地区：SD37（9～12）



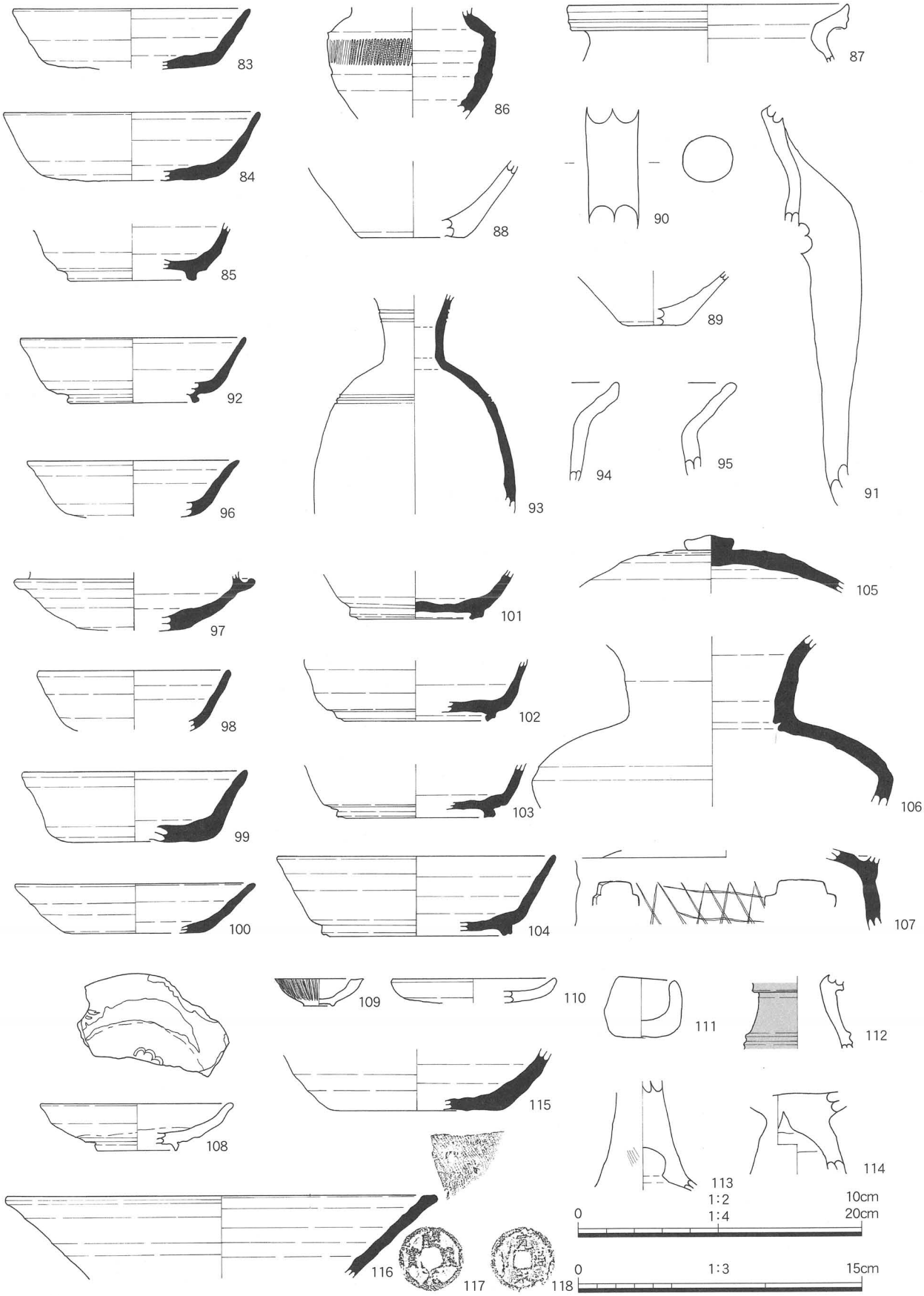
第9図　遺物実測図〔A地区〕（1～25・28～30　1／3，26・27　1／4）
SD01（1～12）　SD03（13～18）　包含層（19～30）



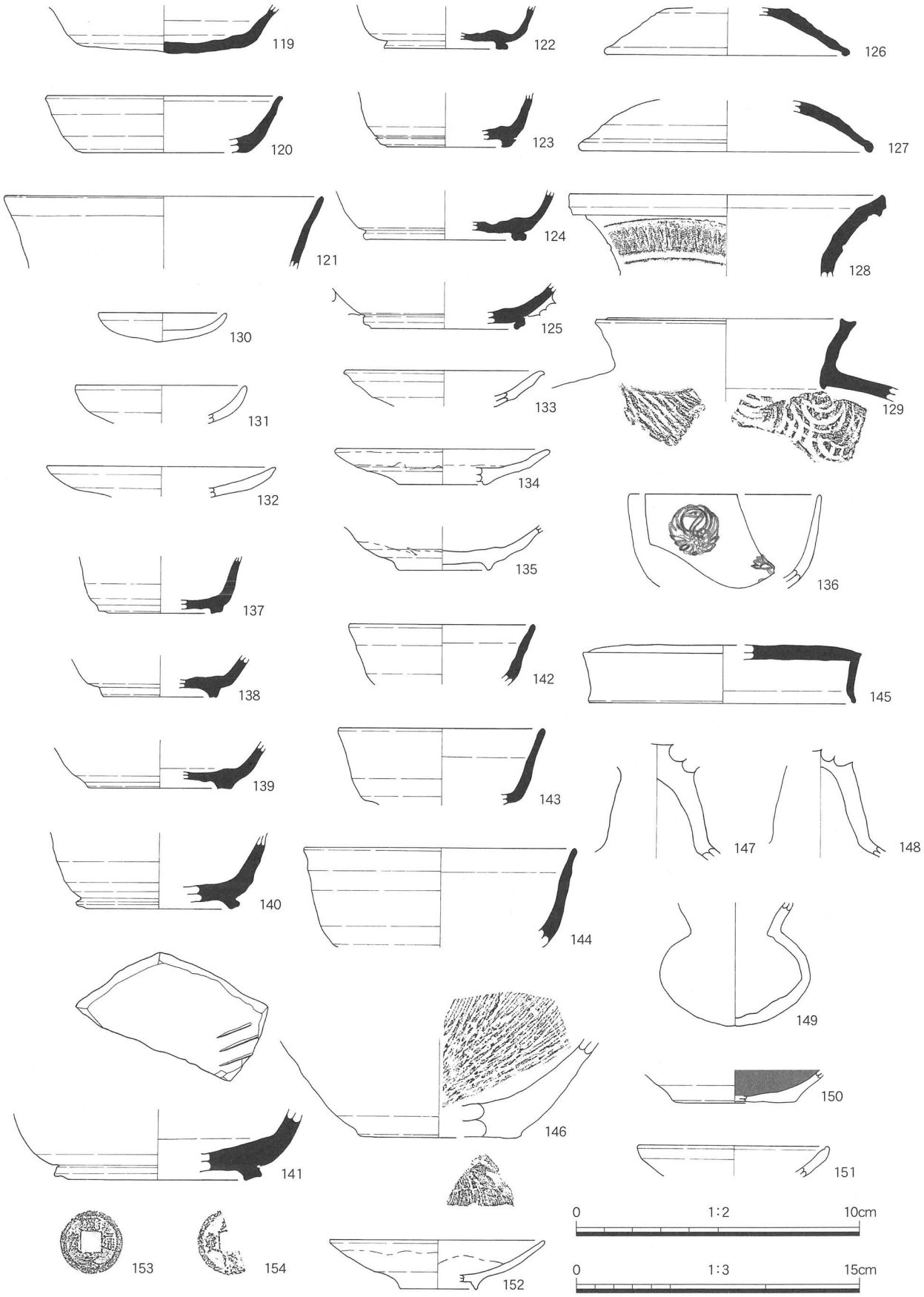
第10図　遺物実測図〔B地区〕（31～34・39～43・47～51　1／3，35～38・44～46　1／4）
SD09（31～38）　SD10（39～46）　SD33（47～51）



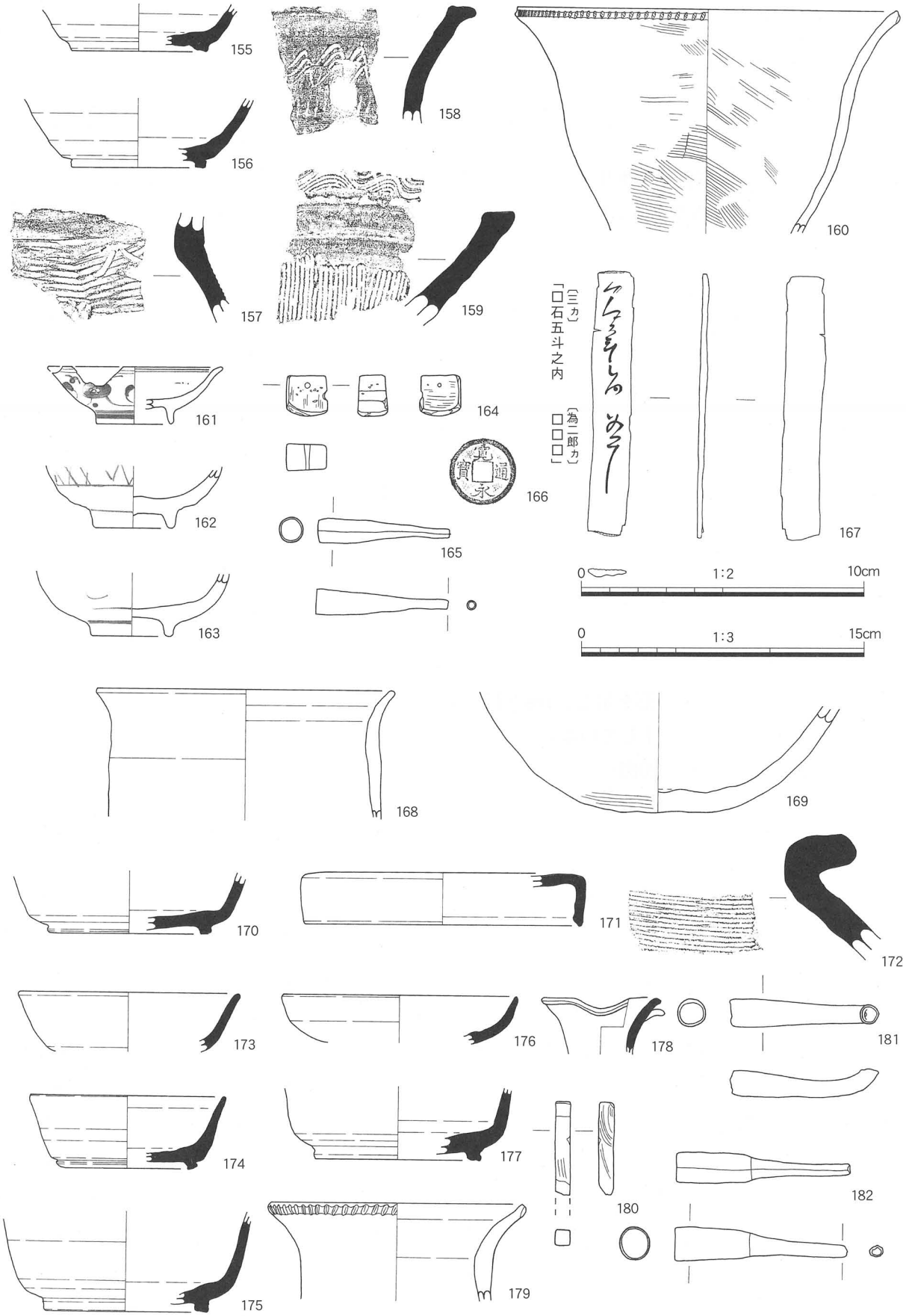
第11図　遺物実測図〔B地区〕（81・82　1／2，　52～70・73～80　1／3，　71・72　1／4）
包含層（52～82）



第12図　遺物実測図〔C地区〕（117・118　1／2，　83～114　1／3，　115・116　1／4）
SD35（83～91）　SD36（92～95）　SK18（96）　包含層（97～118）



第13図　遺物実測図〔D地区〕（153・154　1／2，119～152　1／3）
SD37（119～136）　包含層（137～154）



第14図　遺物実測図〔E・F地区〕（164～166・180～182　1／2，155～163・167～179　1／3）
E地区：SD37（155～163・165・166）　SK56（168）　SD62（169）　包含層（167・173～175・180）
F地区：SD37（164・170～172）　包含層（176～179・181・182）

第３節　遺構と遺物（下層面）

第１項　Ａ地区

18号溝（ＳＤ18、第15・20・25図、図版17）

Ａ地区の北側に位置する南北方向の幅110～190cmの溝である。全長約３ｍを検出。北端は発掘区外へ伸びるが、南端はＳＤ01に切られていることからＳＤ01より古い。断面は不整形を呈し、深さは30cmを測る。覆土は灰白色～灰オリーブ色シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器が出土している。第25図183は須恵器杯Ａである。口径11.1cm、高さ3.3cmを測り、外底面にヘラ記号が残る。

24号溝（ＳＤ24、第15・20図、図版６）

Ａ地区の南東側に位置する幅約60cmの溝である。北東－南西方向に直線的に伸び、全長約14ｍを検出。東端は発掘区外、西端はＢ区へ伸びる。断面は逆台形を呈し、深さは20cm～25cmを測る。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトである。遺物の出土はない。

包含層出土遺物（第25図、図版17）

包含層からは須恵器・土師器・珠洲が出土している。第25図192は口径13.4cm、高さ3.3cmの須恵器杯Ｂである。時期は８世紀第２四半期のもの。194は珠洲甕。外面頸基部より若干下がった位置から平行叩きを施すもので、13世紀中葉～後半のものである。196は有段口縁のもの、197は口縁部が「く」の字状に外反するもの、共に土師器甕。時期は古墳時代前期のものである。

第２項　Ｂ地区

24号溝（ＳＤ24、第15・20図）

Ｂ地区の北東側に位置する幅50cm～70cmの溝である。北東－南西方向に直線的に伸び、途中少し途切れるものの全長約23ｍを検出。東端はＡ区、西端は発掘区外へ伸びる。途中交差するＳＤ30より古い。断面は皿状ないし半円形を呈し、7cm～17cmの深さがあり、オリーブ黒色～黒色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。

30号溝（ＳＤ30、第15・20図）

Ｂ地区の北側に位置する南北溝である。直線的に伸び、ＳＤ24を横切るあたりからカーブして南東に折れる。幅50cm～100cmで、全長約27ｍを検出した。両端とも発掘区外へ伸びる。深さは14cm～24cmを測り、覆土は灰色～オリーブ黒色シルトである。遺物の出土はない。

26号土坑（ＳＫ26、第15・20・25図、図版６）

Ｂ地区の南側に位置する不整形な土坑である。規模は長軸565cm、短軸175cm、深さ約28cmである。断面は皿状を呈する。遺物は須恵器・土師器が出土している。第25図186は須恵器杯Ｂ。188は口径18.7cmを測り、有段口縁をもつ土師器甕。時期は古墳時代前期のものである。

包含層出土遺物（第25図、図版17・31）

包含層からは須恵器・土師器・中世土師器・土製品・金属製品が出土している。第25図198～200は須恵器杯Ａ。198は底部ヘラ切り後未調整、焼成不良である。203は６世紀代の須恵器瑳か。外面に暗緑色自然釉がかかる。204～206は須恵器杯Ｂ蓋である。206は口径17.0cmを測り、やや背の高い擬宝珠形のつまみをもつ。208は土師器の器台脚部で内外面赤彩されている。209～211は非ロクロ成形の中世土師器皿。212・213は管状土錘。214～216は銅銭。214は北宋時代の渡来銭で大観通寶（初鋳1107年）。他は寛永通寶であり、一文銭で背無文。

第３項　Ｃ地区

47号溝（ＳＤ47、第16・20・26図、図版６）

Ｃ地区の中央部に位置する東西方向の幅60～120cmの溝である。全長約16ｍを検出。両端とも発掘

区外へ伸びる。断面は皿状を呈し、深さは10cm程度と浅い。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器が出土している。第26図217は須恵器杯Ａである。内底面にヘラ記号が残る。219は有段口縁の土師器甕である。

32号土坑（ＳＫ32、第16・20・26図）

ＳＤ47の北側に位置する不整形な土坑である。途中カクランにより分断されるが、規模は長軸550cm、短軸120cm、深さ約30cmである。断面は逆台形を呈し、灰色～オリーブ黒色シルトが主体的に堆積する。遺物は須恵器（杯・蓋）・珠洲甕が出土している。

40号土坑（ＳＫ40、第16・26図、図版18）

Ｃ地区の中央部に位置する楕円形土坑である。ＳＤ47と重なるが前後関係は不明。規模は長軸300cm、短軸110cm、深さ約14cmである。遺物は弥生土器が出土している。第26図220は弥生土器の高杯か。221は弥生土器甕で、口径14.4cmを測る。擬凹線文を施す口縁部は、横ナデにより口唇面を形成し、上下へつまみ上げたようになる。外面は縦方向の刷毛目調整で下半に煤が付着している。時期は弥生時代後期後半のものである。

１号井戸（ＳＥ01、第16・20図、図版４）

Ｃ地区の北西側に位置する。掘形の平面が円形を呈する素掘井戸である。掘形の断面は下部がやや開くが、上部は円筒状を呈する。規模は直径約65cm、深さ65cmである。遺物は土師器が出土。

包含層出土遺物（第26図、図版18・19）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器・土製品が出土している。第26図229は脚部に円孔をもつ弥生時代後期の器台。234～236は土師器甕。236は口径17.3cmの「く」の字甕で、外面が刷毛目調整。242は底部外面に墨痕が残る須恵器杯Ｂである。244は須恵器高杯。脚部に長方形の透かしがあり、時期は６世紀後半～７世紀前半のものか。246は管状土錘。249・250は土師器甕の底部で、ヘラ切り痕が未調整である。252・253は弥生土器の長頸壺。255は頂部を平たく柱状に仕上げた土師器蓋。時期は古墳時代前期のものである。256は甕を祖形とするミニチュア土器。259は弥生土器の器台脚部で、外面に赤彩が施される。円孔が横並び２穴１組で２箇所、時期は弥生時代後期のもの。

第４項　Ｄ地区

48号溝（ＳＤ48、第16・28図、図版６）

Ｄ地区の中央部に位置する南北溝である。幅70～100cm、全長約40ｍを検出。両端とも徐々に浅くなって消滅し、土坑状になる。遺物は須恵器・土師器が出土している。第28図261は口径22.0cmの須恵器甕である。263は内面黒色処理された土師器椀。

51号溝（ＳＤ51、第16・20・28図、図版６・20）

Ｄ地区の南端部に位置する南北溝である。幅50～115cm、全長約7.5ｍを検出。両端とも発掘区外へ伸びる。途中交差するＳＤ50より古い。断面は逆台形ないし半円状を呈し、深さは27～37cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが主体的に堆積する。遺物は弥生土器・土師器が出土している。第28図265～267は弥生土器。265は壺の頸部である。外面に櫛描横線文・短線文が廻り、時期は弥生時代中期のもの。266は壺か甕の口縁部で、口端部内面に櫛描羽状文が２条廻る。267は無頸壺。口径9.0cm、口端部外面に櫛描羽状文が1.5条廻る。弥生時代中期後半のものである。

包含層出土遺物（第28図、図版20）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器・珠洲が出土している。第28図274は3.2cm幅に卸目11条の珠洲擂鉢である。幅広で溝の深い原体により、間隔をあけながら卸目が施されている。13世紀中葉～14世紀第３四半期のものである。275は８世紀代の須恵器甕の口縁部である。口径45.0cmで口頸部に

断面三角形の凸帯を廻らし、その下に櫛描波状文が施される。277は弥生土器甕。口端部の内面に３条の櫛描短線文、外面に櫛描刻み目文が廻る。時期は弥生時代中期のものである。

第５項　Ｅ地区

70号溝（ＳＤ70、第17・31図、図版23）

Ｅ地区の北西隅に位置する幅90～130cmの溝である。全長約4mを検出。両端とも発掘区外へ伸びる。断面は皿状で浅く、深さ約10cmである。遺物は弥生土器が出土している。第31図321は口端部内面に２条、外面頸部やや下に２条の櫛描短線文をもつ弥生土器の甕である。胴部外面に煤が付着している。時期は弥生時代中期のもの。

71号溝（ＳＤ71、第17・21・31図、図版７・10・23）

Ｅ地区の南西側に位置する東西溝である。幅140～250cmで、全長約５mを検出。ＳＤ72と平行に伸び、西端は発掘区外へ伸びる。断面は逆台形を呈し、深さ25～30cmである。覆土に炭化物が混入する。遺物は弥生土器が出土している。第31図325は弥生土器壷。口端部内面、胴上部外面に櫛描短線文、口端部外面に櫛描刻み目文をもつ。弥生時代中期のものである。

72号溝（ＳＤ72、第17・21・31図、図版７・10・23）

Ｅ地区の南西側に位置する東西溝である。幅150～180cmで、全長約5.3mを検出。ＳＤ71と平行に伸び、西端は発掘区外へ伸びる。東端はＳＤ74に切られていることからＳＤ74より古い。断面は逆台形を呈し、深さ約35cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色シルトが主体的に堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第31図327は口径14.5cmの弥生土器の甕である。口端部は内面に1.5条の櫛描羽状文、外面に櫛描刻み目文が廻る。胴部外面に煤が付着している。弥生時代中期のもの。

73号溝（ＳＤ73、第17・21・30図、図版７・23・31）

Ｅ地区の中央部に位置する南北溝である。旧用水のカクランにより西側の溝肩が不明瞭である。全長約36mを検出。南端はＦ区へ伸びる。断面は概ね皿状を呈し、深さ25～38cmである。覆土は褐灰色～灰黄褐色シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器・中世土師器・石製品・金属製品が出土している。第30図312・313は土師器甕の口縁部である。端部を巻き込む形態のもので、９世紀代のもの。314は非ロクロ成形の中世土師器皿。内底面に煤が付着している。319はヒスイの勾玉である。320は唐時代の渡来銭で開元通寶（初鋳621年）である。

76号土坑（ＳＫ76、第17・21・29図、図版４・７・21）

Ｅ地区の中央部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸330cm、短軸180cm、深さ42cmで、断面は逆台形を呈する。東側底面は一部テラス状に高くなる。覆土は灰色～オリーブ黒色シルトが主体的に堆積し、炭化物が混入する。遺物は弥生土器・石製品が出土している。第29図281～299は弥生土器で、時期はすべて弥生時代中期のものである。281～284は壷。282は口端部外面を波状にするもの、284は口端部に櫛描羽状文を廻らす貼付突帯をもつものである。285・286は口端部に櫛描羽状文を廻らす無頸壷。291～297は甕。291～294は口端部外面に櫛描刻み目文を廻らすもの、295～297は素文のものである。293は口端部内面に２条の半截竹管状の鋸歯文が廻る。294は底部が穿孔されている。ほぼ完形であり、外面は煤が付着している。298は口径18.2cmの台付鉢か。300は砥石。長さ26.4cm、幅17.0cm、厚さ4.9cmで、断面が長方形である。

81号土坑（ＳＫ81、第17・21・30図、図版10・11・22）

Ｅ地区の中央やや北側に位置する土坑である。旧用水のカクランのため、正確な外形は不明。断面は逆台形を呈し、深さは約34cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色シルトが主体的に堆積し、炭化物が混入する。遺物は弥生土器が出土している。第30図301～311は弥生土器で、時期はすべて弥生時代

中期のものである。301～305は壷の口縁部。301は外面に1.5条の櫛描羽状文が廻り、その上に縦１条の貼付突帯が付く。垂下部は波状になる。303は口端部内面に４条の櫛描短線文、その上に円形浮文、外面に櫛描刻み目文を廻らすものである。305は口端部外面に櫛描交差文が廻る。310は頸部と胴部外面にヘラ描横線文・縄文・ヘラ描波状文が廻る壷である。東日本に系譜をもつものか。

90号土坑（ＳＫ90、第17・31図、図版４）

Ｅ地区南西部、ＳＤ72の南側に少し離れて位置する楕円形土坑である。規模は長軸150cm、短軸100cm、深さ28cmで、断面は半円状を呈する。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第31図322は口径13.2cmの弥生土器壷の口縁部である。口端部外面に櫛描交差文が廻り、時期は弥生時代中期のもの。

包含層出土遺物（第31図、図版23・31）

包含層からは弥生土器・須恵器・珠洲が出土している。第31図330～333は須恵器杯Ｂ。336は須恵器長頸壷である。口縁部が外反して端部を上方につまみ上げるもの。337は珠洲擂鉢。内面に印花文が叩打されている。時期は13世紀中葉～14世紀第３四半期のものである。

第６項　Ｆ地区

73号溝（ＳＤ73、第17・22・32図、図版７・８・31）

Ｆ地区の中央部に位置する南北溝である。幅320～650cmで、全長約49ｍを検出。北端はＥ区、南端はＧ区へ伸びる。途中で東西方向に分岐し、発掘区外へ東流する溝と流路が分かれる。断面は不整形を呈し、最深で約160cmである。覆土には植物遺体の混入がみられ、溝底にクリ・ヒノキなどの自然流木も堆積している。遺物は須恵器・土師器・中世土師器・珠洲・石製品・金属製品・瓦・動物の歯が出土している。第32図342・343は須恵器杯Ｈ身。342は口径11.4cmを測り、受け部が内傾気味に立ち上がる。時期は７世紀前半のものである。344～346は須恵器杯Ａ。350は櫛描波状文を廻らす須恵器甕の口縁部。352～354は珠洲。353は1.9cm幅に卸目８条の珠洲擂鉢。13世紀中葉～14世紀第３四半期のものである。357・358は土師器高杯の脚部。358は円形の透かしが４箇所穿孔されている。時期は古墳時代前期のもの。361・362は中世土師器皿。363・364は凹基式の打製石鏃である。365は北宋時代の渡来銭で紹聖元寶（初鋳1094年）。366は平瓦か。図版31－１は馬歯か。

80号溝（ＳＤ80、第17・22・33図、図版24）

Ｆ地区の中央やや南側に位置する東西溝である。幅70～120cmで、全長約５ｍを検出。西端は発掘区外へ伸び、東端はＳＤ73に切られる。断面は不整形を呈し、深さ10～15cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色シルトが堆積する。遺物は須恵器・土師器・珠洲・土製品が出土している。第33図368・369は７世紀前半の須恵器杯Ｈ身である。372は土師器甕の口縁部。端部を巻き込む形態のもので、９世紀代のもの。373は土製紡錘車である。弥生土器片を円形に削り出し穿孔して、再利用したもの。374は口径22.2cmの珠洲壷の口縁部である。外面平行叩き、内面当て具痕を残す。

109号土坑（ＳＫ109、第17・22・33図、図版11・24）

Ｆ地区の北西部に位置する円形土坑である。規模は直径105cm、深さは86cm。断面が漏斗状を呈するため、井戸の可能性も考えられる。覆土はシルト～粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土している。第33図376～378は、胴部最大径を中位よりやや下方にもった下膨れの体部をもつ土師器壷である。時期は古墳時代前期のもの。376・377は胴部外面に煤・炭化物が付着している。378は口径12.1cmで、ほぼ完形。胴部の内外面がヘラ削りで、外面上部に刷毛目調整を施している。

包含層出土遺物（第33図、図版24）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器が出土している。第33図380は須恵器杯Ｂ。底部外面に

「波」の墨書が残る。381～385は弥生土器である。381は壷の口縁部。口端部内面に櫛描刻み目文を廻らす、弥生時代中期のもの。383は口径20.8cmの甕。口端部内面に櫛描刻み目文が廻る。386は「く」の字口縁の土師器甕。外面に煤が付着し、時期は古墳時代前期のもの。387は土師器高杯の脚部。

第７項　Ｇ地区

73号溝（ＳＤ73、第18・23・35図、図版26・31）

Ｇ地区の東側に位置する南北方向の溝である。幅6.8～10.5m、全長約50mを検出。北端はＦ区、南端はＨ区へ伸びる。旧用水のカクランや調査区境により溝肩が不明瞭である。調査区境が一段深くなっており、中央部やや西側が浅く平坦面を呈している。そこは、人為的に掘削されたというよりも、自然にオーバーフローして流れた跡のように、ＳＤ73より古い溝が溝底より検出される。深さは最深で約80cm、覆土はシルト～粘質シルトである。遺物は弥生土器・須恵器・土師器・珠洲・中世土師器・伊万里・越中瀬戸・金属製品が出土している。第35図409は口端部内面に４条の櫛描短線文、外面に櫛描刻み目文をもつ弥生土器の壷である。時期は弥生時代中期のもの。413は口端部に櫛描羽状文を廻らす無頸壷。円形の透かしが横並び２穴１組で２箇所ある。417～420は非ロクロ成形の中世土師器皿。417・418は口端部内外面に煤・炭化物が付着している。416は珠洲擂鉢。421は寛永通寶であり、背波文。423は底部に糸切り痕を残す越中瀬戸の陶器皿である。

83号溝（ＳＤ83、第18・22・34図、図版８・26）

Ｇ地区の中央部やや北側に位置する溝である。幅80～360cm、全長約８mを検出。大きくカーブし、両端ともＳＤ73に切られる。断面は概ね半円状を呈し、深さ20～45cm。遺物は弥生土器が出土している。第34図404は口端部外面に櫛描刻み目文をもつ弥生土器壷。東海地方に系譜をもつものか。

89号溝（ＳＤ89、第18・22・34図、図版８・12・26）

Ｇ地区の中央部やや南側に位置する東西方向の溝である。幅140～240cm、全長約６mを検出した。西端は発掘区外へ伸びるが、東端はＳＤ73に切られていることからＳＤ73より古い。断面は皿状を呈し、深さは約20～25cmである。遺物は弥生土器が出土している。第34図402は口径7.4cmの弥生土器の無頸壷である。円形の透かしが横並び２穴１組で２箇所ある。胴部外面にはヘラ描横線文・ヘラ描刻み目文・縄文・ヘラ描波状文が廻る。弥生時代中期のもので、東日本に系譜をもつものか。

90号溝（ＳＤ90、第18・34図）

Ｇ地区の南側に位置する東西溝である。幅180～270cm、全長約５mを検出。西端は発掘区外へ伸びるが、東端はＳＤ73に切られていることからＳＤ73より古い。ＳＤ91と途中交差するが、試掘トレンチにより新旧関係は不明。遺物は弥生土器が出土している。第34図407・408は弥生土器壷。407は頸部に突帯を貼り付け、ヘラ描横線文、半截竹管状の鋸歯文が廻る。408は口径21.6cmを測り、口端部内面に２条の櫛描羽状文、外面に櫛描刻み目文が廻る。ともに弥生時代中期のものである。

91号溝（ＳＤ91、第18・24・34図、図版８・12・25・26）

Ｇ地区の南西部、ＳＤ89の南側に位置し、ほぼ直線的な南北溝である。幅80～140cmで、全長約12mを検出。北端は消滅し、南端はＳＤ73に切られる。途中でＳＤ90と交差するが新旧関係は不明。断面は逆台形を呈し、深さ46～53cmである。覆土は灰色～灰オリーブ色粘質シルトが主体的に堆積する。遺物は弥生土器・須恵器・土師器・石製品が出土している。第34図391は肥厚する口縁部外面に１条の櫛描羽状文が廻る弥生土器の鉢である。392は口径12.4cm、高さ5.2cmの須恵器杯Ｈ蓋。天頂部にはロクロ削り、内面中央は仕上げナデが施される。時期は６世紀代である。393～396は土師器の高杯。395は杯部内面に黒色処理が施される。397は凸基式の打製石鏃。398・399は土師器椀である。398は内面に黒色処理が施され、時期は６世紀前半のものか。

3号掘立柱建物（ＳＢ03、第18・23図、図版３）

Ｇ地区の北端部に位置する。北西隅の柱穴が未確認であるが、３間×１間の南北棟側柱建物と思われる。桁行4.9m、梁行2.0m、平面積は9.8m²である。主軸方向はＮ－11°－Ｅである。柱穴は直径40～55cmの円形・楕円形を呈し、深さ10～50cmを測る。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。全ての柱穴に柱根が残る。第23図Ｐ4の柱根は長さ約70cmが遺存し、上部は腐食によってやせ細る。多角に面取りされた心去り材で、直径は約17cmを測る。小口面は多方面から斜め方向の切り込みが入る。樹種はスギである。柱穴からの出土遺物はない。

第８項　Ｈ地区

１号土器溜り（ＳＸ01、第18・36・37図、図版12・27・28・29）

Ｈ地区の中央部やや西側、ＳＤ97の北側一帯に拡がる凹地状のものである。遺物は弥生土器・土師器が出土している。第36図429・430は土師器の蓋。つまみ部分がやや凹み、頂部を小さく柱状に仕上げている。430は裾部径12.1cmである。431～443は土師器甕。有段口縁のもの、口頸部が「く」の字状に外反するものがある。胴部外面が刷毛目、内面はヘラ削りやナデで調整している。殆どの器壁に煤が付着。第37図444・445は土師器高杯。445は口径20.6cm、内外全面に赤彩を施し、脚部に円形の透かしが４箇所穿孔されている。446～450は土師器の器台。450は口径20.1cm、脚部外面に赤彩を施し、脚部３箇所・杯部４箇所に円形の透かしが穿孔されている。451・452は底部に穿孔を施す土師器有孔鉢である。453・454は土師器壷。453は「く」の字状口縁、454は有段口縁のものである。455は弥生時代終末期の壷。ほぼ完形で、底部に煤が付着している。

73号溝（ＳＤ73、第18・24・38図、図版13・30・31）

Ｈ地区の東側に位置する南北方向の溝である。幅4.0～10.0m、全長約50mを検出。北端はＧ区、南端はＩ区へ伸びる。途中で東西方向に分岐し、発掘区外へ東流する溝と流路が分かれる。断面は皿状を呈し、最深で約50cmである。オーバーフローして流れていた為か、ＳＤ73より古い時期の遺構が溝底より検出される。覆土はシルト～粘質シルト。遺物は弥生土器・須恵器・土師器・中世土師器・石製品・金属製品が出土している。第38図462・463は永楽通寶（初鋳1408年）。465は板石塔婆、466は五輪塔水輪。最大径が胴部中央にあり、梵字「バン」を刻印。14世紀末～15世紀前半のもの。

97号溝（ＳＤ97、第18・24・38図、図版８・30）

Ｈ地区の中央部に位置する東西方向の溝である。幅170～250cm、全長約６mを検出した。西端は土坑状になり消滅するが、東端はＳＤ73に切られていることからＳＤ73より古い。断面は皿状を呈し、深さは約25～30cmである。覆土は灰色～オリーブ黒色粘質シルトが主体的に堆積し、植物遺体も混入する。遺物は弥生土器が出土している。第38図467は口径15.0cmの弥生土器壷。口端部内面に３条の櫛描短線文、外面に櫛描刻み目文が廻る。頸・胴上部外面は櫛描短線文、櫛描横線文が交互に廻る。468は口端部を厚くして櫛描羽状文を施す弥生土器の鉢。ともに弥生時代中期のもの。

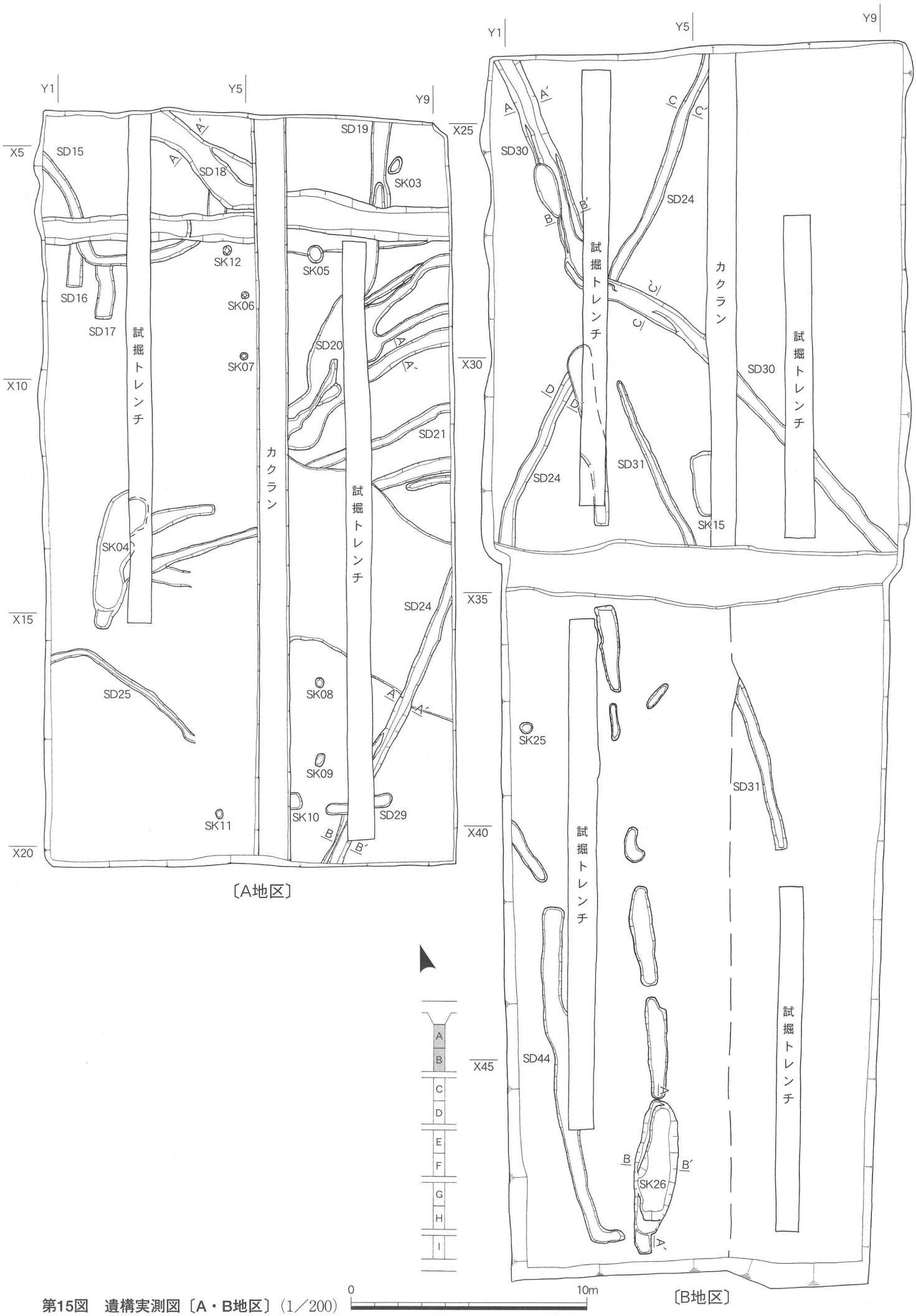
151号土坑（ＳＫ151、第18・38図、図版30）

Ｈ地区の北東部、ＳＤ73のテラス上に位置する円形土坑である。規模は直径65cm、深さ10cmで、断面は皿状を呈する。遺物は弥生土器が出土している。第38図469は弥生時代中期の甕である。

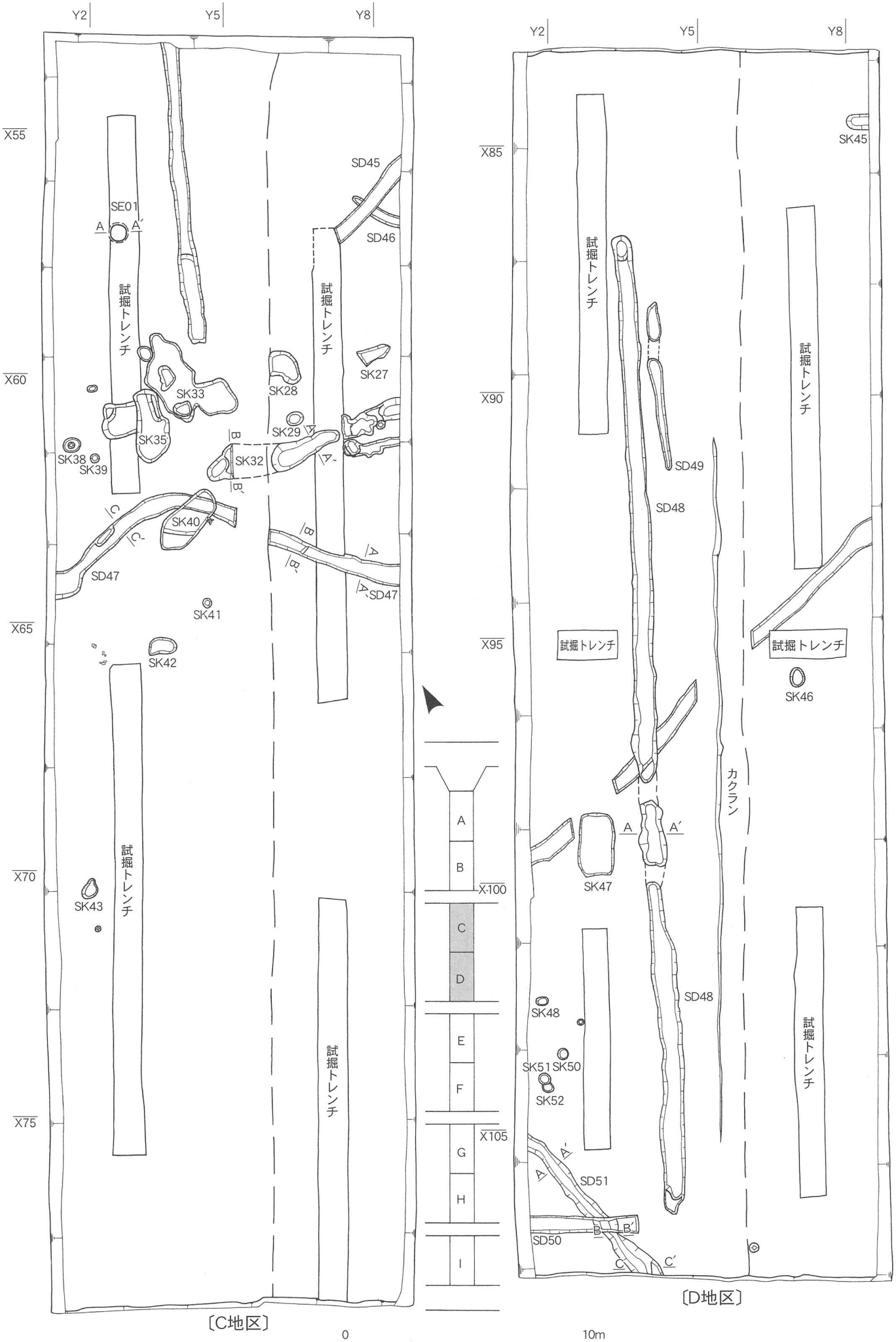
第９項　Ｉ地区

168号土坑（ＳＫ168、第19図）

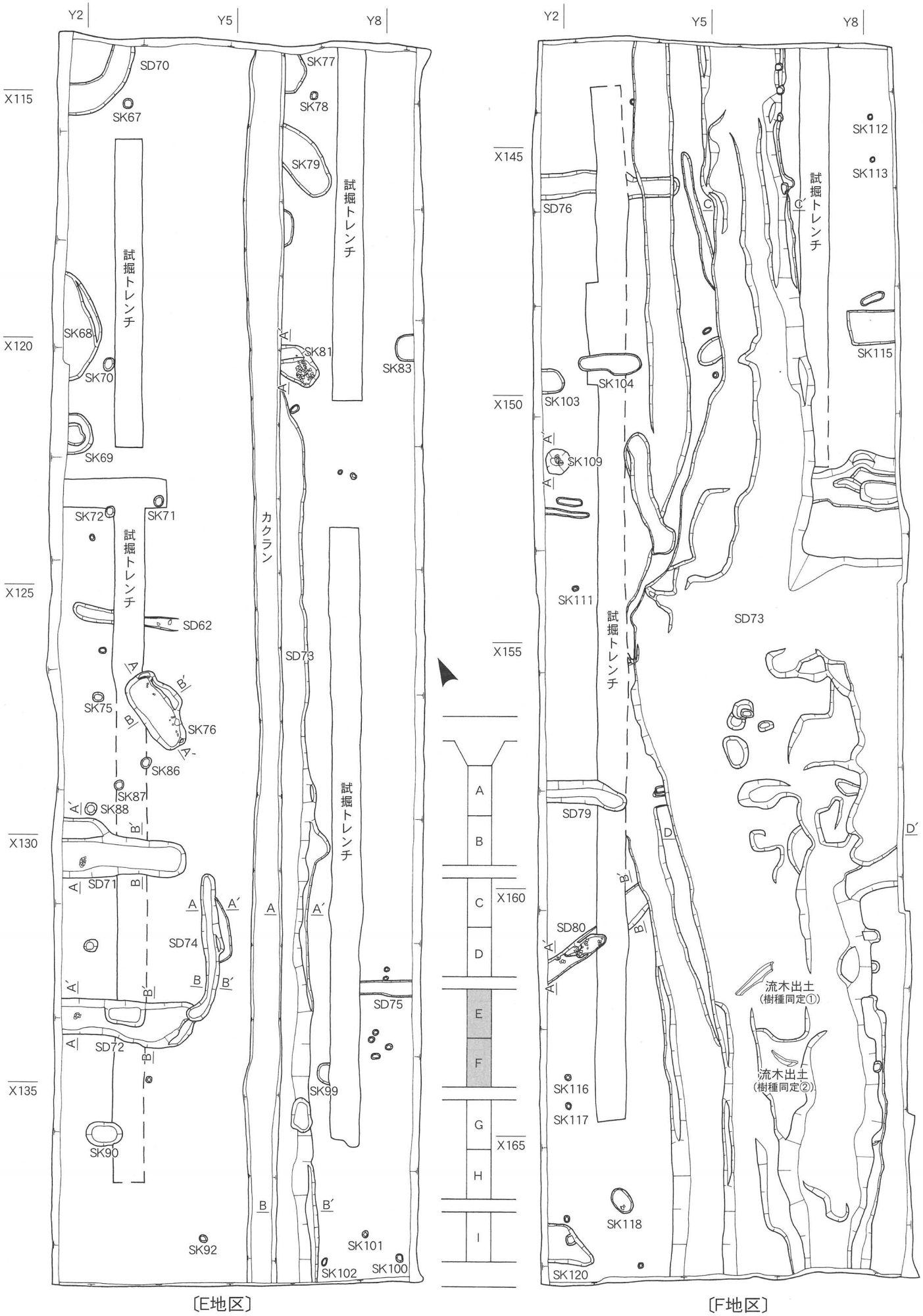
Ｉ地区の南西部に位置する不整楕円形の土坑である。規模は長軸280cm、短軸205cm、深さは約40～56cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は灰色～灰オリーブ色シルトが堆積し、炭化物が混入する。遺物は土師器が出土している。



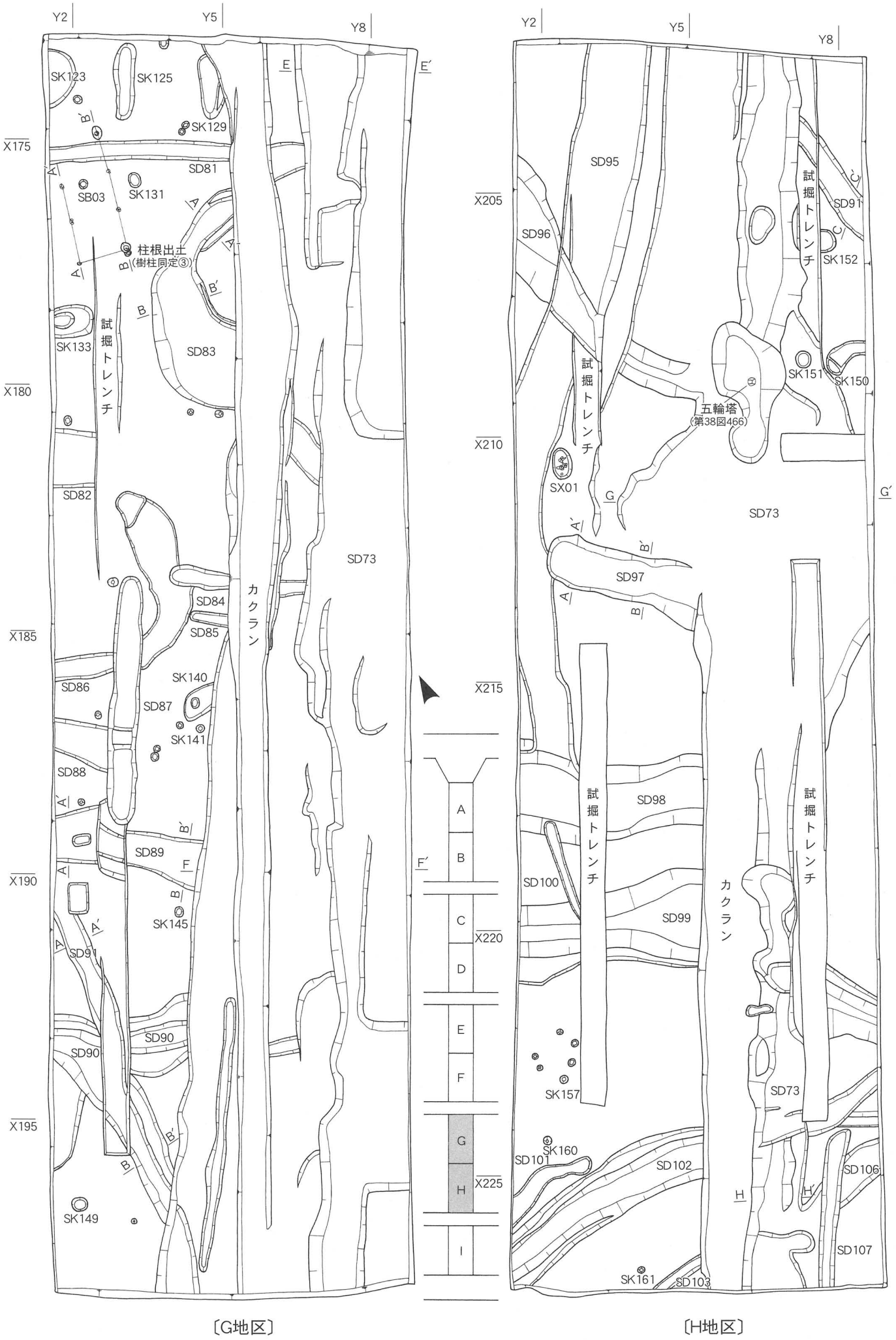
第15図　遺構実測図〔A・B地区〕(1／200)



第16図　遺構実測図〔C・D地区〕（1／200）



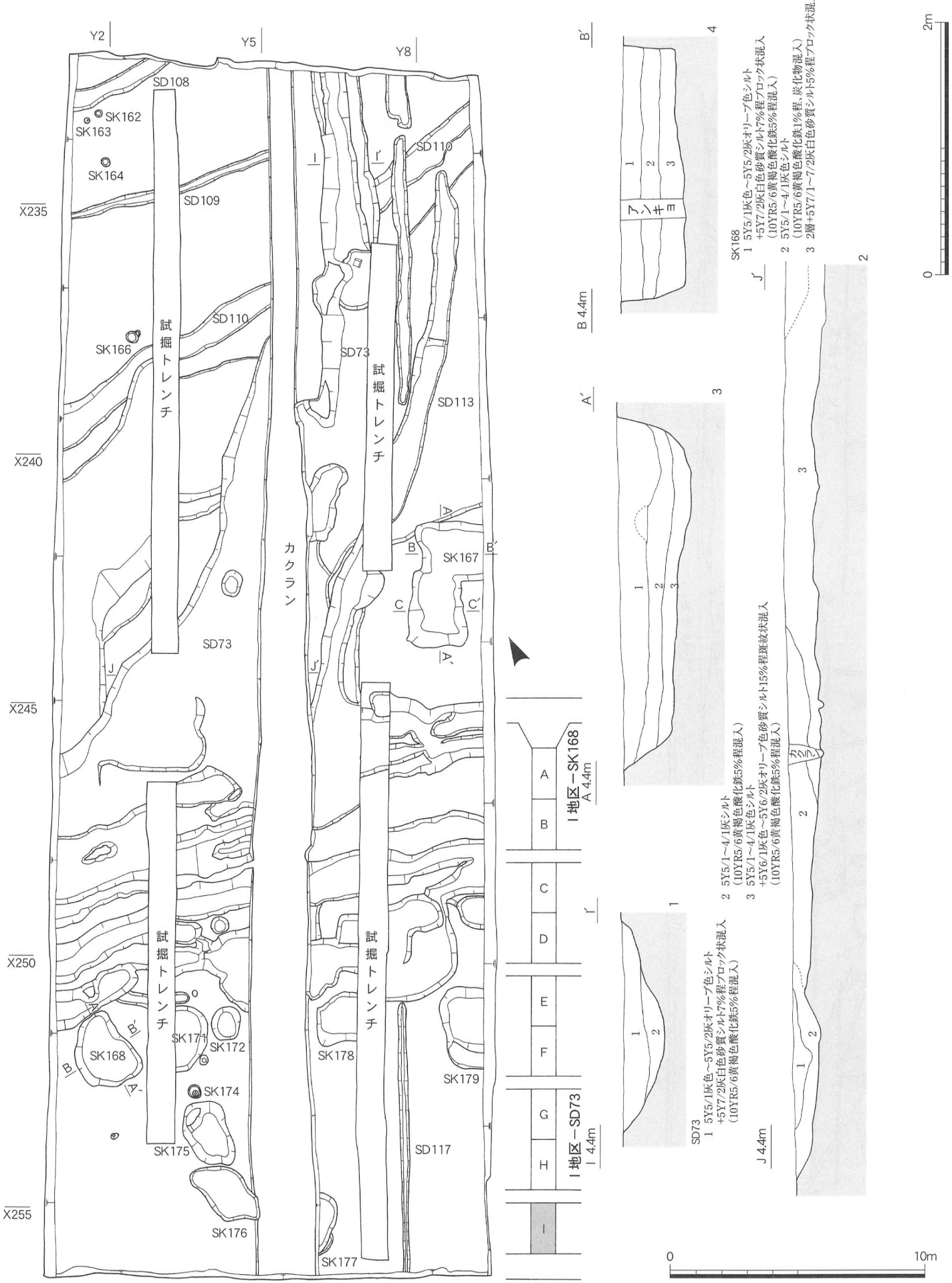
第17図　遺構実測図〔E・F地区〕(1／200)



〔G地区〕　〔H地区〕

第18図　遺構実測図〔G・H地区〕（1／200）

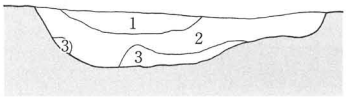
0　10m



第19図　遺構実測図〔I地区〕（1／200，断面図1／40）
I地区：SD73（1・2）　SK168（3・4）

A地区－SD18

A 3.9m　A′



1

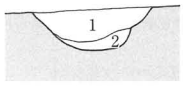
SD18
1 5Y4/1灰色粘質シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入）
2 1層+5Y7/2灰白色～5Y6/2灰オリーブ色シルト5%程底部に混入
3 5Y7/2灰白色～5Y6/2灰オリーブ色シルト

SD24（A・B）
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄1%程混入）
2 7.5GY6/1～5/1緑灰色シルト

SD24（C・D）
1 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色粘質シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程混入）

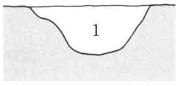
A地区－SD24

A 3.9m　A′



2

B 3.9m　B′



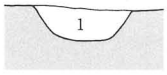
3

B地区－SD24

C 3.9m　C′

4

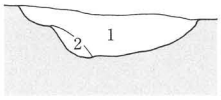
D 3.9m　D′



5

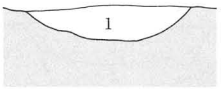
B地区－SD30

A 3.7m　A′



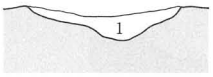
6

B 3.7m　B′



7

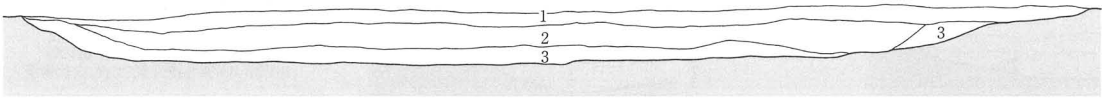
C 3.7m　C′



8

B地区－SK26

A 3.9m　A′

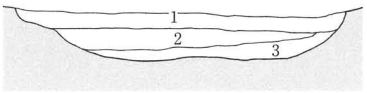


9

SD30
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
（5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色砂質シルト5%程ブロック状混入　Bのみ）
2 7.5GY7/1明緑灰色～7.5GY6/1緑灰色シルト

SK26
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
2 1層+5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト5%程ブロック状・植物遺体混入
3 5Y2/1黒色粘質シルト

B 3.9m　B′



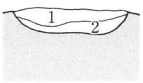
10

SK32（A）
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄50%程混入）
2 1層+7.5GY7/1明緑灰色シルト20%程ブロック状混入
（10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入）

SK32（B）
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄20%程混入）
2 5Y6/1～5/1灰色シルト+5Y6/2灰オリーブ色シルト10%程ブロック状混入
3 1層+5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト50%程斑紋状混入

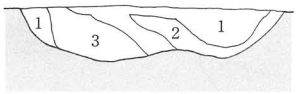
C地区－SK32

A 3.9m　A′



11

B 3.9m　B′

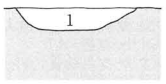


12

SE01
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
+5Y6/1～5/1灰色シルト50%程ブロック状混入
（10YR5/6黄褐色酸化鉄7%程混入）
2 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄1%程混入）
3 2層+5Y5/1～4/1灰色粘質シルト30%程ブロック状混入
4 5Y4/2灰オリーブ色～5Y4/3暗オリーブ色粘質シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入）
5 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色粘質シルト
+5Y4/1灰色粘質シルト30%程ブロック状混入
6 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
+5Y5/1～4/1灰色粘質シルト50%程ブロック状混入

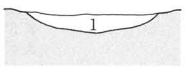
C地区－SD47

A 3.9m　A′



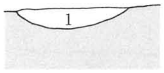
13

B 3.9m　B′



14

C 3.9m　C′

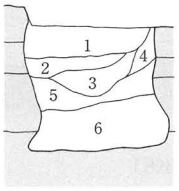


15

SD47
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト

C地区－SE01

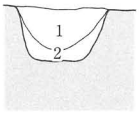
A 3.9m　A′



16

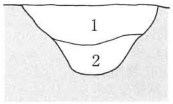
D地区－SD51

A 4.0m　A′



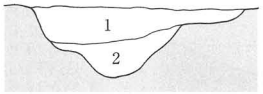
17

B 4.0m　B′



18

C 4.0m　C′



19

SD51
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
（10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程混入）
2 5Y2/1黒色粘質シルト

0　2m

第20図　遺構実測図〔A・B・C・D地区〕（1／40）

A地区：SD18（1）　SD24（2・3）　B地区：SD24（4・5）　SD30（6～8）　SK26（9・10）
C地区：SK32（11・12）　SD47（13～15）　SE01（16）　D地区：SD51（17～19）

E地区－SD71

A 4.1m　A′　B 4.1m　B′

1　2

SD71
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄20%程、炭化物混入)
2 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程、炭化物混入)
3 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト底部にブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程、炭化物混入)

E地区－SD74

A 4.1m　A′　B 4.1m　B′

3　4

SD74
1 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程混入)
2 1層+5Y7/1～7/2灰白色シルト斑紋状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄1%程混入)

E地区－SD72

A 4.1m　A′　B 4.1m　B′

(第31図 328)

5　6

SD72
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
+5Y6/1灰色シルト3%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
2 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄25%程混入)
3 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄7%程、炭化物混入)

E地区－SD73

A 4.1m　A′　B 4.1m　B′

カクラン

7　8

SD73
1 10YR5/1褐灰色～10YR5/2灰黄褐色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄15%程混入)
2 10YR5/1褐灰色～10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト10%程斑紋状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程混入)

B′　(第29図 300)　A　A′　SK76

B 4.1m　B′

10

E地区－SK76

B　A 4.1m　A′

9

SK76
1 5Y5/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄20%程、炭化物混入)
2 5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト
3 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
4 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト、炭化物混入

E地区－SK81

A 4.1m　A′

11

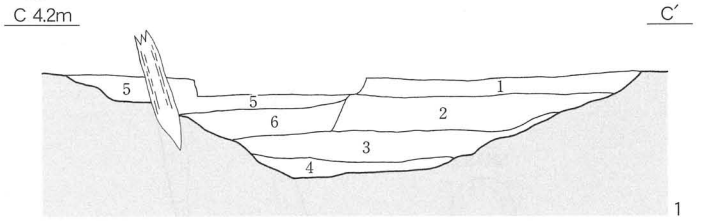
SK81
1 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄7%程、炭化物混入)
2 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程、炭化物混入)
3 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色粘質シルト
+5Y7/2灰白色～5Y7/3浅黄色シルト50%程ブロック状混入

0　2m

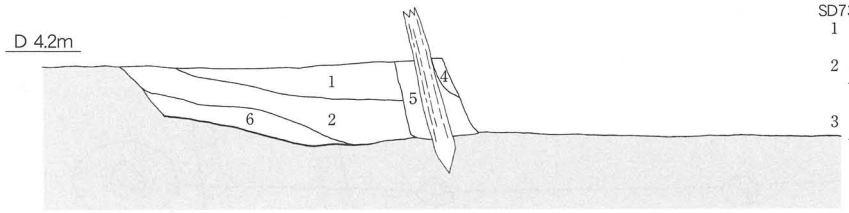
第21図　遺構実測図〔E地区〕(1／40)

E地区：SD71(1・2)　SD74(3・4)　SD72(5・6)　SD73(7・8)　SK76(9・10)　SK81(11)

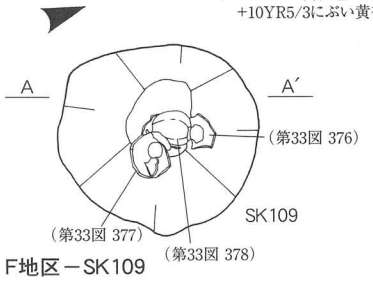
F地区－SD73

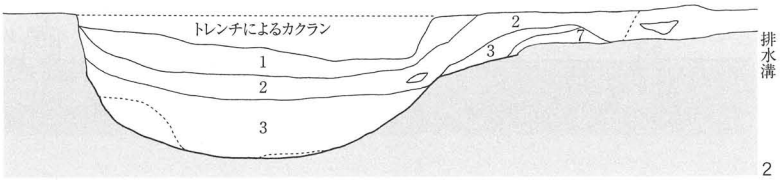


SD73(C)
1 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程、植物遺体混入)
2 1層+5Y7/1～7/2灰白色シルト3%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程、植物遺体混入)
3 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト5%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程混入)
4 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
+5Y6/1～5/1灰色シルト3%程ブロック状混入
5 5Y7/1～7/2灰白色砂
6 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄30%程混入)

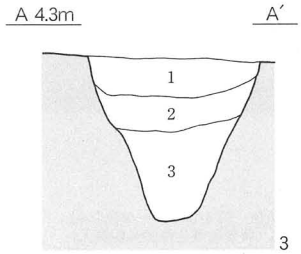


SD73(D)
1 10YR5/1褐灰色～10YR5/2灰黄褐色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄20%程混入)
2 5Y5/1～4/1灰色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト3%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
3 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト20%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
4 5Y7/1～7/2灰白色砂
5 10YR4/1褐灰色～10YR4/2灰黄褐色シルト
+10YR5/3にぶい黄褐色砂20%程ブロック状混入
6 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
7 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色シルト

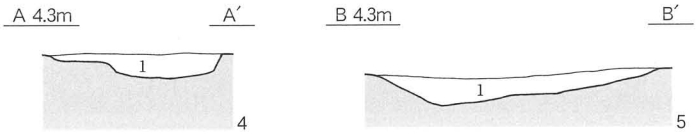




F地区－SK109



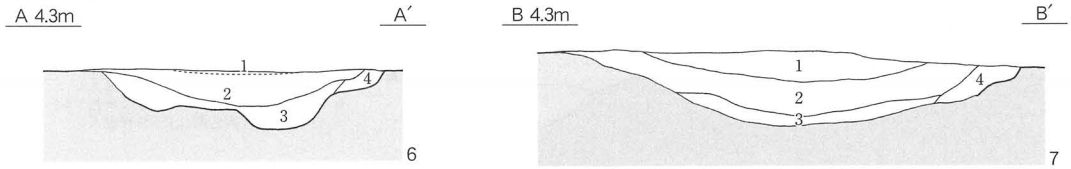
F地区－SD80



SK109
1 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色シルト
+5Y7/1～7/2灰白色シルト7%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄7%程混入)
2 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程混入)
3 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト

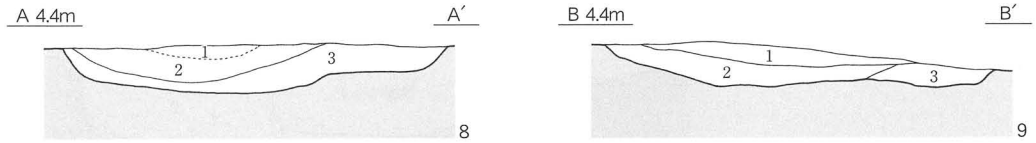
SD80
1 5Y5/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入)

G地区－SD83



SD83
1 5Y5/1灰色～5Y5/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
2 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入)
3 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色粘質シルト
4 5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入)

G地区－SD89

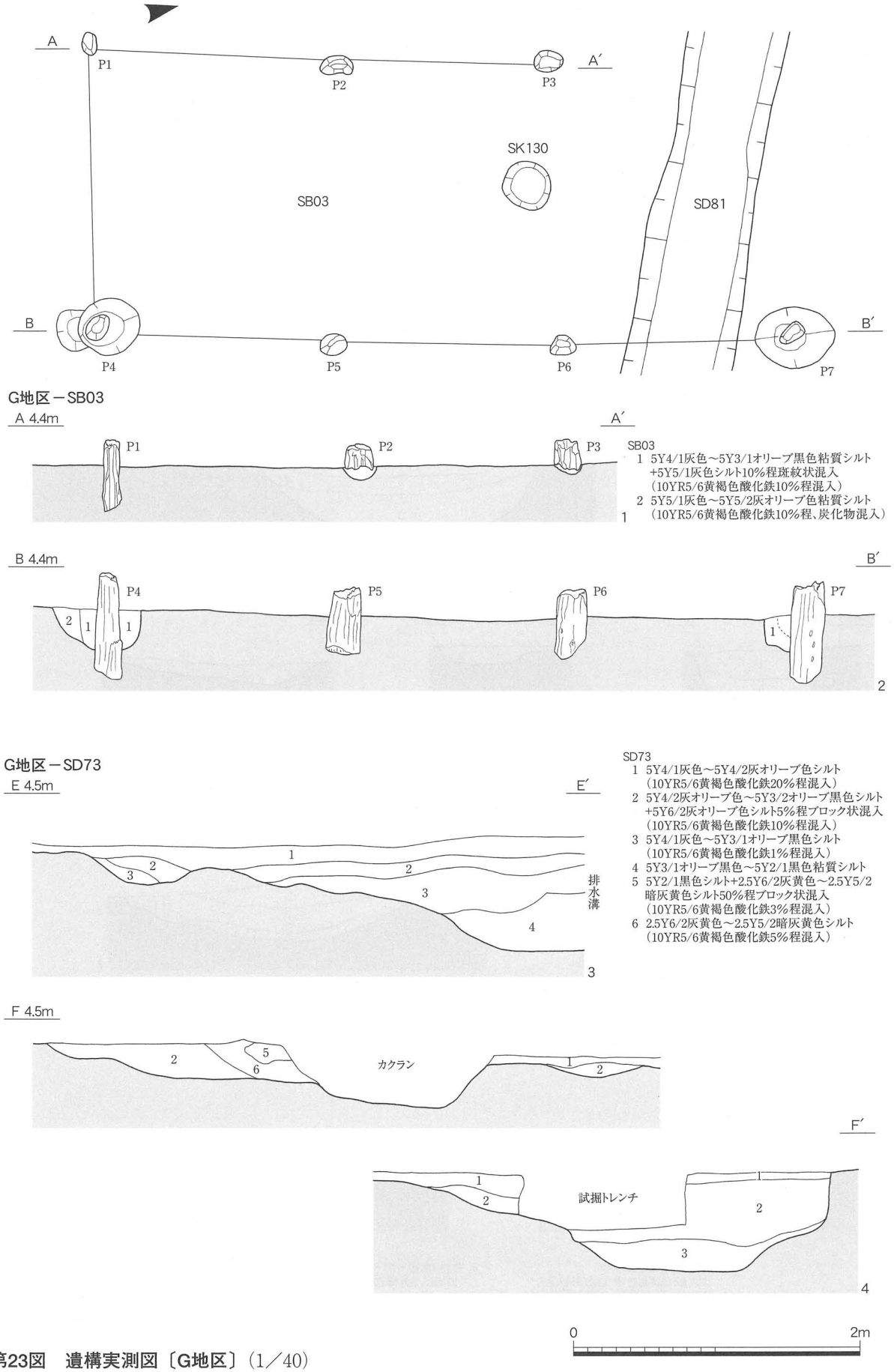


SD89
1 5Y5/1～4/1灰色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄7%程混入)
2 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入)
3 5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)

0　2m

第22図　遺構実測図〔F・G地区〕(1／40)

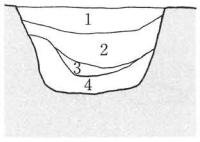
F地区：SD73(1・2)　SK109(3)　SD80(4・5)　G地区：SD83(6・7)　SD89(8・9)



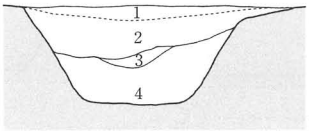
第23図　遺構実測図〔G地区〕（1／40）
G地区：SB03（1・2）　SD73（3・4）

G地区－SD91

A 4.5m　　A′　　B 4.5m　　B′



1

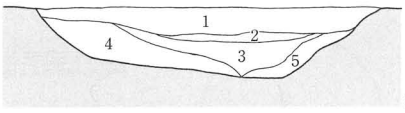


2

SD91(A・B)
1 5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄15%程、炭化物混入)
2 5Y6/1～5/1灰色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
3 5Y8/1～7/1灰白色シルト
4 5Y5/1～4/1灰色粘質シルト+3層斑紋状10%程混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入)

H地区－SD91

C 4.5m　　C′

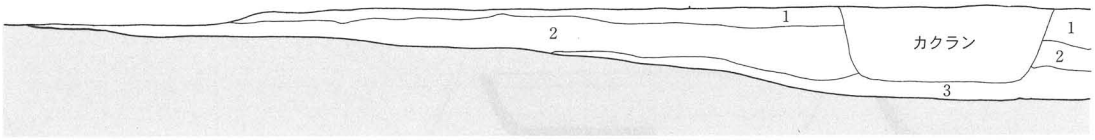


3

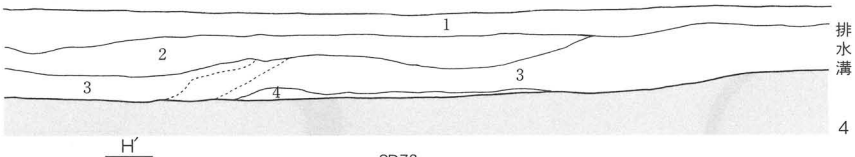
SD91(C)
1 5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入)
2 5Y6/1～5/1灰色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄1%程混入)
3 5Y7/2灰白色～5Y6/2灰オリーブ色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄1%程混入)
4 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程混入)
5 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色粘質シルト

H地区－SD73

G 4.2m

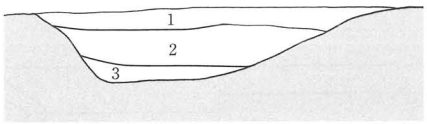


G′



4

H 4.2m　　H′

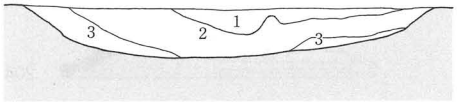


5

SD73
1 5Y4/1灰色～5Y4/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄20%程混入)
2 5Y4/2灰オリーブ色～5Y3/2オリーブ黒色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
3 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
+5Y7/2灰白色～5Y6/2灰オリーブ色シルト20%程ブロック状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
4 5Y3/1オリーブ黒色～5Y2/1黒色粘質シルト

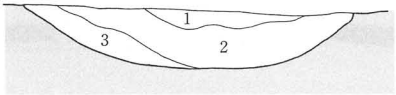
H地区－SD97

A 4.2m　　A′



6

B 4.2m　　B′

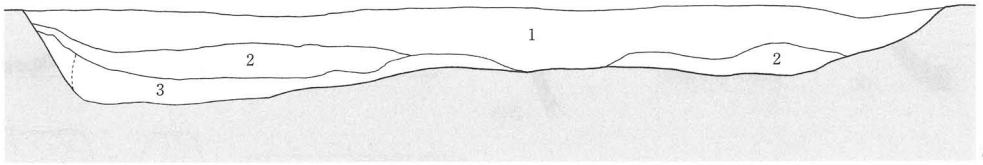


7

SD97
1 5Y6/1～5/1灰色粘質シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄5%程混入)
2 5Y4/1灰色～5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
+5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト15%程斑紋状混入
(10YR5/6黄褐色酸化鉄3%程、植物遺体混入)
3 5Y6/1灰色～5Y6/2灰オリーブ色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄1%程混入)

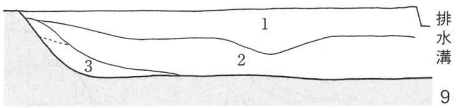
I地区－SK167

A 4.4m　　A′



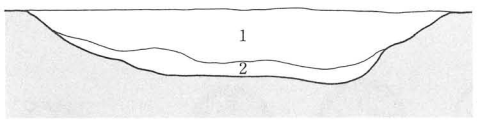
8

B 4.4m　　B′



9

C 4.4m　　C′



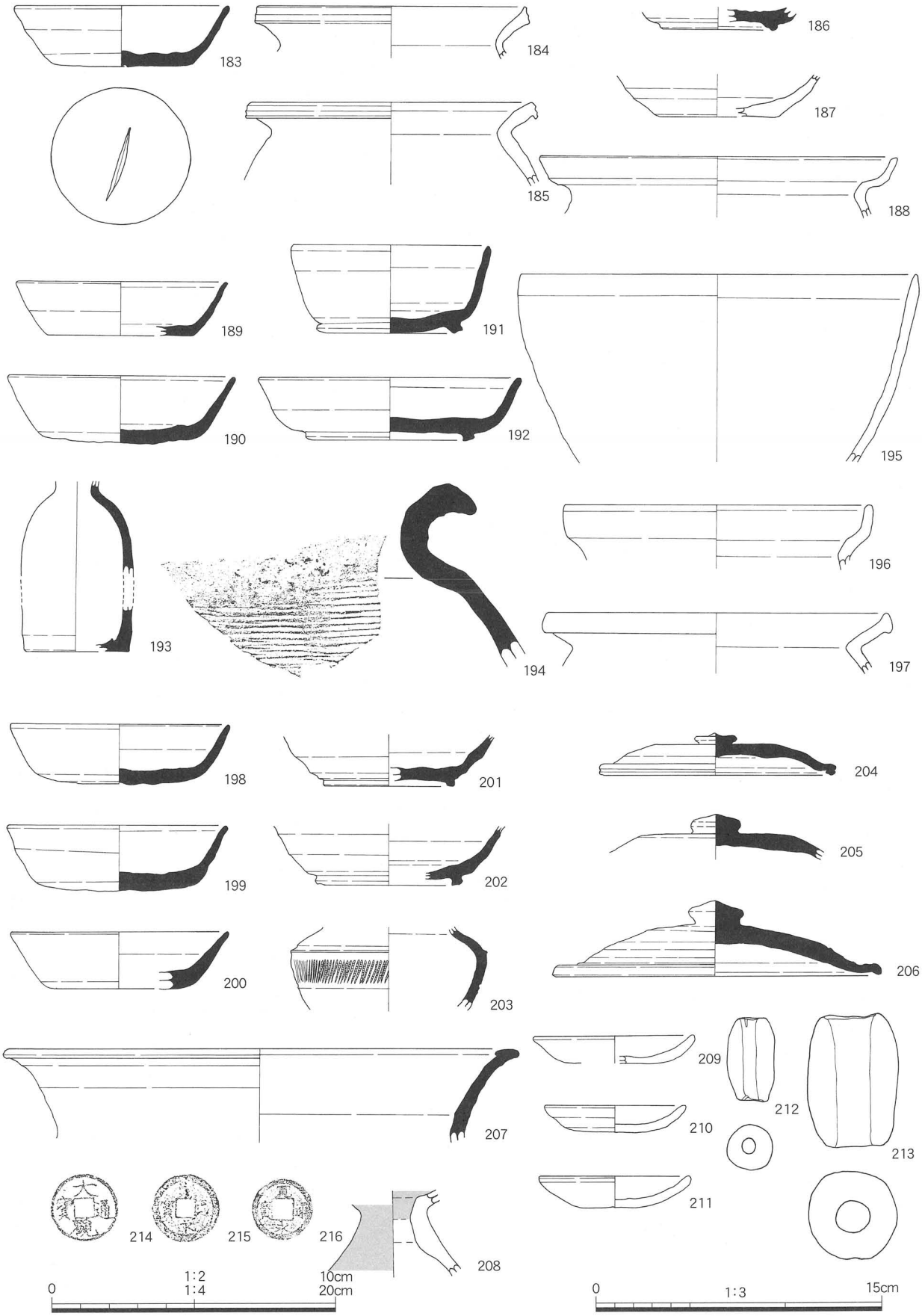
10

SD167
1 10YR5/1褐灰色～10YR5/2灰黄褐色シルト
(10YR5/6黄褐色酸化鉄10%程混入)
2 5Y5/1～4/1灰色粘質シルト
3 2層+5Y7/1灰白色～5Y6/1灰色シルト3%程ブロック状混入

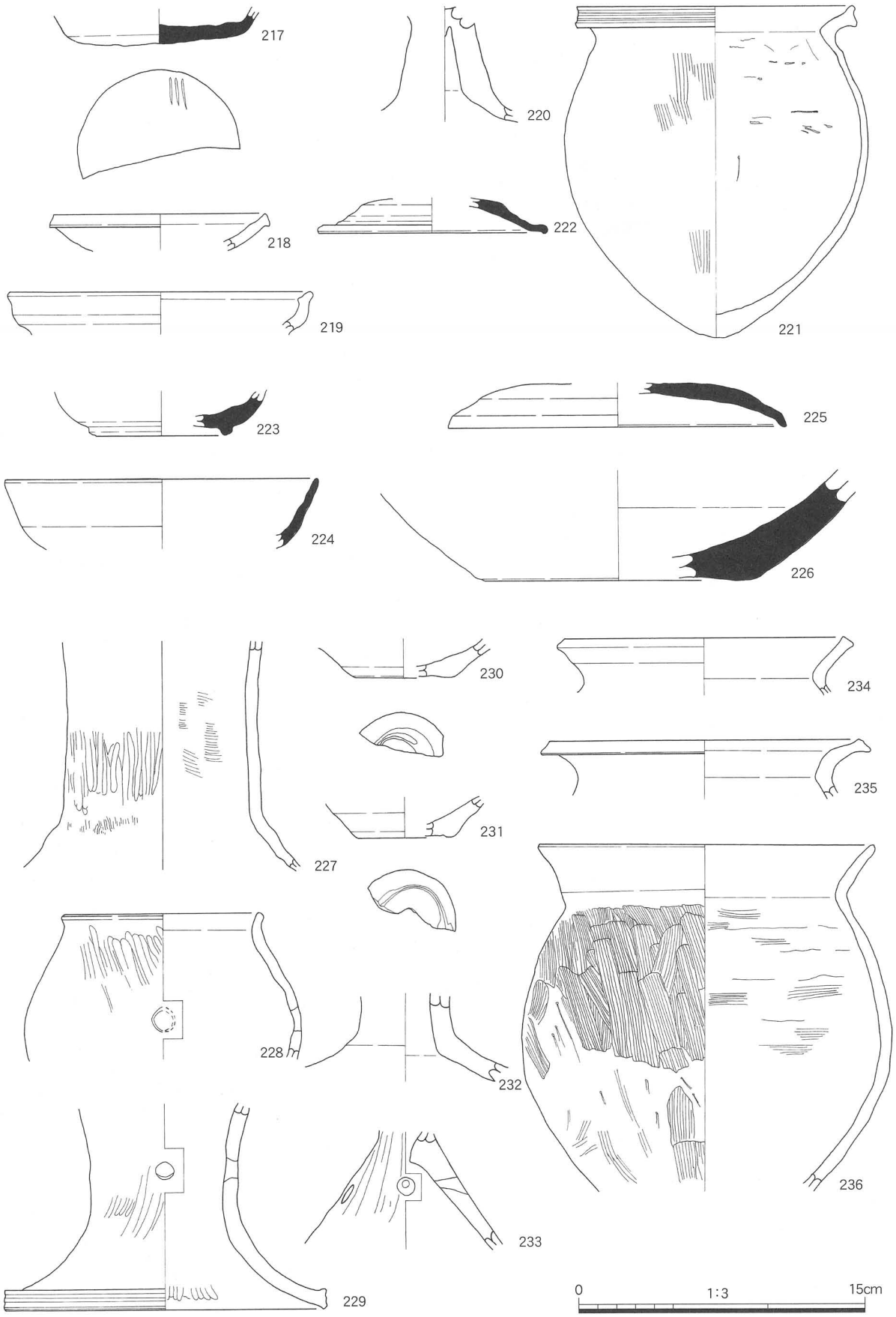
0　　2m

第24図　遺構実測図〔G・H・I地区〕(1／40)

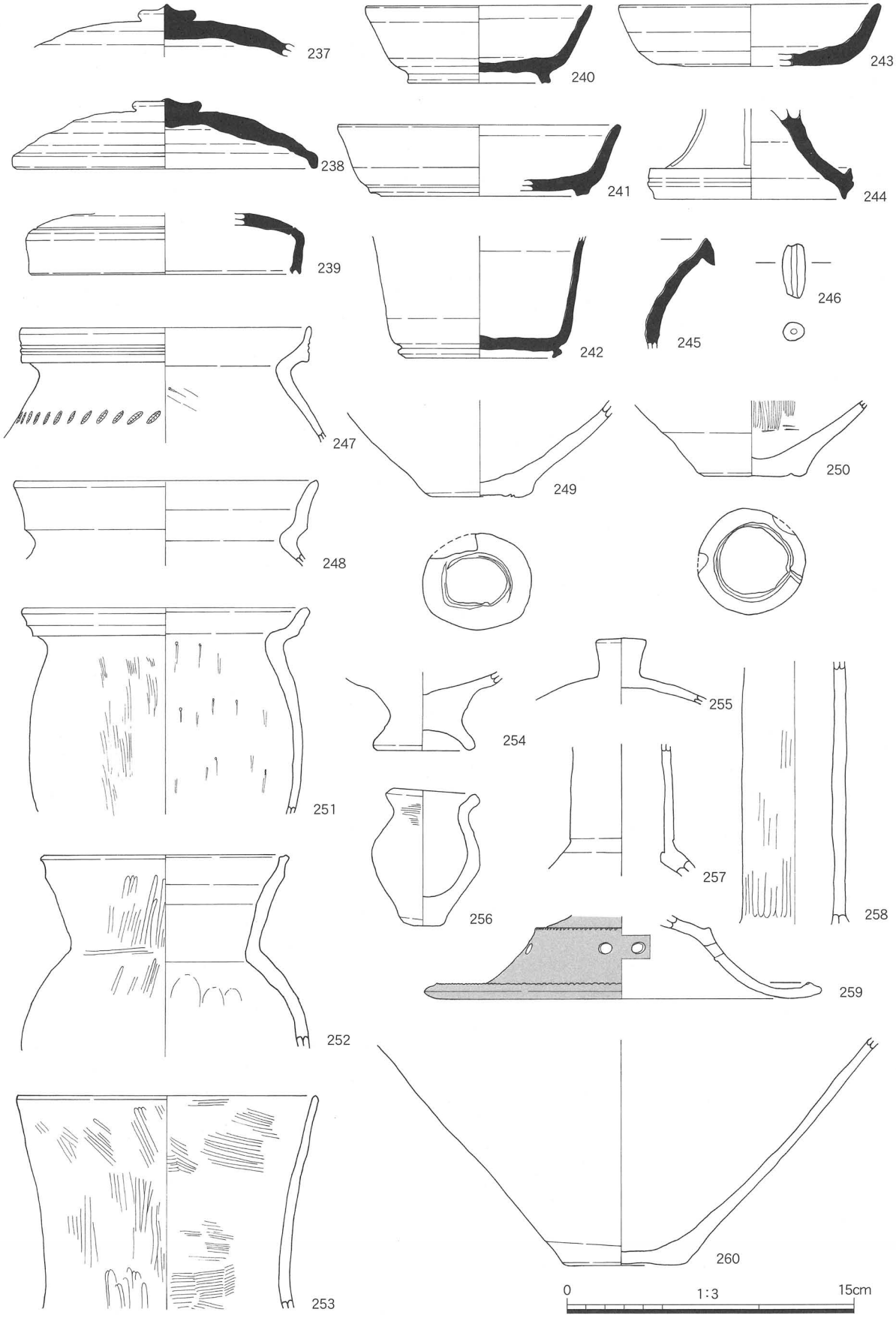
G地区：SD91(1・2)　H地区：SD91(3)　SD73(4・5)　SD97(6・7)　I地区：SK167(8～10)



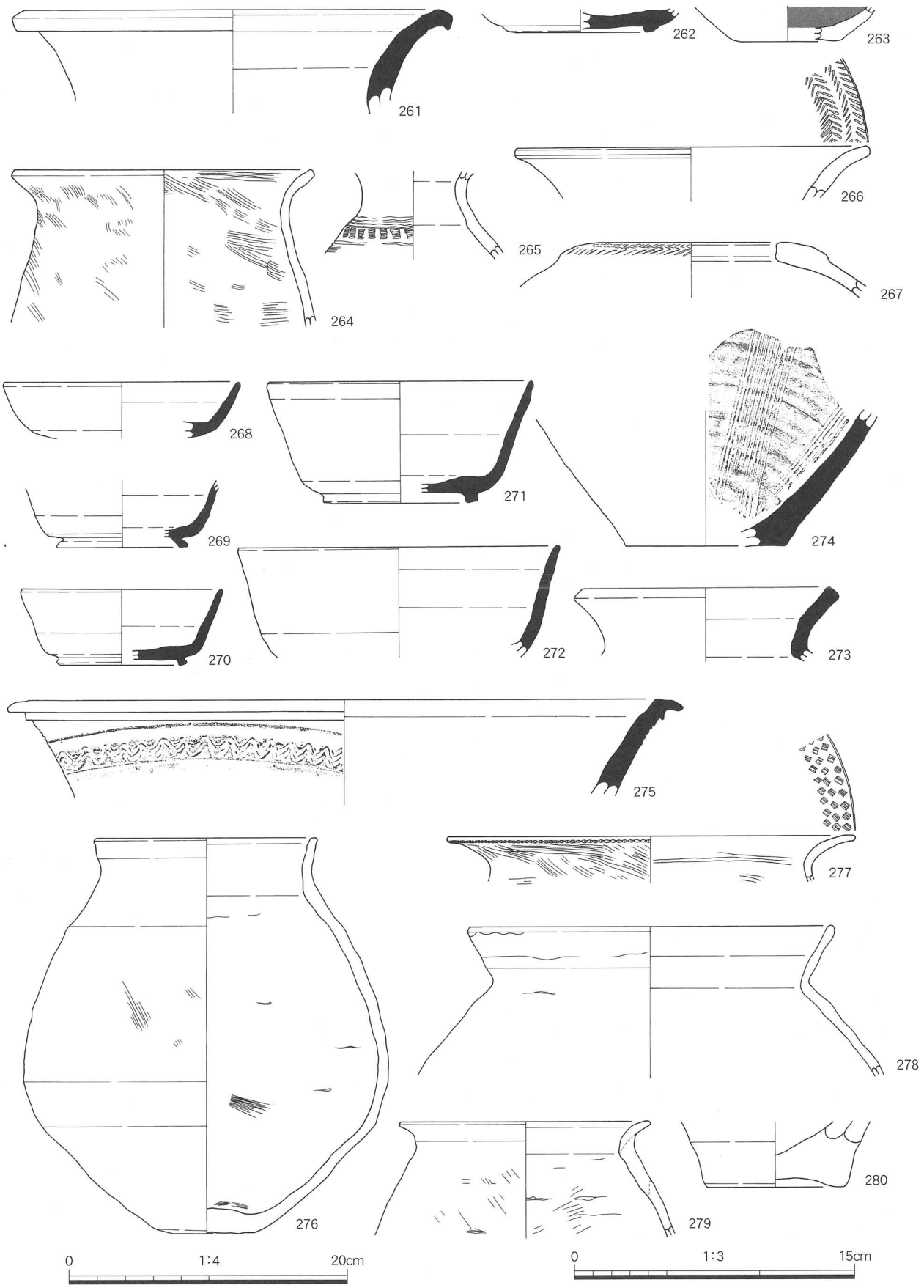
第25図　遺物実測図〔A・B地区〕（214～216　1／2，183・186～194・196～213　1／3，184・185・195　1／4）
A地区：SD18（183）　SD20（184・185）　SK26（186～188）　包含層（189～197）　B地区：包含層（198～216）



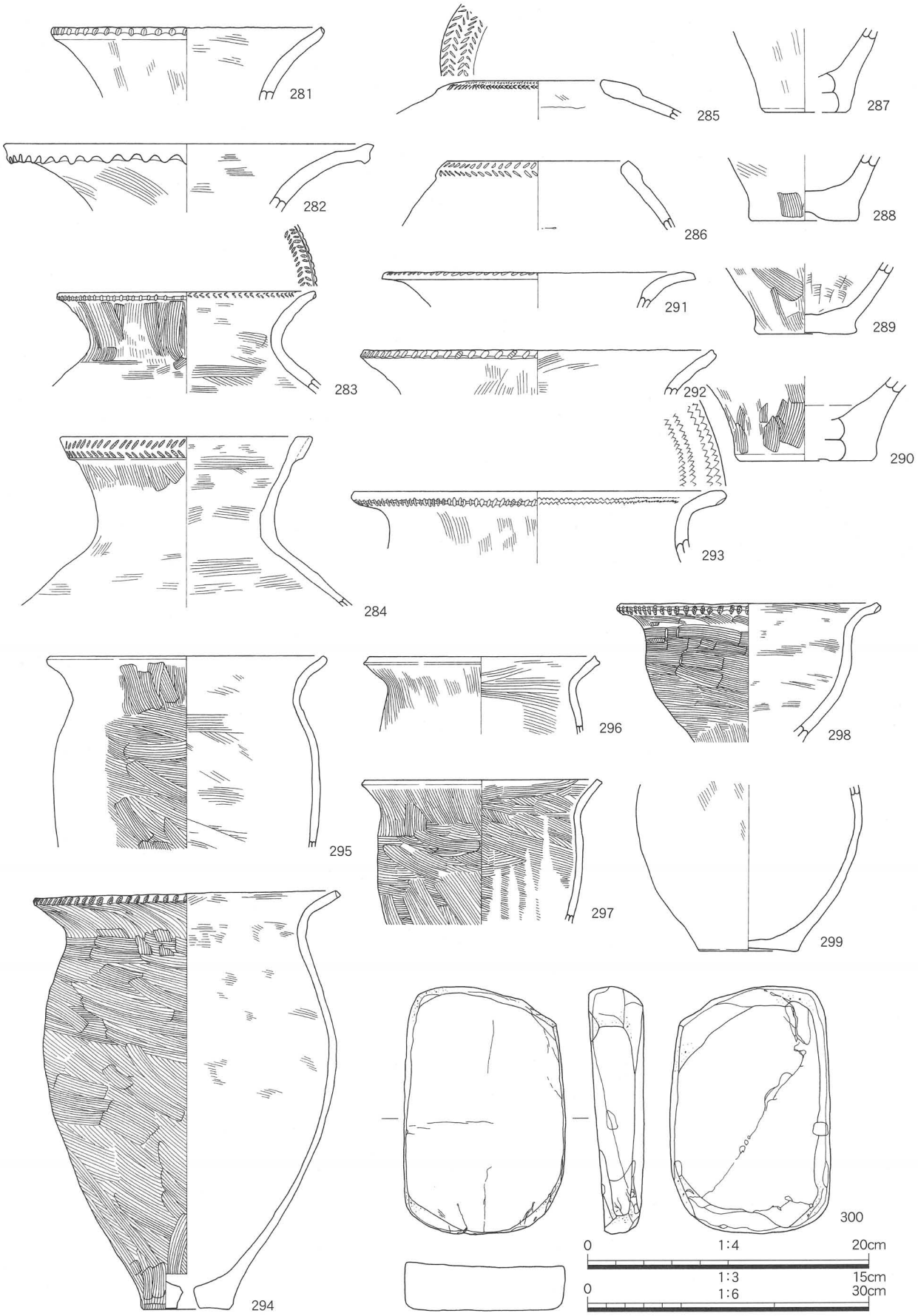
第26図　遺物実測図〔C地区〕（1／3）
SD47（217～219）　SK32（223～226）　SK35（222）　SK40（220・221）　包含層（227～236）



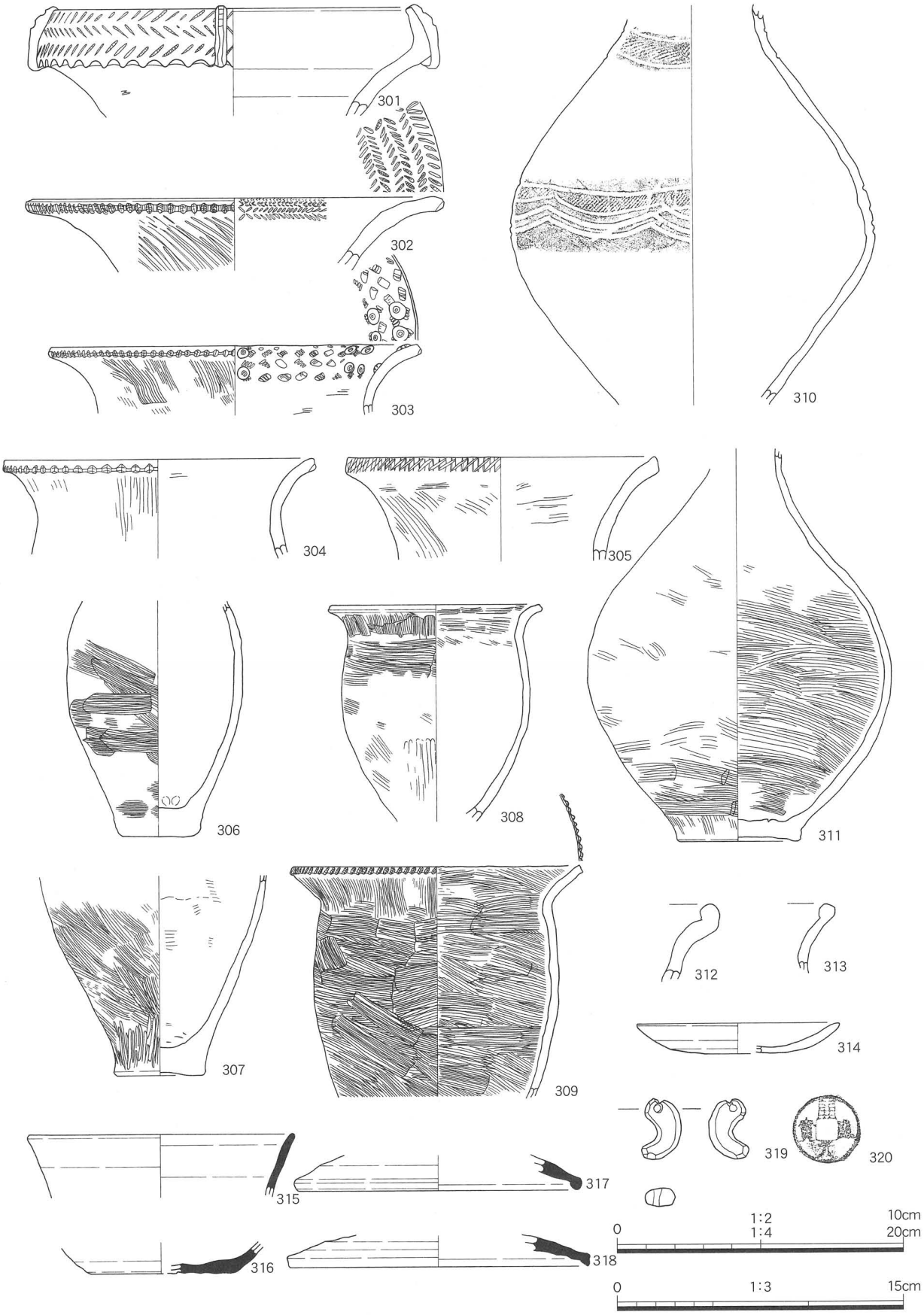
第27図　遺物実測図〔C地区〕（1／3）
包含層（237～260）



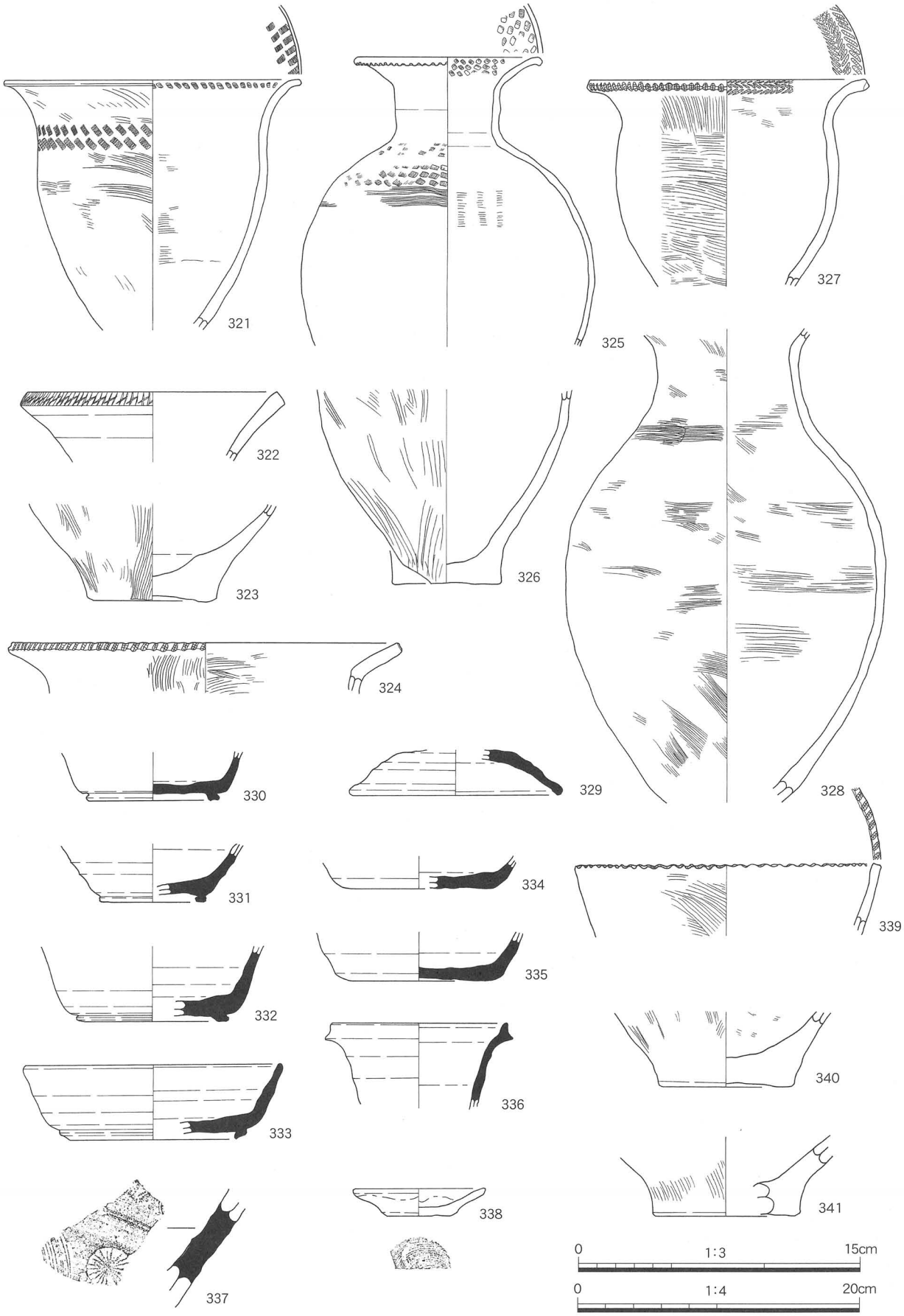
第28図　遺物実測図〔D地区〕（261～273・280　1／3，274～279　1／4）
SD48（261～263）　SD51（264～267）　包含層（268～280）



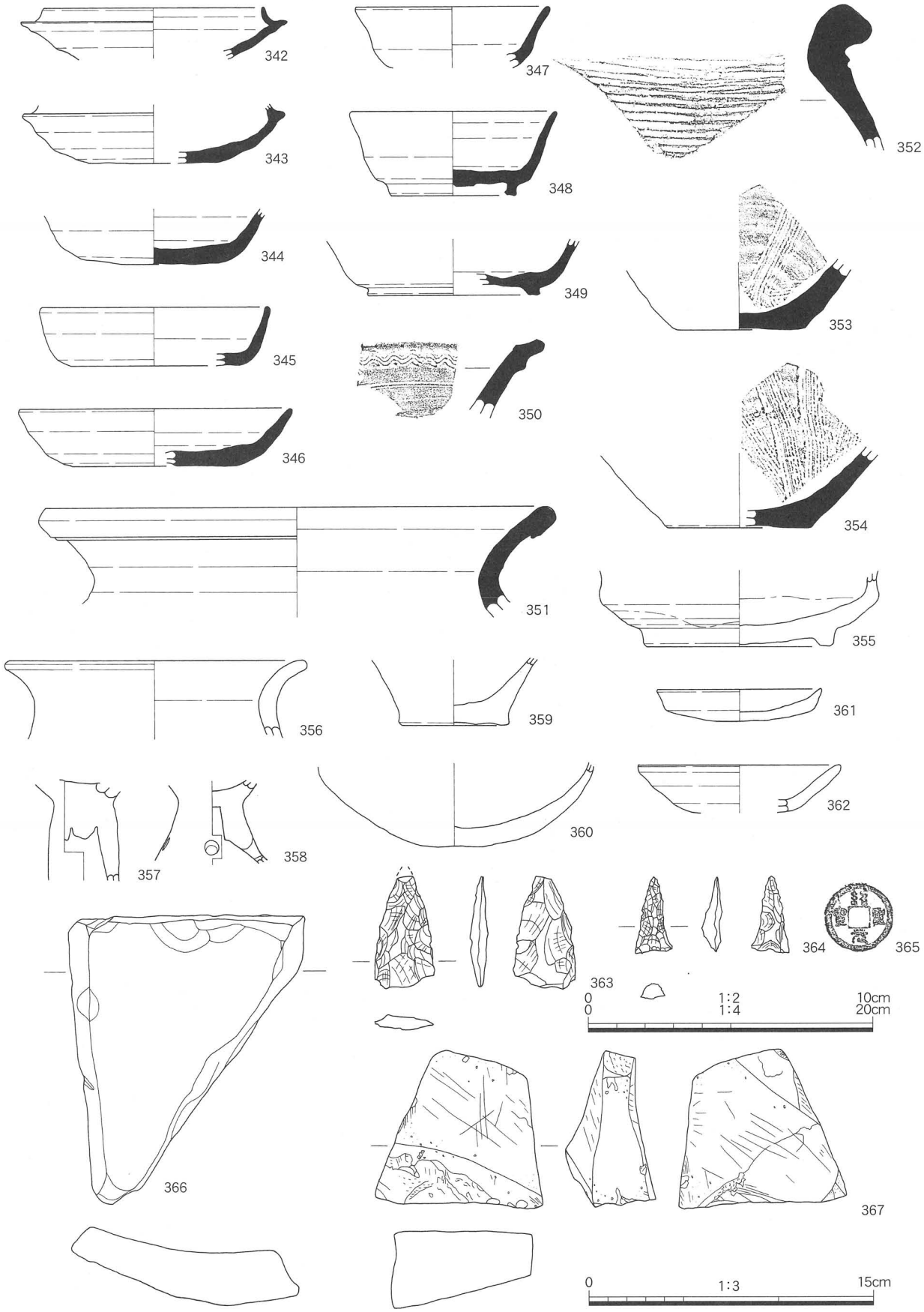
第29図　遺物実測図〔E地区〕（281・282・285～293　1／3，283・284・294～299　1／4，300　1／6）
SK76（281～300）



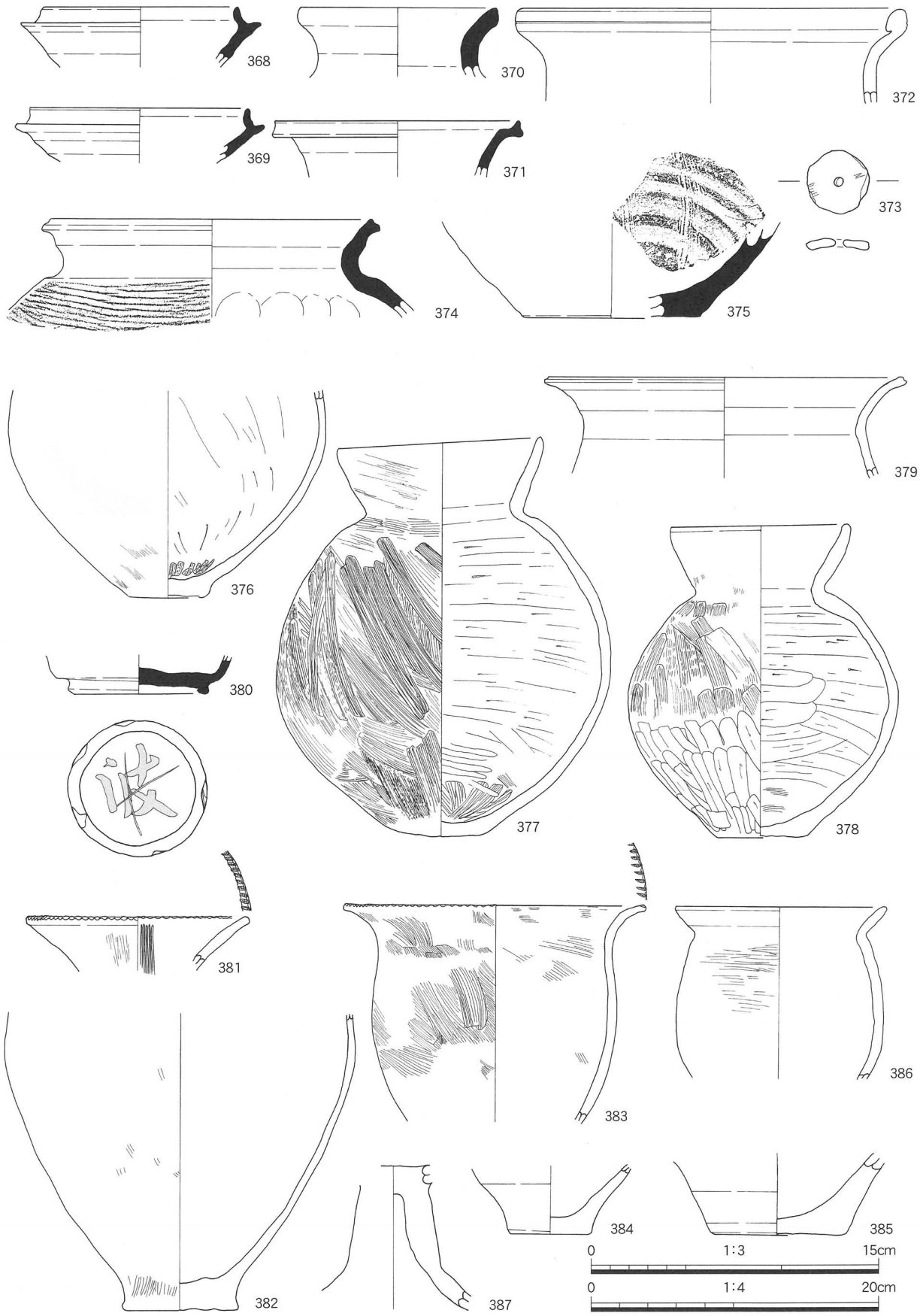
第30図　遺物実測図〔E地区〕（319・320　1／2，301～305・312～318　1／3，306～311　1／4）
SK81（301～311）　SD73（312～320）



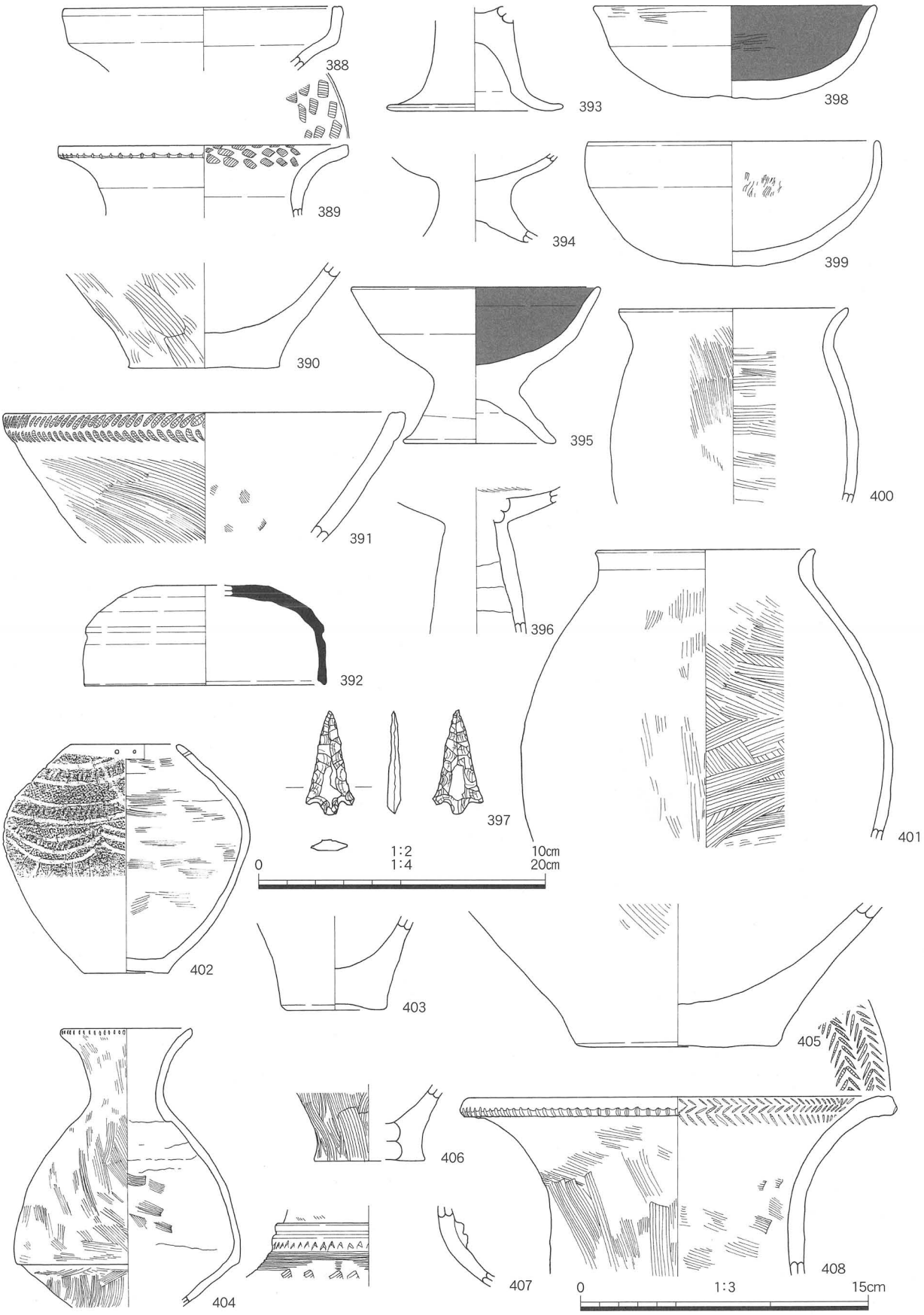
第31図　遺物実測図〔E地区〕（321～324・326・327・329～341　1／3，325・328　1／4）
SD70（321）　SD71（325・326）　SD72（327・328）　SD74（329）　SK90（322～324）　包含層（330～341）



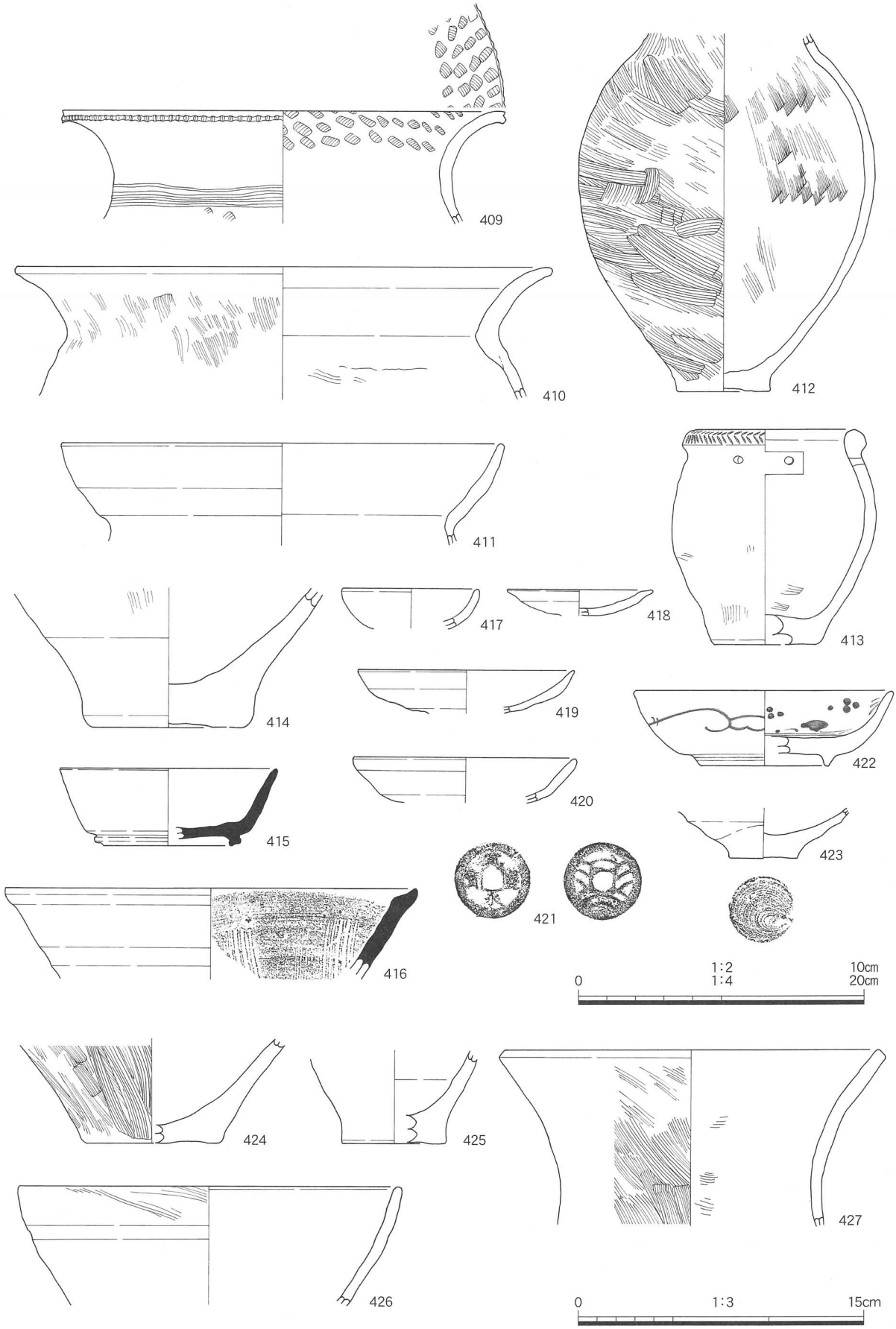
第32図　遺物実測図〔F地区〕（363～365　1／2，342～352・355～362・366・367　1／3，353・354　1／4）
SD73（342～367）



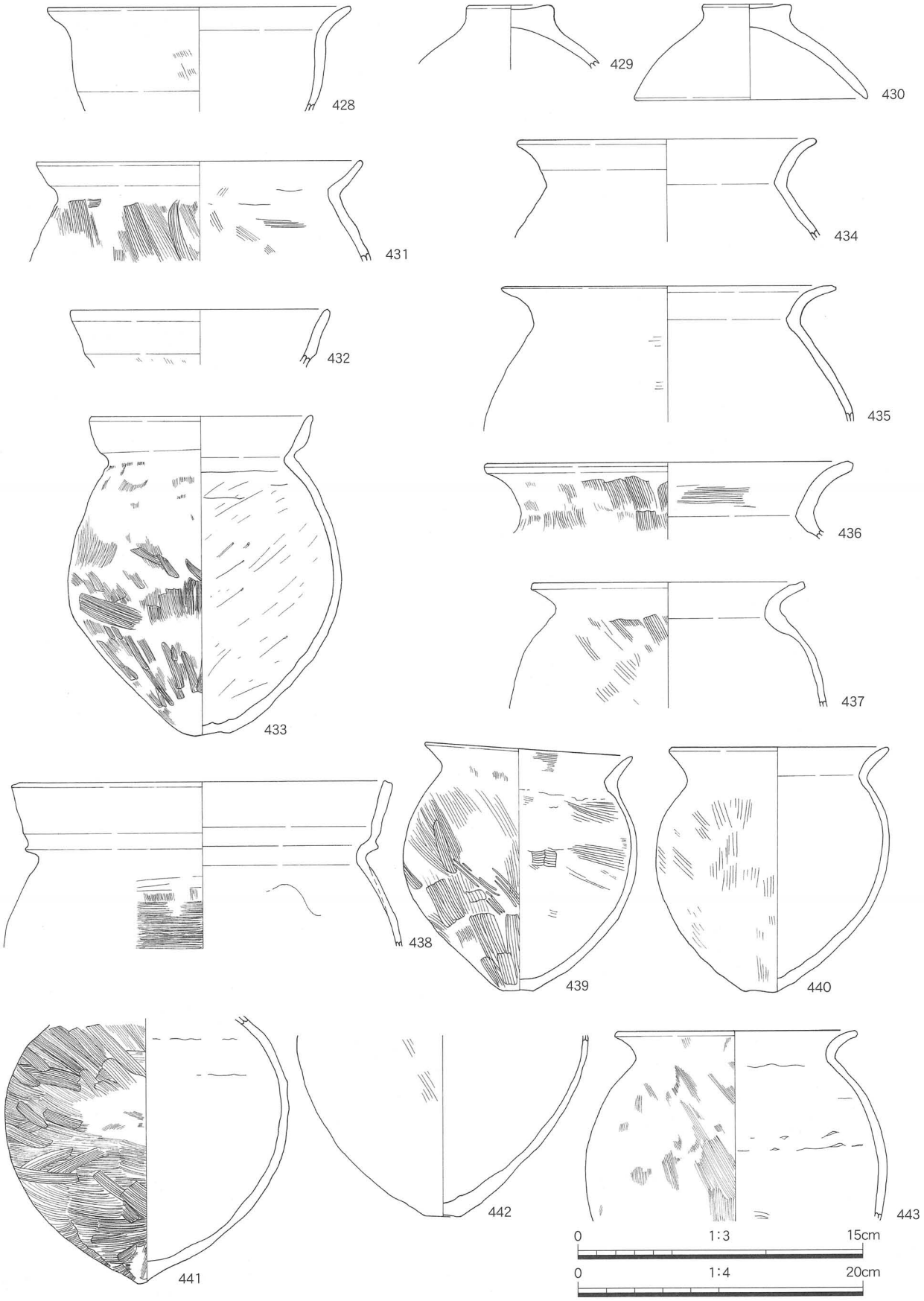
第33図　遺物実測図〔F地区〕（368～373・380・381・384・385・387　1／3，374～379・382・383・386　1／4）
SD80（368～375）　SK109（376～379）　包含層（380～387）



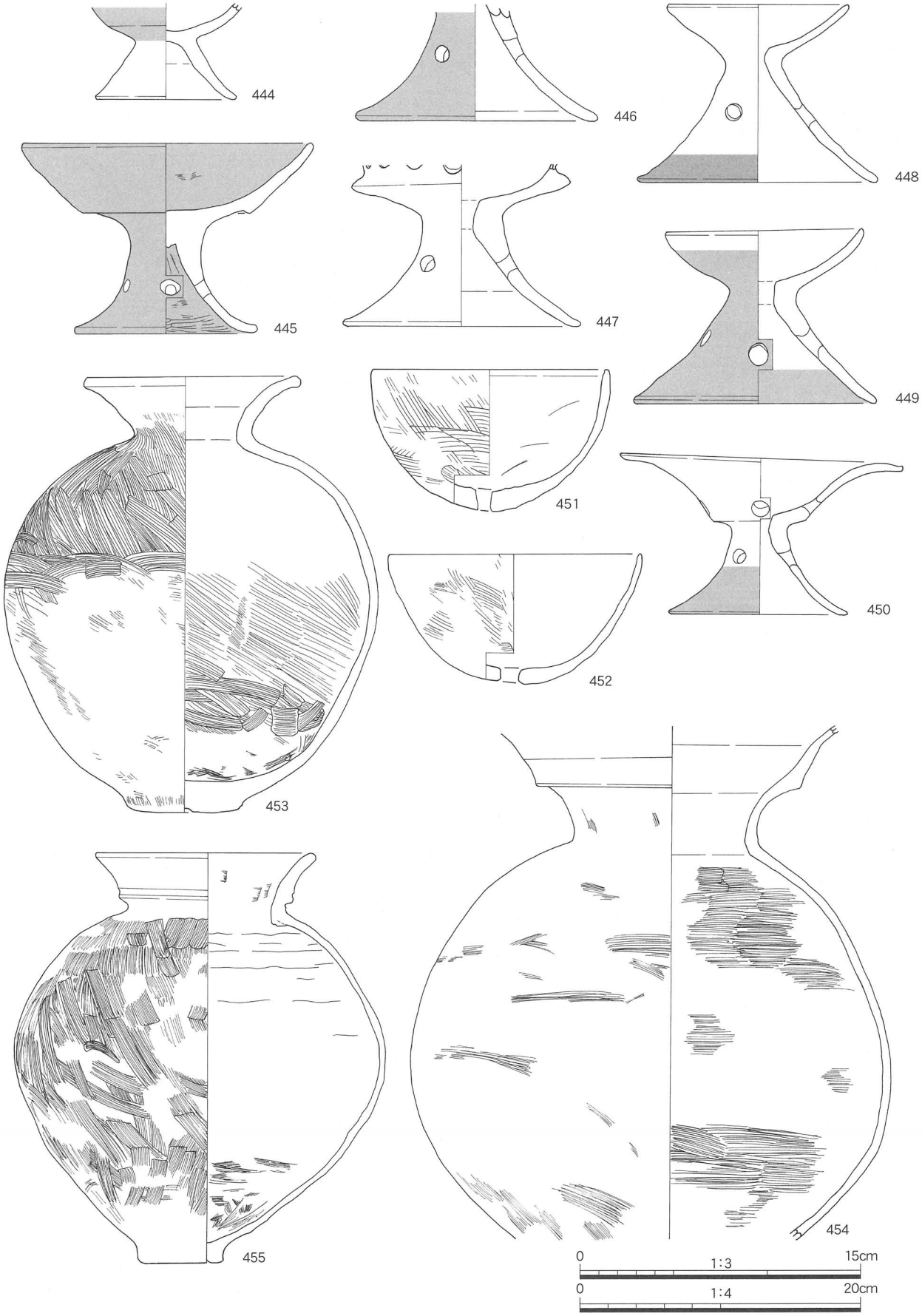
第34図　遺物実測図〔G地区〕（397　1／2，388～396・398・399・403・405～408　1／3，400～402・404　1／4）
SD83（404）　SD89（402・403）　SD90（405～408）　SD91（388～401）



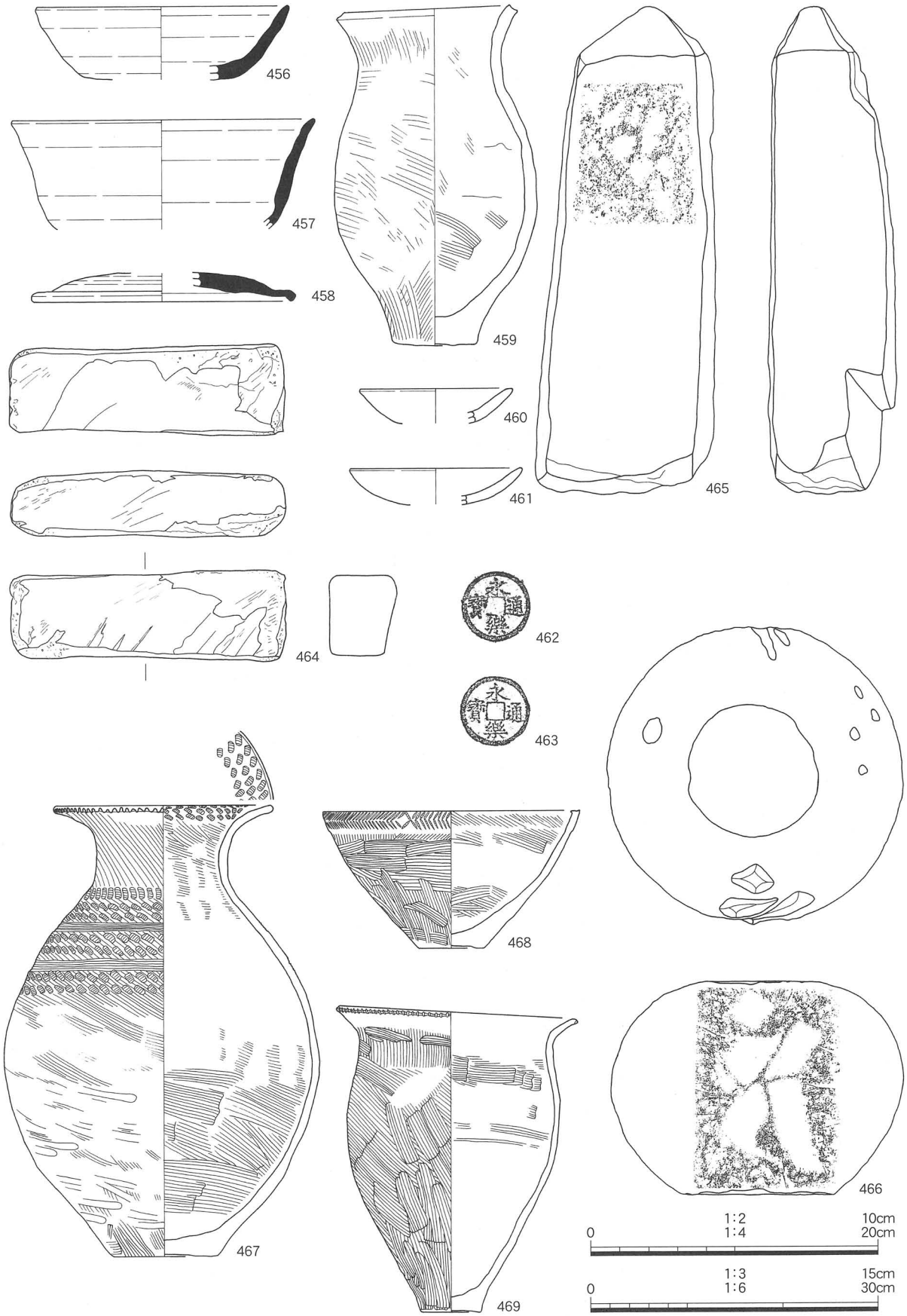
第35図　遺物実測図〔G地区〕(421　1／2,　409～411・413～415・417～420・422～427　1／3,　412・416　1／4)
SD73(409～423)　包含層(424～427)



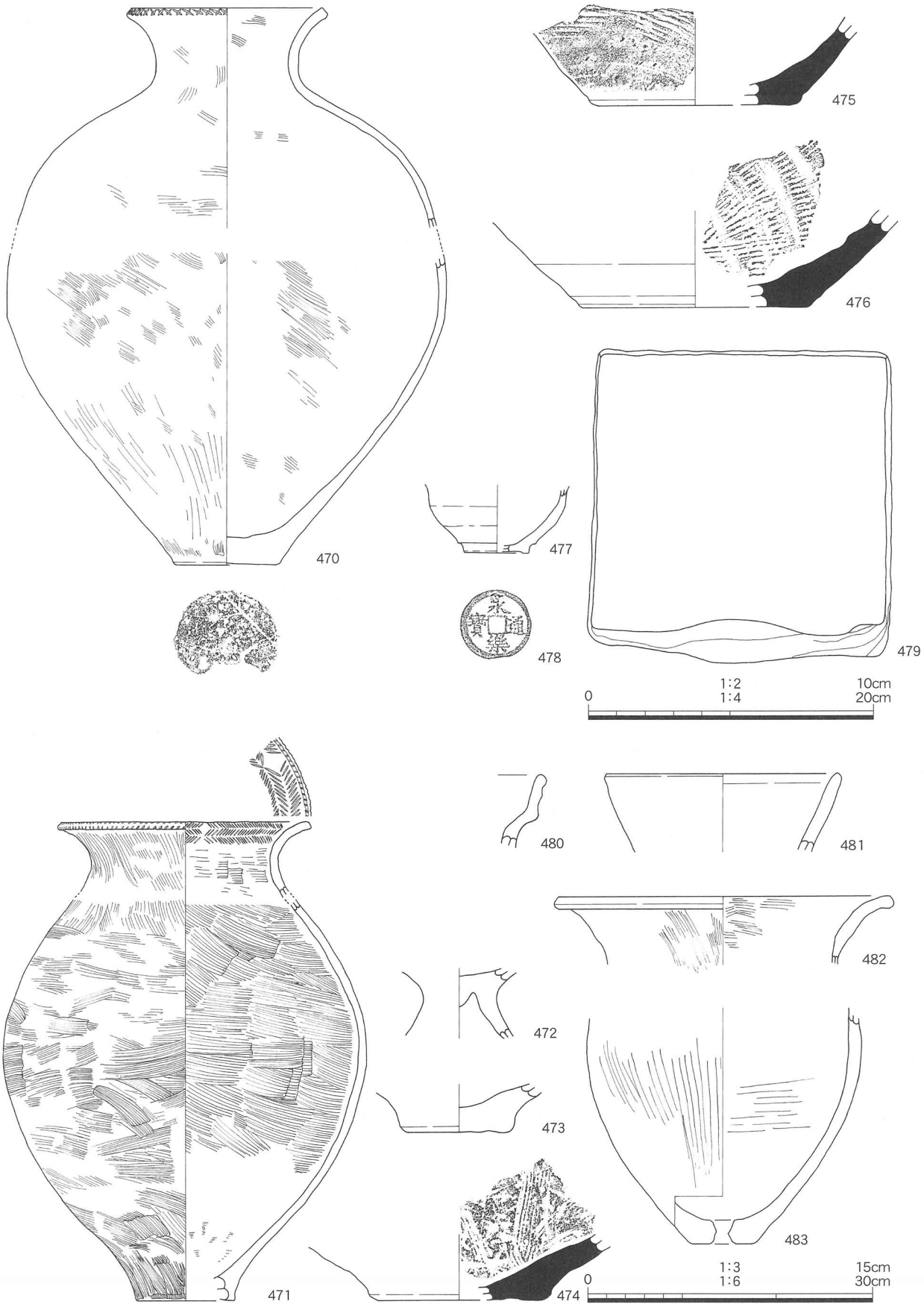
第36図　遺物実測図〔H地区〕（428～430・432～436　1／3，　431・437～443　1／4）
SX01（428～443）



第37図　遺物実測図〔H地区〕（444・446～449　1／3，445・450～455　1／4）
SX01（444～455）



第38図　遺物実測図〔H地区〕(462・463　1/2,　456～458・460・461・464　1/3,　459・467～469　1/4,　465・466　1/6)
SD73 (456～466)　SD97 (467・468)　SK151 (469)



第39図　遺物実測図〔H・I地区〕（478　1／2，472～477・480～483　1／3，470・471　1／4，479　1／6）
H地区：SD98（470）　包含層（471～474）　I地区：SD73（475～479）　SD113（480～483）

第4章　考　察

調査成果の概要

平成９年度より11年度へかけて実施された町道北高木小林線建設に伴う今回の調査は、小林遺跡の東西を二分する中心を南北に縦断する幅員16m・延長約560mを対象として行われた。

小林遺跡は、発掘調査の結果、弥生時代中期の遺物を最古とし、近世末へかけて断続的に営まれた複合遺跡であることが判明している。

弥生時代の遺跡

弥生時代中期の遺物がＤ・Ｅ・Ｇ・Ｈ区、後期の遺物がＣ区の溝・土坑の各遺構内から出土している。その際に、調査区の西側半分から主に出土している傾向があることから、今調査では住居跡・建物跡は確認されていないが、当該期の集落本体は調査区の西側に拡がる可能性が考えられる。

また、出土土器は、櫛描文土器を主体とするもので、法仏式～白江式の併行期に含まれる土器群と思われる。なかには、外来系の土器として信州地方の栗林式系土器が少量みられ、信州地方との交流があったことを伺わせる。

古墳時代の遺跡

古墳時代前期の土師器は、Ｆ区の109号土坑とＨ区の１号土器溜りから出土している。109号土坑は断面が漏斗状の円形土坑で、底部に廃棄された状態で４個体分の甕が出土した。１号土器溜りは明確な遺構からの一括遺物とは言い難いが、量的にも多く、ほぼ一時期の良好な土器群と判断される。内容はすべて土師器であり、壷・甕・蓋・有孔鉢・高杯（赤彩）・器台（赤彩）である。今調査から出土した古墳時代の土師器については、古墳時代前期前半の古府クルビ式～前期後半の高畠式の併行期に含まれる土器群と考えられる。これらの出土遺物から、調査区周辺において、古墳・古墳時代の集落跡が存在している可能性が考えられる。

奈良・平安時代の遺跡

出土遺物の約半分はこの時期を主体とし、須恵器の形態等から８世紀前半～10世紀前半頃のものがある。遺構はＡ～Ｉ全調査区で、この時期のものが確認されたが、調査区中央の旧用水のカクランの影響が強く、遺構全体の拡がりを確認できなかった。今調査では墨書土器が出土しており、識字層の存在が考えられる。当遺跡北側には木簡や墨書土器が大量出土し、射水郡古代荘園の可能性がある北高木遺跡が立地していることにも、背景としての関連が考えられる。

中世の遺跡

中世の遺物としては、珠洲・中世土師器等が出土している。しかし、包含層や遺構内の他の時期の遺物に混じっての散発的な出土であり、この時期に断定できる遺構は検出できなかった。

今回の調査区は、神楽川（現：東神楽川）より約200m余り西側に位置している。神楽川は、中世の越中における政治の中心地であり、守護所が置かれていた新湊市放生津城跡に通じており、流域において鋳物や製鉄、水運等の交易活動が盛んになったと想定されている。このことから、中世の遺物が散発的な出土ではあるが、調査区と神楽川までの範囲内に中世期の集落の存在が考えられる。

近世以降の遺跡

近世以降の遺物として近世陶磁器・銅銭・煙管・荷札木簡が出土している。しかし、包含層や遺構内の他時期の遺物に混在して散発的に出土しており、この時期に断定できる遺構は検出できなかった。荷札木簡は米の分配に関する内容より、この時期より水田として利用されていたと考えられる。

参考文献

青木一彦他　1996　「射水平野の遺跡－古代の北陸道を探る－」『大境』第18号　富山考古学会

赤澤徳明他　1997　『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房

荒井　　隆　1997　『市内遺跡調査概報Ⅵ』　高岡市教育委員会

荒井　隆他　1999　『石塚遺跡調査概報Ⅴ』　高岡市教育委員会

荒井　隆他　2001　『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』　高岡市教育委員会

安念幹倫他　1995　『北高木遺跡発掘調査報告書』　大島町教育委員会

池野　正男　1998　「富山県出土の古代文字資料」『古代北陸と出土文字資料』　社団法人石川県埋蔵文化財保存協会

池野正男他　2002　『石名田木舟遺跡発掘調査報告』　富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所

稲垣　尚美　1999　『ＨＳ－０４遺跡発掘調査報告』　小杉町教育委員会

上野　敬他　1995　『二口かみあれた遺跡』　志雄町教育委員会

大橋　康二　1988　『古伊万里』　別冊太陽63　平凡社

大橋　康二　1993　『肥前陶磁』　ニューサイエンス社

岡本淳一郎他　1999　「佐野台地における古墳出現期の土器について」『紀要富山考古学研究』第２号　富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所

尾野寺克実　1998　『二口油免遺跡発掘調査概要』　大門町教育委員会

鬼頭　清明　1990　『木簡』　ニューサイエンス社

久々　忠義　1991　『大島町荒畑遺跡発掘調査概要』　大島町教育委員会

久々忠義他　1984　『北陸自動車道遺跡調査報告―上市町木製品・総括編―』　上市町教育委員会

坂詰秀一他　1982　『板碑研究入門』　ニューサイエンス社

島田修一他　1998　『八塚Ｃ遺跡』　大島町教育委員会

高梨清志他　2000　『浦田遺跡発掘調査報告(3)』　舟橋村教育委員会

竹脇久雄他　1989　『大島町史』　大島町

田嶋　明人　1986　「土師器よりみた古墳時代土器群の変遷」『漆町遺跡Ⅰ』　石川県立埋蔵文化財センター

田中　　明　2000　『水上・本開発遺跡』　大島町教育委員会

根津　明義　2000　『須田藤の木遺跡調査報告』　高岡市教育委員会

藤田富士夫　1989　『玉』　ニューサイエンス社

間宮正光他　2002　『倉谷古墳群調査報告』　高岡市教育委員会

宮田進一他　2000　『八塚Ｃ遺跡(2)』　大島町教育委員会

山口　辰一　1987　『石塚遺跡調査概報Ⅰ』　高岡市教育委員会

山口　辰一　1988　『石塚遺跡調査概報Ⅱ』　高岡市教育委員会

山口　辰一　1995　『石塚遺跡調査概報Ⅲ』　高岡市教育委員会

山口　辰一　1996　『石塚遺跡調査概報Ⅳ』　高岡市教育委員会

山口辰一他　1996　『市内遺跡調査概報Ⅳ』　高岡市教育委員会

山本正敏他　1998　『五社遺跡発掘調査報告』　富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所

吉岡　康暢　1989　『珠洲の名陶』　珠洲焼資料館

第５章　自然科学分析

㈱吉田生物研究所　汐見　　真
京都造形芸術大学　岡田　文男

１．試料

遺物出土材　３点
（ＳＤ７３【Ｆ地区】・ＳＢ０３－Ｐ４【Ｇ地区】）

２．方法

試料より木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察し、組織的特徴から樹種の同定を行った。また、観察した顕微鏡像を撮影記録した。（撮影倍率10×、40×、100×、400×）

３．結果

①ブナ科クリ属クリ（Castanea　crenata　Sieb. et　Zucc.）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μｍ）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

②ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）

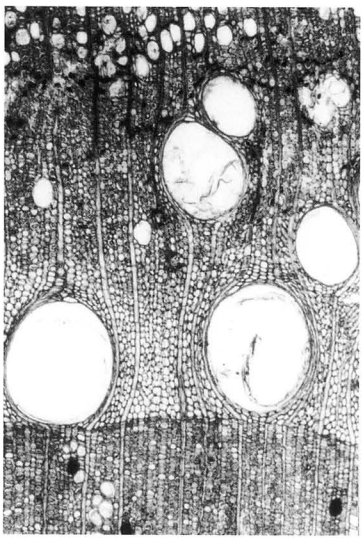
木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

③スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D. Don）

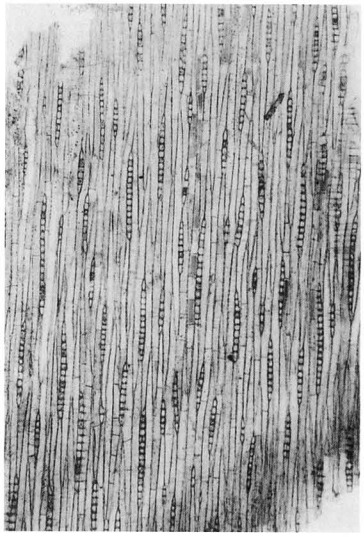
木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

参考文献

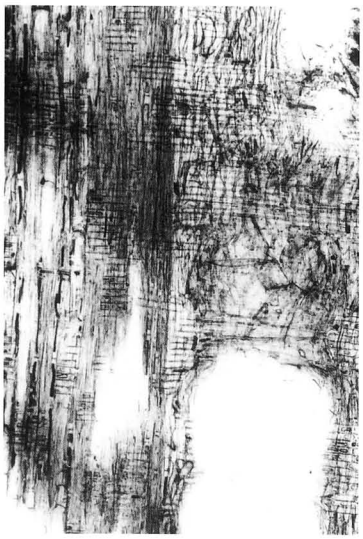
島地　謙・伊藤隆夫（1988）　『日本の遺跡出土木製品総覧』　雄山閣
島地　謙・伊藤隆夫（1982）　『図説木材組織』　地球社
島地　謙・須藤彰司・原田　浩（1982）『木材の組織』　森北出版
伊藤隆夫（1995～）　『日本産広葉樹林の解剖学的記載Ⅰ～Ⅳ』　京都大学木質科学研究所
北村四郎・村田　源（1979）　『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』　保育社



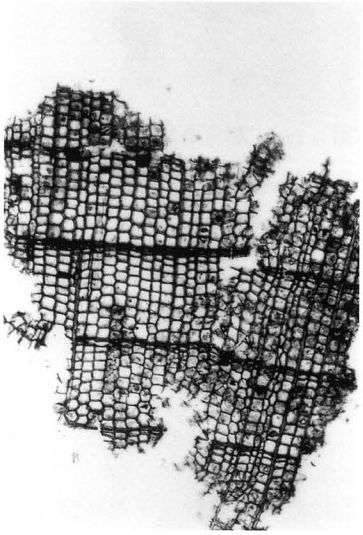
① ＳＤ73出土流木（第17図）
ブナ科クリ属クリ
木口　40倍



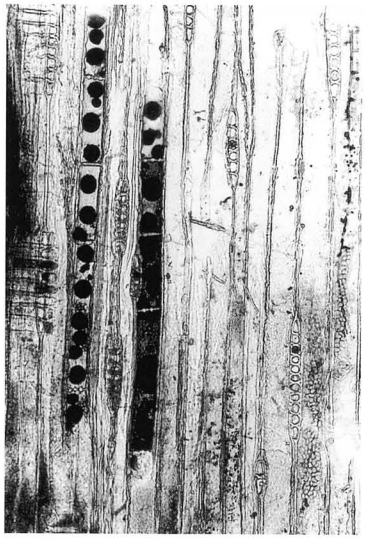
板目　40倍



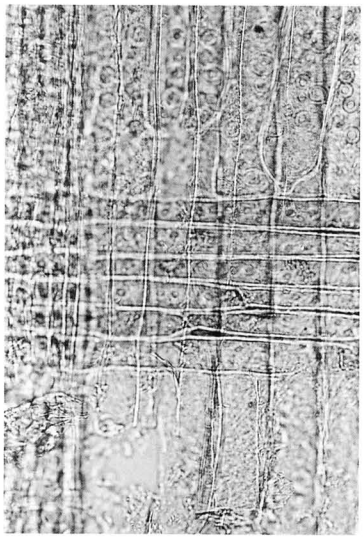
柾目　40倍



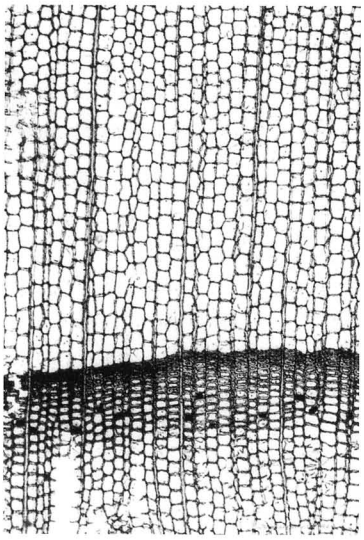
② ＳＤ73出土流木（第17図）
ヒノキ科アスナロ属
木口　40倍



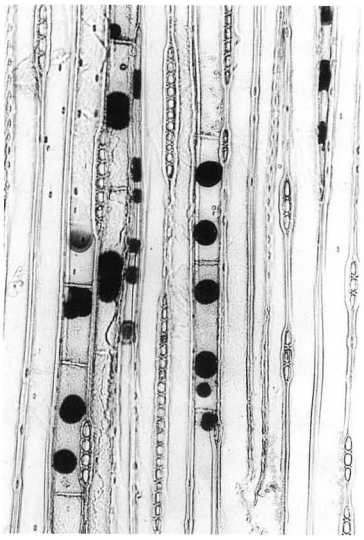
板目　100倍



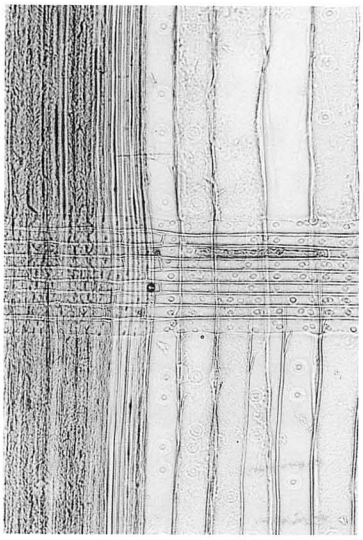
柾目　400倍



③ SD03－Ｐ4出土柱根（第18図）
スギ科スギ属スギ
木口　40倍



板目　100倍



柾目　100倍

第1表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
1	A	6	3	SD01		須恵器	杯B	11.5	6.8	3.9	5Y7/1 灰白色	
2	A	6	2	SD01		須恵器	杯B	14.0	8.2	3.8	N6/0 灰色	8C第2
3	A	6	3	SD01		須恵器	杯A	12.8	9.4	3.6	2.5Y8/1 灰白色	
4	A	6	28	SD01		須恵器	杯A	12.0	8.8	4.0	5Y7/1 灰白色	体部外面に墨書「長」
5	A	6	4	SD01		須恵器	蓋	12.7			N6/0 灰色	
6	A	6	5	SD01		須恵器	壷	16.2			7.5Y6/1 灰色	内面自然釉付着
7	A	6	5	SD01		土師器	椀	14.4			2.5Y7/2 灰黄色	内面黒色
8	A	6	4	SD01		弥生土器	甕	16.7			2.5Y8/2 灰白色	弥生後期
9	A	6	4	SD01		土師器	甕				2.5Y8/2 灰白色	
10	A	6	2	SD01		土師器	甕				2.5Y8/2 灰白色	
11	A	8	5	SD01		土師器	高杯				7.5YR7/4 にぶい橙色	
12	A	6	4	SD01		土師器		21.6			10YR6/2 灰黄褐色	
13	A	14	2	SD03		須恵器	杯	11.3		3.8	5Y8/1 灰白色	7C第2？
14	A	19	2	SD03		須恵器	蓋	12.7			N7/0 灰白色	
15	A	16	2	SD03		須恵器	蓋	13.8			5Y7/1 灰白色	
16	A	11	2	SD03		土師器			5.2		5YR7/6 橙色	
17	A	19	2	SD03		土師器			5.8		10YR7/3 にぶい黄橙色	
18	A	13	2	SD03		土師器	甕	11.2			2.5Y8/2 灰白色	7C後半～8C前半
19	A	10	9		表土	須恵器	杯	12.9			2.5Y8/1 灰白色	
20	A	6	3		2a層	須恵器	杯A	13.8	10.2	3.5	2.5Y8/2 灰白色	
21	A	20	5		表土	須恵器	杯B		10.3		7.5Y7/1 灰白色	
22	A	10	9		表土	須恵器	杯B		11.3		N7/0 灰白色	
23	A	10	5		表土	須恵器	蓋				7.5Y7/1 灰白色	
24	A	5	4		2a層	須恵器	蓋	15.5			N7/0 灰白色	
25	A	20	5		表土	須恵器	壷				5Y7/1 灰白色	
26	A	20	2		2a層	珠洲	甕	22.4			N6/0 灰色	
27	A	47	24		2a層	珠洲			19.7		N6/0 灰色	
28	A	4	2		2a層	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ		3.7		2.5Y8/2 灰白色	
29	A	9	3		2a層	土師器	高杯		7.9		2.5Y8/1 灰白色	
30	A	20	2		2a層	土師器	皿		4.6		2.5Y7/3 浅黄色	
31	B	28	2	SD09		須恵器	杯A	12.4	8.6	3.3	5Y7/1 灰白色	
32	B	31	2	SD09		須恵器	杯A	11.9	8.9	3.5	5Y7/1 灰白色	
33	B	28	2	SD09		須恵器	杯B		5.8		N7/0 灰白色	
34	B	33	2	SD09		須恵器	杯B		7.8		N7/0 灰白色	
35	B	28	2	SD09		須恵器	壷				N6/0 灰色	
36	B	28	2	SD09		須恵器	壷				2.5Y7/1 灰白色	
37	B	27	2	SD09		須恵器	甕	32.3			N6/0 灰色	
38	B	29	2	SD09		土師器	甕	25.4			10YR8/3 浅黄橙色	8C後半
39	B	26	3	SD10		須恵器	杯B		6.3		5Y6/1 灰色	
40	B	26	3	SD10		須恵器	杯B	14.9	9.8	3.8	7.5Y6/1 灰色	

第2表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
41	B	25	2	SD10		須恵器	杯	13.2			5Y7/1 灰白色	
42	B	26	2	SD10		須恵器	杯A		7.9		N6/0 灰色	
43	B	25	3	SD10		中世土師器	皿	7.8	6.6	1.7	10YR6/3 にぶい黄橙色	
44	B	26	4	SD10		須恵器	壷		9.2		N6/0 灰色	外面自然釉付着
45	B	26	24	SD10		珠洲	甕		12.2		N6/0 灰色	
46	B	26	3	SD10		珠洲	擂鉢		14.1		N6/0 灰色	
47	B	46	35	SD33		須恵器	双耳瓶				N7/0 灰白色	9C末～10C前半
48	B	48	5	SD33		須恵器	双耳瓶				5YR6/4 にぶい橙色	9C末～10C前半
49	B	41	5	SD33		須恵器	双耳瓶				N7/0 灰白色	9C末～10C前半
50	B	43	5	SD33		須恵器	杯B	11.9	6.4	3.4	2.5Y7/1 灰白色	
51	B	47	5	SD33		須恵器	杯B		6.7		7.5Y7/1 灰白色	
52	B	45	8		2a層	須恵器	杯A	12.0	9.0	2.2	2.5Y7/1 灰白色	
53	B	39	3		2a層	須恵器	杯A	11.3	8.4	2.7	5Y7/1 灰白色	
54	B	40	3		2a層	須恵器	杯A	10.8	7.0	3.4	7.5Y7/1 灰白色	
55	B	43	2		2a層	須恵器	杯A	11.6	8.4	3.0	7.5Y7/1 灰白色	
56	B	39	3		2a層	須恵器	杯A	12.0	9.9	2.9	N7/0 灰白色	
57	B	39	3		2a層	須恵器	杯A	11.8	8.8	3.1	5Y7/1 灰白色	ヘラ切り痕未調整
58	B	30	9		2a層	須恵器	杯A	14.3	11.2	2.6	7.5Y7/1 灰白色	
59	B	35	3		2a層	須恵器	杯B	10.9	5.4	4.8	7.5YR6/2 灰褐色	
60	B	36	2		2a層	須恵器	杯B	12.1	8.3	3.5	N7/0 灰白色	
61	B	27	25		2a層	須恵器	杯B	11.6	6.9	4.7	5Y8/1 灰白色	
62	B	36	4		2a層	須恵器	杯A	11.8	8.1	3.3	5Y7/1 灰白色	底部外面ヘラ記号
63	B	40	8		2a層	須恵器	杯A		7.4		7.5Y7/1 灰白色	底部外面に墨書「□人」
64	B	43	3		2a層	須恵器	蓋	12.0		3.2	2.5Y7/2 灰黄色	8C～9C前半
65	B	47	2		2a層	須恵器	蓋	11.8			N6/0 灰色	8C～9C前半
66	B	45	3		2a層	須恵器	蓋	12.2			N7/0 灰白色	8C～9C前半
67	B	29	2		2a層	須恵器	蓋	12.8			N6/0 灰色	8C～9C前半
68	B	28	2		2a層	須恵器	蓋	14.7			N6/0 灰色	8C～9C前半
69	B	46	3		2a層	須恵器	蓋	14.4		2.5	N6/0 灰色	8C～9C前半
70	B	36	2		2a層	須恵器	蓋	18.5			2.5Y8/1 灰白色	8C～9C前半
71	B	33	3		2a層	須恵器	甕	19.5			10YR6/1 褐灰色	
72	B	27	2		2a層	須恵器		28.4			N7/0 灰白色	
73	B	24	2		2a層	珠洲	甕				N6/0 灰色	
74	B	42	3		2a層	珠洲	甕				7.5Y7/1 灰白色	
75	B	27	2		2a層	珠洲	甕				N7/0 灰白色	
76	B	42	3		2a層	珠洲	擂鉢	31.9			N7/0 灰白色	13C中葉～14C第3
77	B	37	3		2a層	中世土師器	皿	7.6			10YR8/3 浅黄橙色	内面煤付着
78	B	45	3		2a層	中世土師器	皿	8.6		1.4	10YR8/2 灰白色	外面煤付着
79	B	38	2		2a層	土師器	椀	10.8			2.5Y8/2 灰白色	内面黒色
80	B	44	8		2a層	土師器	椀	11.8			2.5Y7/2 灰黄色	内面煤付着

第3表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
81	B	27	2		2a層	青磁	碗	12.2			N7/0 灰白色	釉薬7.5GY7/1 明緑灰色
82	B	30	2		2a層	伊万里	紅皿	5.2	1.4	1.3	N8/0 灰白色	
83	C	61	7	SD35		須恵器	杯A	12.4	9.2	3.2	7.5Y7/1 灰白色	
84	C	62	3	SD35		須恵器	杯A	13.4	9.2	3.6	5Y7/1 灰白色	
85	C	63	3	SD35		須恵器	杯B		6.4		2.5Y7/1 灰白色	重ね焼き痕
86	C	61	7	SD35		須恵器					10YR6/1 褐灰色	内面自然釉　6C代？
87	C	65	3	SD35		弥生土器	甕	14.7			2.5Y8/2 灰白色	弥生後期
88	C	64	3	SD35		土師器			5.4		10YR7/2 にぶい黄橙色	
89	C	62	4	SD35		土師器			3.7		10YR7/2 にぶい黄橙色	
90	C	61	7	SD35		土師器	鍋				2.5Y7/2 灰黄色	足鍋の脚
91	C	61	7	SD35		土師器	鍋				2.5Y6/1 黄灰色	足鍋の脚　外面煤付着
92	C	71	8	SD36		須恵器	杯B	11.9	6.4	3.4	5Y8/1 灰白色	
93	C	71	8	SD36		須恵器	瓶				N7/0 灰白色	
94	C	72	3	SD36		土師器					10YR7/4 にぶい黄橙色	
95	C	71	7	SD36		土師器	甕				7.5YR7/2 明褐灰色	
96	C	70	2	SK18		須恵器	杯	11.0	6.4		5Y7/1 灰白色	
97	C	75	7		2a層	須恵器	杯H		6.0		7.5Y7/1 灰白色	7C第2
98	C	63	3		2a層	須恵器	杯	11.0			7.5Y7/1 灰白色	
99	C	56	3		2a層	須恵器	杯A	11.7	8.4	3.7	2.5Y7/1 灰白色	
100	C	54	3		2a層	須恵器	杯A	12.6	7.5	2.6	N7/0 灰白色	
101	C	55	3		2a層	須恵器	杯B		5.9		N7/0 灰白色	
102	C	66	3		2a層	須恵器	杯B		7.6		N6/0 灰色	
103	C	62	3		2a層	須恵器	杯B		7.2		7.5Y7/1 灰白色	
104	C	63	7		2a層	須恵器	杯B	14.7	9.0	4.2	7.5Y7/1 灰白色	
105	C	76	3		2a層	須恵器	蓋				N7/0 灰白色	
106	C	54	3		2a層	須恵器	壺				2.5Y7/1 灰白色	外面自然釉付着
107	C	64	3		2a層	須恵器	円面硯				N6/0 灰色	体部外面ヘラ記号
108	C	72	7		2a層	越中瀬戸	皿	10.0	4.0	2.5	7.5YR7/3 にぶい橙色	印花文　重ね焼き痕
109	C	66	3		2a層	伊万里	紅皿	4.7	1.7	1.4	7.5Y8/1 灰白色	18C末～幕末頃
110	C	55	3		2a層	中世土師器	皿	8.6			2.5Y8/2 灰白色	
111	C	70	3		2a層	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	3.0	3.8	3.2	2.5Y7/2 灰黄色	5C後半
112	C	69	3		2a層	土師器					10YR8/2 灰白色	外面赤彩
113	C	56	7		2a層	土師器	高杯				2.5Y8/2 灰白色	
114	C	62	3		2a層	土師器	高杯				7.5YR7/4 にぶい橙色	
115	C	57	3		2a層	珠洲			12.2		N7/0 灰白色	
116	C	55	3		2a層	珠洲	擂鉢	30.4			N6/0 灰色	
117	C	69	5		2a層	金属製品	銭					開元通寶
118	C	67	2		2a層	金属製品	銭					寛永通寶
119	D	97	4	SD37		須恵器	杯A		9.0		5Y7/1 灰白色	
120	D	92	3	SD37		須恵器	杯	12.3	9.4		7.5Y7/1 灰白色	

第4表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
121	D	91	3	SD37		須恵器	杯	16.8			7.5Y6/1 灰色	
122	D	89	3	SD37		須恵器	杯B		5.6		N6/0 灰色	
123	D	88	4	SD37		須恵器	杯B		6.2		5Y7/1 灰白色	
124	D	85	4	SD37		須恵器	杯B		7.4		N7/0 灰白色	
125	D	84	4	SD37		須恵器	杯B		7.8		2.5Y7/1 灰白色	
126	D	85	4	SD37		須恵器	蓋	12.6			N6/0 灰色	
127	D	85	4	SD37		須恵器	蓋	15.2			5Y6/1 灰色	
128	D	87	4	SD37		須恵器	甕	16.5			7.5YR6/1 褐灰色	6C後半～7C前半
129	D	87	5	SD37		須恵器	甕	12.3			7.5Y7/1 灰白色	
130	D	88	4	SD37		中世土師器	皿	6.7		1.5	2.5Y8/2 灰白色	
131	D	87	4	SD37		中世土師器	皿	9.0			2.5Y8/2 灰白色	
132	D	88	3	SD37		中世土師器	皿	12.0			10YR8/3 浅黄橙色	
133	D	103	4	SD37		越中瀬戸	皿	10.4			5YR7/4 にぶい橙色	
134	D	86	3	SD37		越中瀬戸	皿	11.1	4.4	1.8	10YR7/4 にぶい黄橙色	削り出し高台
135	D	105	4	SD37		越中瀬戸	皿		4.7		10YR7/2 にぶい黄橙色	削り出し高台
136	D	99	4	SD37		伊万里	碗	10.0			N8/0 灰白色	団鶴　18C後半
137	D	83	4		2a層	須恵器	杯B		5.4		2.5Y7/1 灰白色	
138	D	88	4		2a層	須恵器	杯B		5.2		5Y7/1 灰白色	
139	D	107	4		2a層	須恵器	杯B		7.6		N7/0 灰白色	
140	D	100	8		2a層	須恵器	杯B		7.6		7.5Y7/1 灰白色	
141	D	83	4		2a層	須恵器	杯B		9.3		7.5Y7/1 灰白色	内底面ヘラ記号
142	D	99	4		2a層	須恵器	杯	9.7			2.5Y7/2 灰黄色	
143	D	89	7		2a層	須恵器	杯	10.8			7.5Y7/1 灰白色	
144	D	104	4		2a層	須恵器	杯	14.3			N7/0 灰白色	
145	D	99	8		2a層	須恵器	壷蓋	13.9			N7/0 灰白色	8C後半
146	D	95	4		2a層	唐津	擂鉢		8.8		2.5YR5/3 にぶい赤褐色	
147	D	98	4		2a層	土師器	高杯				7.5YR8/3 浅黄橙色	
148	D	96	2		2a層	土師器	高杯				5YR7/6 橙色	
149	D	96	2		2a層	土師器	小型壷				2.5Y8/2 灰白色	5C中葉～後半
150	D	89	3		2a層	土師器	椀		6.5		10YR8/2 灰白色	内面黒色
151	D	88	5		2a層	中世土師器	皿	9.8			2.5Y7/2 灰黄色	内外面炭化物付着
152	D	86	4		2a層	越中瀬戸	皿	11.4	4.2	2.6	7.5YR7/3 にぶい橙色	削り出し高台
153	D	86	4		2a層	金属製品	銭					
154	D	93	8		2a層	金属製品	銭					寛永通寶
155	E	132	4	SD37		須恵器	杯B		7.0		N7/0 灰白色	
156	E	117	5	SD37		須恵器	杯B		6.7		N7/0 灰白色	
157	E	134	4	SD37		珠洲					N6/0 灰色	外面ヘラ記号
158	E	132	4	SD37		須恵器	甕				10YR7/1 灰白色	8C代
159	E	125	5	SD37		珠洲	擂鉢				N6/0 灰色	14C後半～15C前半
160	E	135	5	SD37		弥生土器	鉢	19.7			2.5Y8/2 灰白色	弥生中期

第5表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
161	E	130	4	SD37		伊万里	盃	8.8	3.8	3.0	N8/0 灰白色	
162	E	130	4	SD37		伊万里	碗		4.2		7.5Y8/1 灰白色	
163	E	133	4	SD37		伊万里	碗		4.2		2.5Y7/1 灰白色	
164	F	162	5	SD37		石製品	勾玉				2.5GY6/1 オリーブ灰色	研磨途中未製品
165	E	134	4	SD37		金属製品	煙管					吸口部
166	E	133	5	SD37		金属製品	銭					寛永通寶
167	E	134	3		3層	木製品	木簡				2.5Y7/3 浅黄色	近世荷札木簡？
168	E	119	3	SK56		土師器	甕	15.4			7.5YR7/4 にぶい橙色	外面煤付着
169	E	125	4	SD62		土師器			6.8		10YR7/3 にぶい黄橙色	外底面煤付着
170	F	151	4	SD37		須恵器	杯B		2.7		N7/0 灰白色	
171	F	143	4	SD37		須恵器	壷蓋	14.4			5Y7/1 灰白色	8C後半
172	F	148	4	SD37		珠洲	甕				N6/0 灰色	13C中葉～後半
173	E	134	3		2a層	須恵器	杯	11.4			5Y8/1 灰白色	
174	E	130	3		2a層	須恵器	杯B	10.1	6.3	3.8	N6/0 灰色	
175	E	130	3		2a層	須恵器	杯B		8.4		N7/0 灰白色	
176	F	157	8		2a層	須恵器	杯	12.4			7.5Y7/1 灰白色	
177	F	150	9		2a層	須恵器	杯B		8.6		5G6/1 緑灰色	
178	F	143	3		2a層	須恵器	瓶	6.2			N7/0 灰白色	
179	F	162	3		2a層	弥生土器	甕	13.2			2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
180	E	136	5		2a層	石製品					N7/0 灰白色	管玉未製品？
181	F	158	7		2a層	金属製品	煙管					首部
182	F	160	7		2a層	金属製品	煙管					吸口部
183	A	5	5	SD18		須恵器	杯A	11.1	7.3	3.3	5Y8/1 灰白色	外底面ヘラ記号
184	A	10	7	SD20		土師器	甕	18.6			10YR7/2 にぶい黄橙色	古墳前期
185	A	10	7	SD20		土師器	甕	19.5			2.5Y7/2 灰黄色	古墳前期
186	B	47	4	SK26		須恵器	杯B				5Y7/1 灰白色	
187	B	47	5	SK26		土師器	椀		6.5		10YR7/3 にぶい黄橙色	
188	B	46	5	SK26		土師器	甕	18.7			10YR7/2 にぶい黄橙色	古墳前期
189	A	10	8		2b層	須恵器	杯A	10.9	7.8	2.9	5YR7/1 明褐灰色	
190	A	4	2		2b層	須恵器	杯A	11.7	8.6	3.6	5Y8/2 灰白色	
191	A	4	5		2b層	須恵器	杯B	10.2	6.7	4.7	7.5Y7/1 灰白色	
192	A	19	3		2b層	須恵器	杯B	13.4	7.6	3.3	5Y6/1 灰色	8C第2
193	A	5	8		2b層	須恵器			5.5		5YR6/1 褐灰色	
194	A	19	3		2b層	珠洲	甕				5Y7/1 灰白色	13C中葉～後半
195	A	19	3		2b層	土師器	鉢	27.6			2.5Y7/1 灰白色	
196	A	13	5		3層	土師器	甕	15.9			10YR8/3 浅黄橙色	古墳前期
197	A	13	5		3層	土師器	甕	17.5			2.5Y7/2 灰黄色	古墳前期
198	B	41	2		2b層	須恵器	杯A	11.4	6.6	3.1	2.5YR6/4 にぶい橙色	焼成不良
199	B	27	1		2b層	須恵器	杯A	11.4	7.5	3.5	7.5Y7/1 灰白色	
200	B	24	8		3層	須恵器	杯A	11.2	7.8	3.0	5Y6/2 灰オリーブ色	

第6表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
201	B	28	8		2b層	須恵器	杯B		6.8		5Y8/1 灰白色	
202	B	36	2		2b層	須恵器	杯B		6.6		N7/0 灰白色	
203	B	36	2		2b層	須恵器					N6/0 灰色	外面自然釉　6C代？
204	B	41	2		2b層	須恵器	蓋	11.8		2.2	N7/0 灰白色	
205	B	32	1		2b層	須恵器	蓋				5Y7/1 灰白色	
206	B	48	3		2b層	須恵器	蓋	17.0		3.9	5Y6/1 灰色	
207	B	37	2		2b層	須恵器	甕	26.4			N7/0 灰白色	
208	B	24	2		2b層	土師器	器台				7.5YR8/4 浅黄橙色	内外面赤彩　古墳前期
209	B	24	4		2b層	中世土師器	皿	8.4	5.6	1.6	2.5Y8/2 灰白色	
210	B	24	4		2b層	中世土師器	皿	7.3	5.6	1.4	2.5Y8/2 灰白色	
211	B	24	4		2b層	中世土師器	皿	7.8	4.9	1.7	10YR8/2 灰白色	
212	B	33	4		3層	土製品	土錘				10YR7/2 にぶい黄橙色	
213	B	28	4		3層	土製品	土錘				2.5Y8/2 灰白色	
214	B	30	6		2b層	金属製品	銭					大観通寶
215	B	40	9		2b層	金属製品	銭					寛永通寶
216	B	36	7		2b層	金属製品	銭					寛永通寶
217	C	63	3	SD47		須恵器	杯A		8.6		5Y7/1 灰白色	内底面ヘラ記号
218	C	62	4	SD47		土師器		10.9			2.5Y7/2 灰黄色	
219	C	62	4	SD47		土師器	甕	15.6			10YR6/3 にぶい黄橙色	
220	C	63	5	SK40		弥生土器?	高杯				10YR7/3 にぶい黄橙色	弥生後期？
221	C	63	5	SK40		弥生土器	甕	14.4	2.0	17.4	2.5Y7/2 灰黄色	外面煤付着　弥生後期
222	C	60	4	SK35		須恵器	蓋	11.8			N7/0 灰白色	内面墨痕
223	C	61	5	SK32		須恵器	杯B		6.6		7.5Y8/1 灰白色	
224	C	61	5	SK32		須恵器	杯	16.2			5Y7/1 灰白色	
225	C	61	5	SK32		須恵器	蓋	17.5			5Y8/1 灰白色	
226	C	61	6	SK32		珠洲	甕		14.6		5Y7/1 灰白色	
227	C	65	3		3層	弥生土器	器台				10YR8/2 灰白色	弥生後期
228	C	64	4		3層	土師器		9.9			7.5YR7/4 にぶい橙色	
229	C	65	3		3層	弥生土器	器台		16.6		2.5Y7/2 灰黄色	弥生後期
230	C	64	4		3層	土師器			5.4		2.5Y8/2 灰白色	外面煤付着　外底面ヘラ記号
231	C	63	4		3層	土師器			5.2		10YR7/3 にぶい黄橙色	外面煤付着　外底面ヘラ記号
232	C	64	4		3層	土師器	器台				10YR7/2 にぶい黄橙色	
233	C	64	4		3層	土師器	器台				10YR7/3 にぶい黄橙色	円孔4箇所
234	C	64	4		3層	土師器	甕	14.5			10YR7/2 にぶい黄橙色	
235	C	65	5		3層	土師器	甕	16.0			7.5YR8/3 浅黄橙色	
236	C	64	4		3層	土師器	甕	17.3			2.5Y7/2 灰黄色	
237	C	62	4		3層	須恵器	蓋				N7/0 灰白色	
238	C	72	5		2b層	須恵器	蓋	15.5		3.7	7.5Y7/1 灰白色	
239	C	69	4		3層	須恵器	壷蓋	14.0			7.5Y7/1 灰白色	
240	C	62	5		3層	須恵器	杯B	11.7	6.4	4.1	N6/0 灰色	

第７表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
241	C	68	5		2b層	須恵器	杯B	14.8	10.2	3.7	2.5Y8/1 灰白色	
242	C	62	3		2b層	須恵器	杯B		7.8		5Y7/1 灰白色	外底面墨痕
243	C	73	7		3層	須恵器	杯A	13.4	9.6	3.1	7.5Y7/1 灰白色	
244	C	64	3		2b層	須恵器	高杯		9.8		N6/0 灰色	6C後半～7C前半？
245	C	69	4		3層	須恵器	甕				5Y7/2 灰白色	
246	C	69	5		2b層	土製品	土錘				2.5Y8/2 灰白色	
247	C	61	5		3層	弥生土器	甕	15.0			7.5YR7/4 にぶい橙色	弥生後期
248	C	62	3		3層	土師器	甕	15.7			10YR7/3 にぶい黄橙色	
249	C	62	4		3層	土師器	甕		5.7		2.5Y8/2 灰白色	外底面ヘラ記号
250	C	63	4		3層	土師器	甕		5.6		10YR8/1 灰白色	外底面ヘラ記号
251	C	61	4		3層	土師器	甕	14.6			2.5Y7/2 灰黄色	
252	C	58	4		3層	弥生土器	壷	12.7			2.5Y7/3 浅黄色	弥生後期
253	C	62	4		3層	弥生土器	壷	15.7			5Y7/1 灰白色	弥生後期
254	C	58	4		2b層	弥生土器	台付鉢		4.6		5YR7/6 橙色	
255	C	61	3		2b層	土師器	蓋				7.5YR7/4 にぶい橙色	古墳前期
256	C	63	5		3層	土師器	甕	4.2	2.4	7.3	10YR7/2 にぶい黄橙色	ミニチュア土器
257	C	56	7		3層	弥生土器	高杯				10YR8/3 浅黄橙色	弥生後期
258	C	57	2		3層	弥生土器	高杯				7.5YR8/3 浅黄橙色	弥生後期
259	C	63	2		2b層	弥生土器	器台		20.8		2.5Y8/2 灰白色	外面赤彩　弥生後期
260	C	63	2		2b層	弥生土器			6.6		10YR7/2 にぶい黄橙色	
261	D	98	4	SD48		須恵器	甕	22.0			N7/0 灰白色	
262	D	87	4	SD48		須恵器	杯B		7.0		N7/0 灰白色	
263	D	87	4	SD48		土師器	椀		5.6		2.5Y8/2 灰白色	内面黒色
264	D	106	3	SD51		土師器	甕	15.8			10YR7/2 にぶい黄橙色	
265	D	106	3	SD51		弥生土器	壷				10YR8/2 灰白色	弥生中期
266	D	107	4	SD51		弥生土器		18.6			10YR8/2 灰白色	弥生中期
267	D	106	3	SD51		弥生土器	無頸壷	9.0			2.5Y8/3 淡黄色	弥生中期後半
268	D	83	4		2b層	須恵器	杯A	12.5			2.5Y8/1 灰白色	
269	D	99	3		2b層	須恵器	杯B		6.2		N7/0 灰白色	
270	D	84	4		2b層	須恵器	杯B	10.6	6.2	4.1	7.5Y7/1 灰白色	
271	D	85	5		3層	須恵器	杯B	14.0	7.2	6.5	N6/0 灰色	
272	D	83	7		3層	須恵器	杯	17.0			N7/0 灰白色	
273	D	99	3		3層	須恵器		13.0			2.5Y7/1 灰白色	
274	D	99	5		2b層	珠洲	擂鉢		11.6		7.5Y7/1 灰白色	13C中葉～14C第3
275	D	84	4		2b層	須恵器	甕	45.0			N7/0 灰白色	8C代
276	D	94	3		2b層	土師器	甕	15.7	7.2	31.3	2.5Y7/2 灰黄色	
277	D	106	3		3層	弥生土器	甕	29.0			10YR8/2 灰白色	弥生中期
278	D	94	3		2b層	土師器	甕	25.8			10YR8/2 灰白色	
279	D	95	2		2b層	土師器	甕	17.5			2.5Y8/2 灰白色	
280	D	107	7		3層	土師器			7.5		10YR8/2 灰白色	

第8表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
281	E	127	3	SK76		弥生土器	壷	14.1			10YR8/3 浅黄橙色	弥生中期
282	E	127	4	SK76		弥生土器	壷	18.8			2.5Y7/1 灰白色	弥生中期
283	E	127	4	SK76		弥生土器	壷	18.0			2.5Y7/3 浅黄色	弥生中期
284	E	127	4	SK76		弥生土器	壷	17.5			2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
285	E	127	3	SK76		弥生土器	無頸壷	6.8			2.5Y8/3 淡黄色	弥生中期
286	E	127	4	SK76		弥生土器	無頸壷	9.4			10YR8/3 浅黄橙色	弥生中期
287	E	127	4	SK76		弥生土器			4.7		2.5Y6/2 灰黄色	外面煤付着　弥生中期
288	E	127	4	SK76		弥生土器			5.8		7.5YR7/6 橙色	弥生中期
289	E	127	4	SK76		弥生土器			5.4		10YR6/2 灰黄褐色	外面煤付着　弥生中期
290	E	127	4	SK76		弥生土器			7.5		2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
291	E	127	4	SK76		弥生土器	甕	15.6			10YR8/4 浅黄橙色	外面煤付着　弥生中期
292	E	128	4	SK76		弥生土器	甕	18.3			2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
293	E	126	3	SK76		弥生土器	甕	19.4			10YR7/3 にぶい黄橙色	外面煤付着　弥生中期
294	E	127	4	SK76		弥生土器	甕	21.3	6.5	29.0	10YR8/3 浅黄橙色	外面煤付着　底部穿孔
295	E	127	3	SK76		弥生土器	甕	19.4			10YR8/2 灰白色	弥生中期
296	E	127	3	SK76		弥生土器	甕	16.0			10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着　弥生中期
297	E	127	4	SK76		弥生土器	甕	16.7			2.5Y7/1 灰白色	外面煤付着　弥生中期
298	E	127	4	SK76		弥生土器	台付鉢	18.2			7.5YR7/4 にぶい橙色	弥生中期
299	E	128	4	SK76		弥生土器			7.2		2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
300	E	128	4	SK76		石製品	砥石					
301	E	120	6	SK81		弥生土器	壷	18.5			2.5Y6/1 黄灰色	弥生中期
302	E	120	7	SK81		弥生土器	壷	20.9			2.5Y8/3 淡黄色	弥生中期
303	E	120	7	SK81		弥生土器	壷	18.8			10YR7/3 にぶい黄橙色	弥生中期
304	E	120	6	SK81		弥生土器	壷	16.0			10YR7/3 にぶい黄橙色	弥生中期
305	E	120	7	SK81		弥生土器	壷	15.9			10YR7/3 にぶい黄橙色	弥生中期
306	E	120	7	SK81		弥生土器	甕		5.7		7.5YR8/4 浅黄橙色	外面煤付着　弥生中期
307	E	120	7	SK81		弥生土器	甕		6.4		2.5Y8/2 灰白色	外面煤付着　弥生中期
308	E	120	7	SK81		弥生土器	甕	14.6			2.5Y7/3 浅黄色	外面煤付着　弥生中期
309	E	120	7	SK81		弥生土器	甕	19.9			10YR8/2 灰白色	外面煤付着　弥生中期
310	E	120	7	SK81		弥生土器	壷				7.5YR8/3 浅黄橙色	東日本系　弥生中期
311	E	120	7	SK81		弥生土器	壷		8.7		2.5Y8/1 灰白色	東日本系　弥生中期
312	E	135	7	SD73		土師器	甕				10YR7/2 にぶい黄橙色	9C代
313	E	138	7	SD73		土師器	甕				10YR8/3 浅黄橙色	9C代
314	E	136	7	SD73		中世土師器	皿	10.5	4.9	1.5	2.5Y8/2 灰白色	内底面煤付着
315	E	131	7	SD73		須恵器	杯	13.8			N7/0 灰白色	
316	E	130	7	SD73		須恵器	杯A		7.9		N7/0 灰白色	
317	E	136	7	SD73		須恵器	蓋	14.4			5Y7/1 灰白色	
318	E	136	7	SD73		須恵器	蓋	15.6			10YR7/2 にぶい黄橙色	
319	E	134	7	SD73		石製品	勾玉				7.5Y8/1 灰白色	ヒスイ
320	E	133	7	SD73		金属製品	銭					開元通寶

第9表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
321	E	114	3	SD70		弥生土器	甕	15.6			10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着　弥生中期
322	E	137	3	SK90		弥生土器	壷	13.2			10YR8/2 灰白色	弥生中期
323	E	135	3	SK90		弥生土器			6.8		10YR7/2 にぶい黄橙色	弥生中期
324	E	135	3	SK90		弥生土器	甕	20.4			2.5Y6/1 黄灰色	弥生中期
325	E	130	2	SD71		弥生土器	壷	12.9			7.5YR7/4 にぶい橙色	弥生中期
326	E	130	4	SD71		弥生土器	甕				7.5YR7/4 にぶい橙色	外面煤付着　弥生中期
327	E	133	3	SD72		弥生土器	甕	14.5			7.5YR8/1 灰白色	外面煤付着　弥生中期
328	E	133	2	SD72		弥生土器	壷				10YR7/4 にぶい黄橙色	東日本系？　弥生中期
329	E	132	5	SD74		須恵器	蓋	10.8			5Y7/1 灰白色	
330	E	133	3		3層	須恵器	杯B		6.1		N7/0灰白色	
331	E	126	3		2b層	須恵器	杯B		4.6		N6/0 灰色	
332	E	129	3		2b層	須恵器	杯B		7.0		7.5YR6/1 褐灰色	
333	E	135	7		3層	須恵器	杯B	13.5	8.7	4.0	7.5Y7/1 灰白色	
334	E	125	7		3層	須恵器	杯A		8.0		7.5Y7/1 灰白色	
335	E	114	8		3層	須恵器	杯A		7.2		5Y8/1 灰白色	内面煤付着
336	E	117	3		2b層	須恵器	壷	9.3			N6/0 灰色	
337	E	125	3		2b層	珠洲	擂鉢				N7/0 灰白色	13C中葉～14C第3
338	E	132	4		3層	越中瀬戸	皿	7.0	3.4	1.5	10YR7/3 にぶい黄橙色	
339	E	120	3		3層	弥生土器	鉢	15.4			2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
340	E	130	3		2b層	弥生土器			7.3		10YR8/3 浅黄橙色	弥生中期
341	E	134	2		3層	弥生土器			7.8		2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
342	F	157	6	SD73		須恵器	杯H	11.4			2.5Y7/1 灰白色	7C前半
343	F	163	8	SD73		須恵器	杯H		6.7		2.5YR5/1 赤灰色	
344	F	163	8	SD73		須恵器	杯A		7.8		2.5Y7/1 灰白色	
345	F	159	8	SD73		須恵器	杯A	11.7	10.0	3.1	N6/0 灰色	
346	F	155	6	SD73		須恵器	杯A	14.1	9.4	3.0	7.5Y7/1 灰白色	
347	F	156	6	SD73		須恵器	杯	10.1			10YR7/3 にぶい黄橙色	
348	F	158	8	SD73		須恵器	杯B	10.6	6.4	4.4	5Y6/1 灰色	
349	F	156	8	SD73		須恵器	杯B		8.0		2.5Y8/1 灰白色	
350	F	163	8	SD73		須恵器	甕				2.5Y7/1 灰白色	
351	F	156	7	SD73		須恵器	甕	26.1			2.5Y8/1 灰白色	
352	F	155	8	SD73		珠洲	甕				7.5Y6/1 灰色	
353	F	155	6	SD73		珠洲	擂鉢		9.4		N7/0 灰白色	13C中葉～14C第3
354	F	155	8	SD73		珠洲	擂鉢		10.4		7.5YR7/3 にぶい橙色	
355	F	156	5	SD73		越中瀬戸	向付		10.0		2.5Y7/1 灰白色	鉄釉
356	F	159	8	SD73		土師器	甕	15.3			2.5Y7/2 灰黄色	
357	F	145	5	SD73		土師器	高杯				10YR8/3 浅黄橙色	
358	F	154	7	SD73		土師器	高杯				10YR8/2 灰白色	古墳前期
359	F	154	8	SD73		土師器			5.4		5Y5/1 灰色	
360	F	155	6	SD73		土師器			3.4		10YR8/2 灰白色	

第10表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
361	F	161	7	SD73		中世土師器	皿	8.5	7.8	1.7	2.5Y8/2 灰白色	
362	F	160	7	SD73		中世土師器	皿	10.6			10YR8/3 浅黄橙色	
363	F	163	8	SD73		石製品	石鏃				10YR5/1 褐灰色	凹基式
364	F	159	8	SD73		石製品	石鏃				5Y6/2 灰オリーブ色	凹基式
365	F	155	7	SD73		金属製品	銭					紹聖元寶
366	F	161	7	SD73		瓦	平瓦?				2.5Y8/2 灰白色	
367	F	161	7	SD73		石製品	砥石				10YR7/4 にぶい黄橙色	
368	F	161	3	SD80		須恵器	杯H	10.0			5Y8/1 灰白色	7C前半
369	F	161	3	SD80		須恵器	杯H	11.3			10YR8/3 浅黄橙色	7C前半
370	F	161	3	SD80		須恵器	壷	10.0			5Y5/1 灰色	内外面自然釉付着
371	F	160	4	SD80		須恵器	壷	12.6			2.5Y7/1 灰白色	
372	F	161	3	SD80		土師器	甕	19.7			10YR7/4 にぶい黄橙色	9C代
373	F	161	3	SD80		土製品	紡錘車				2.5Y7/2灰黄色	
374	F	161	3	SD80		珠洲	壷	22.2			2.5Y8/1 灰白色	
375	F	161	3	SD80		珠洲	擂鉢		12.5		N7/0 灰白色	
376	F	151	2	SK109		土師器	壷		5.2		10YR6/2 灰黄褐色	外面煤付着　古墳前期
377	F	151	2	SK109		土師器	壷	14.1	5.8	28.2	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着　古墳前期
378	F	151	2	SK109		土師器	壷	12.1	6.6	22.0	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着　古墳前期
379	F	151	2	SK109		土師器	甕	24.4			7.5YR7/4 にぶい橙色	
380	F	150	3		3層	須恵器	杯B		7.3		2.5Y8/1 灰白色	墨書「波」ヘラ記号
381	F	163	4		3層	弥生土器	壷	11.4			10YR7/2 にぶい黄橙色	弥生中期
382	F	161	5		3層	弥生土器	甕		8.1		10YR7/3 にぶい黄橙色	
383	F	163	4		3層	弥生土器	甕	20.8			2.5Y7/2 灰黄色	外面煤付着　弥生中期
384	F	163	4		3層	弥生土器			4.5		10YR7/2 にぶい黄橙色	
385	F	163	4		3層	弥生土器			6.9		7.5YR8/3 浅黄橙色	
386	F	145	5		3層	土師器	甕	14.2			5Y4/1 灰色	外面煤付着　古墳前期
387	F	156	3		3層	土師器	高杯				2.5Y6/1 黄灰色	
388	G	194	3	SD91		土師器	壷	14.3			5Y7/1 灰白色	
389	G	193	2	SD91		弥生土器	壷	14.9			7.5YR8/4 浅黄橙色	
390	G	193	3	SD91		弥生土器			7.8		2.5Y7/2 灰黄色	
391	G	193	3	SD91		弥生土器	鉢	20.8			2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
392	G	196	4	SD91		須恵器	蓋	12.4		5.2	N6/0 灰色	6C代
393	G	193	2	SD91		土師器	高杯		8.0		5YR7/6 橙色	
394	G	193	2	SD91		土師器	高杯				5YR7/6 橙色	
395	G	193	2	SD91		土師器	高杯	13.8	7.8	8.2	5YR7/6 橙色	杯部内面黒色処理
396	G	193	2	SD91		土師器	高杯				5YR7/6 橙色	
397	G	191	2	SD91		石製品	石鏃				2.5Y3/1 黒褐色	凸基式
398	G	190	2	SD91		土師器	椀	14.5	2.4	4.9	2.5Y8/2 灰白色	内面黒色処理　6C前半?
399	G	190	2	SD91		土師器	椀	14.9		6.6	5YR7/4 にぶい橙色	
400	G	191	3	SD91		土師器	甕	15.8			10YR7/3 にぶい黄橙色	外面煤付着

第11表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
401	G	193	3	SD91		土師器	甕	15.0			2.5Y6/1 黄灰色	外面煤付着
402	G	189	4	SD89		弥生土器	無頸壷	7.4	6.0	16.0	2.5Y8/2 灰白色	東日本系？　弥生中期
403	G	189	4	SD89		弥生土器			5.6		2.5Y8/2 灰白色	
404	G	176	5	SD83		弥生土器	壷	8.8			7.5YR8/4 浅黄橙色	東海系？　弥生中期
405	G	193	2	SD90		弥生土器			10.8		10YR8/3 浅黄橙色	
406	G	194	2	SD90		弥生土器			5.8		2.5Y6/1 黄灰色	
407	G	194	2	SD90		弥生土器	壷				2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
408	G	194	4	SD90		弥生土器	壷	21.6			10YR8/2 灰白色	弥生中期
409	G	195	7	SD73		弥生土器	壷	22.2			2.5Y6/1 黄灰色	弥生中期
410	G	197	8	SD73		土師器	壷	28.0			5Y4/1 灰色	
411	G	197	8	SD73		土師器	壷	23.0			10YR7/3 にぶい黄橙色	
412	G	195	7	SD73		弥生土器	壷		6.6		2.5Y7/2 灰黄色	
413	G	191	5	SD73		弥生土器	無頸壷	8.3	5.9	11.4	2.5Y8/2 灰白色	弥生中期
414	G	193	8	SD73		弥生土器			9.0		2.5Y8/2 灰白色	
415	G	194	8	SD73		須恵器	杯B	11.4	6.8	4.1	7.5Y7/1 灰白色	
416	G	196	8	SD73		珠洲	擂鉢	28.9			7.5Y6/1 灰色	
417	G	197	8	SD73		中世土師器	皿	7.0			2.5Y7/2 灰黄色	口端部煤付着
418	G	187	8	SD73		中世土師器	皿	7.5	1.9		2.5Y8/2 灰白色	口端部煤・炭化物付着
419	G	197	8	SD73		中世土師器	皿	11.3			10YR8/2 灰白色	
420	G	186	8	SD73		中世土師器	皿	11.6			10YR7/3 にぶい黄橙色	
421	G	197	5	SD73		金属製品	銭					寛永通寶　背波文
422	G	196	5	SD73		伊万里	皿	13.4	6.6	3.9	N7/0 灰白色	砂高台
423	G	198	5	SD73		越中瀬戸	皿		3.6		10YR7/3 にぶい黄橙色	鉄釉
424	G	195	2		3層	弥生土器			7.0		2.5Y8/2 灰白色	
425	G	187	3		3層	弥生土器			5.4		10YR8/3 浅黄橙色	
426	G	194	2		3層	土師器	椀	19.6			5Y8/1 灰白色	
427	G	183	4		3層	弥生土器	壷	19.5			2.5Y8/2 灰白色	弥生後期？
428	H	210	3	SX01		土師器	鉢?	15.9			2.5Y8/3 淡黄色	外面煤付着
429	H	210	2	SX01		土師器	蓋				2.5Y8/3 淡黄色	
430	H	210	3	SX01		土師器	蓋	12.1		5.0	10YR8/3 浅黄橙色	
431	H	210	3	SX01		土師器	甕	16.0			2.5Y7/2 灰黄色	外面煤付着
432	H	210	2	SX01		土師器	甕	13.4			2.5Y7/1 灰白色	外面煤付着
433	H	210	3	SX01		土師器	甕	15.5	2.9	22.8	2.5Y8/3 淡黄色	外面煤付着
434	H	210	3	SX01		土師器	甕	15.4			10YR8/3 浅黄橙色	
435	H	210	2	SX01		土師器	甕	17.0			10YR8/2 灰白色	
436	H	210	2	SX01		土師器	甕	19.0			10YR7/3 にぶい黄橙色	外面煤付着
437	H	210	3	SX01		土師器	甕	19.1			2.5Y7/2 灰黄色	外面煤付着
438	H	210	2	SX01		土師器	甕	27.0			2.5Y7/2 灰黄色	外面煤・炭化物付着
439	H	210	3	SX01		土師器	甕	14.4	2.2	17.7	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着
440	H	210	3	SX01		土師器	甕	15.2	2.1	17.3	10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着

第12表　遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	備考
		X	Y									
441	H	210	3	SX01		土師器	甕				10YR7/2 にぶい黄橙色	外面煤付着
442	H	210	3	SX01		土師器	甕		2.4		2.5Y6/1 黄灰色	外面煤付着
443	H	210	3	SX01		土師器	甕	16.6			10YR7/3 にぶい黄橙色	外面煤付着
444	H	210	2	SX01		土師器	高杯		7.1		10YR8/3 浅黄橙色	外面煤付着
445	H	210	3	SX01		土師器	高杯	20.6	12.6	13.6	2.5Y8/3 淡黄色	内外面赤彩
446	H	210	2	SX01		土師器	器台		12.1		10YR8/2 灰白色	外面赤彩
447	H	210	3	SX01		土師器	器台		12.1		2.5Y8/2 灰白色	
448	H	210	3	SX01		土師器	器台	9.6	12.2	9.5	10YR8/3 浅黄橙色	外面赤彩
449	H	210	3	SX01		土師器	器台	10.3	12.6	9.3	10YR8/2 灰白色	内外面赤彩
450	H	210	3	SX01		土師器	器台	20.1	12.0	11.5	2.5Y8/2 灰白色	外面赤彩
451	H	210	3	SX01		土師器	有孔鉢	17.8		9.3	2.5Y7/2 灰黄色	底部穿孔
452	H	210	3	SX01		土師器	有孔鉢	16.7		10.1	2.5Y8/2 灰白色	底部穿孔
453	H	210	3	SX01		土師器	壷	14.6	8.2	31.3	2.5Y8/3 淡黄色	
454	H	210	3	SX01		土師器	壷				7.5YR8/2 灰白色	
455	H	210	3	SX01		弥生土器	壷	15.0	6.0	29.4	2.5Y8/2 灰白色	弥生終末期
456	H	224	7	SD73		須恵器	杯A	13.0	7.9		5Y7/1 灰白色	
457	H	208	7	SD73		須恵器	杯	15.6			N6/0 灰色	
458	H	209	7	SD73		須恵器	蓋	13.3			7.5Y7/1 灰白色	
459	H	204	7	SD73		弥生土器	壷	11.5	6.0	23.9	2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
460	H	226	7	SD73		中世土師器	皿	7.9			2.5Y7/3 浅黄色	
461	H	226	7	SD73		中世土師器	皿	8.9			10YR8/2 灰白色	
462	H	202	7	SD73		金属製品	銭					永楽通寶
463	H	205	7	SD73		金属製品	銭					永楽通寶
464	H	226	6	SD73		石製品	砥石				2.5GY8/1 灰白色	
465	H	223	7	SD73		石製品	板碑				7.5Y8/1 灰白色	
466	H	208	7	SD73		石製品	水輪				5Y6/2 灰オリーブ色	梵字「バン」14C末～15C前半
467	H	212	4	SD97		弥生土器	壷	15.0	7.5	31.7	5Y7/1 灰白色	弥生中期
468	H	212	4	SD97		弥生土器	鉢	18.0	4.4	9.6	2.5Y7/2 灰黄色	弥生中期
469	H	208	7	SK151		弥生土器	甕	16.5	4.4	21.5	10YR8/2 灰白色	外面煤付着　弥生中期
470	H	217	3	SD98		弥生土器	壷	13.8	7.6		2.5Y8/3 淡黄色	底面葉脈文　弥生中期
471	H	202	8		3層	弥生土器	壷	17.0	6.9		10YR8/1 灰白色	弥生中期
472	H	210	3		2b層	土師器	高杯				2.5Y7/3 浅黄色	
473	H	210	8		2b層	土師器			6.0		2.5Y8/3 淡黄色	
474	H	212	3		2b層	珠洲	擂鉢		9.6		5Y7/1 灰白色	
475	I	242	6	SD73		珠洲			11.2		10YR6/1 褐灰色	
476	I	234	7	SD73		珠洲	擂鉢		12.3		N6/0 灰色	
477	I	234	7	SD73		越中瀬戸	碗		3.4		5Y8/1 灰白色	
478	I	234	7	SD73		金属製品	銭					永楽通寶
479	I	236	7	SD73		石製品	地輪				5Y6/2 灰オリーブ色	
480	I	240	8	SD113		土師器	甕				2.5Y7/2 灰黄色	外面煤付着
481	I	238	8	SD113		土師器	壷	12.0			10YR7/2 にぶい黄橙色	
482	I	239	8	SD113		土師器	壷	17.4			2.5Y6/3 にぶい黄色	
483	I	240	8	SD113		土師器	甕		3.7		10YR8/2 灰白色	底部穿孔

写　真　図　版

図版1

1.小林遺跡遠景（北から）

2.小林遺跡遠景（南から）

1.遺構全景〔B地区〕
（南から）

2.遺構全景〔E地区〕
（北から）

図版3

1.遺構全景〔E地区〕
（北から）

2.遺構全景〔F地区〕
（北から）

3.遺構全景〔G地区〕
（北から）

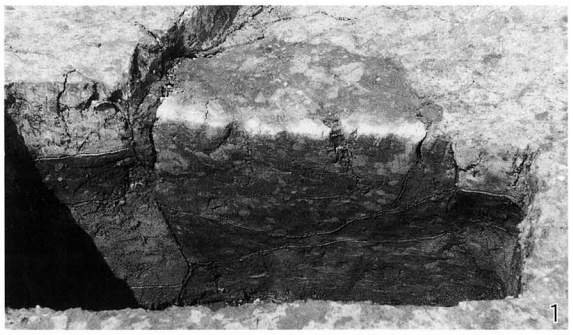
4.遺構全景〔H地区〕
（北から）

5.遺構全景〔I地区〕
（北から）

6.掘立柱建物〔G地区〕
（北から）

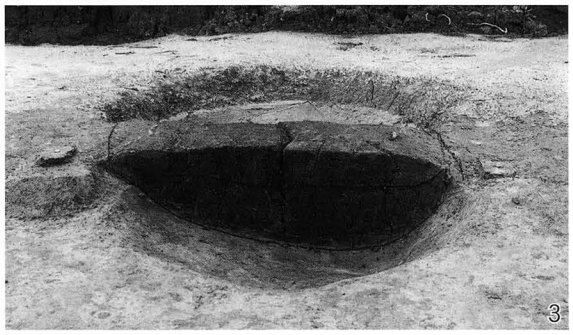
1.井戸SE01〔C地区〕
（南から）

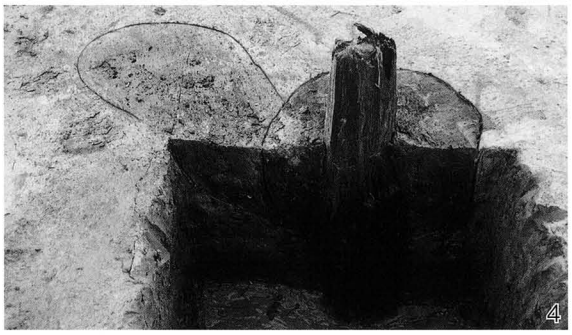
2.土坑SK76〔E地区〕
（南から）



3.土坑SK90〔E地区〕
（東から）

4.掘立柱建物SB03の
柱穴P-4〔G地区〕
（東から）





5.溝SD107〔H地区〕
（北から）

6.溝SD73〔I地区〕
（南から）

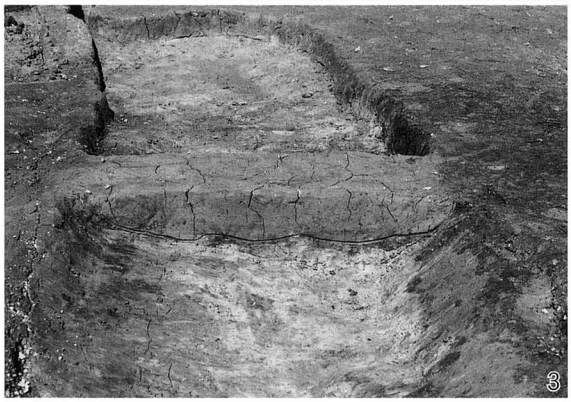
7.作業風景〔C地区〕
（北から）

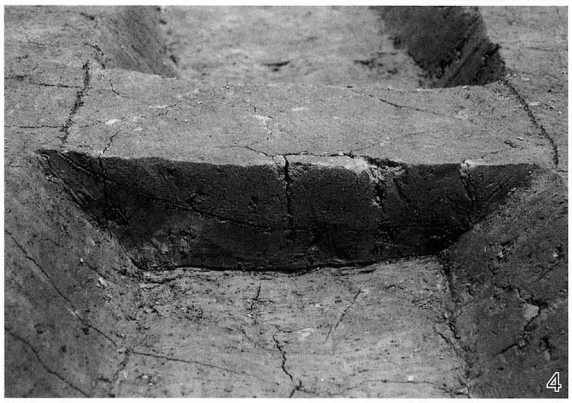
8.作業風景〔E地区〕
（北から）

図版5

1.溝SD01C－C'〔A地区〕
（西から）

2.溝SD01D－D'〔A地区〕
（西から）





3.溝SD03B－B'〔A地区〕
（南から）

4.溝SD35D－D'〔C地区〕
（南から）

5.土坑SK16〔C地区〕
（東から）

6.土坑SK17〔C地区〕
（東から）

7.溝SD37B－B'〔D地区〕
（西から）

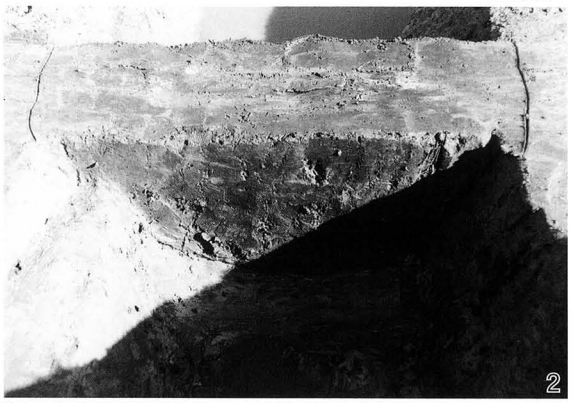
6.溝SD37C－C'〔D地区〕
（北から）

9.土坑SK55〔E地区〕
（西から）

10.溝SD37K－K'〔F地区〕
（南から）

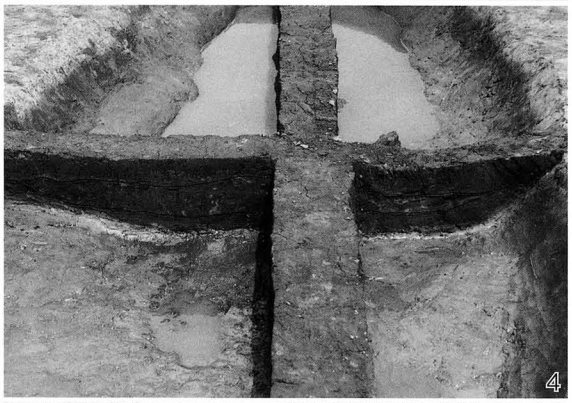
1.溝SD20A－A'〔A地区〕
（西から）

2.溝SD24B－B'〔A地区〕
（南から）



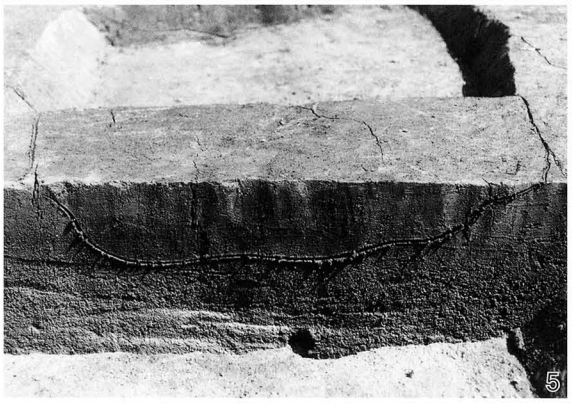
3.溝SD24D－D'〔B地区〕
（西から）

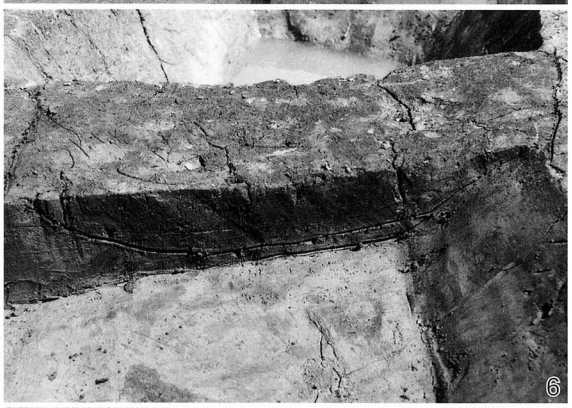
4.土坑SK26B－B'〔B地区〕
（南から）



5.溝SD47A－A'〔C地区〕
（西から）

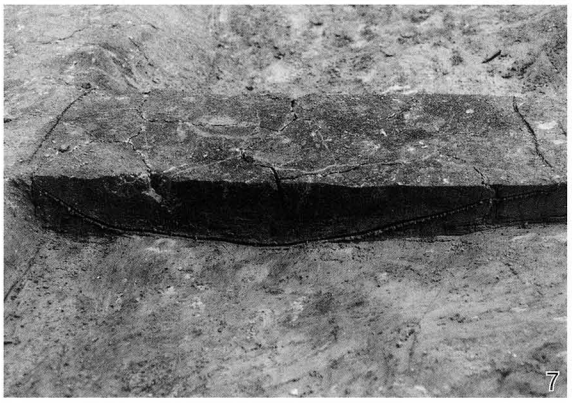
6.溝SD47B－B'〔C地区〕
（西から）





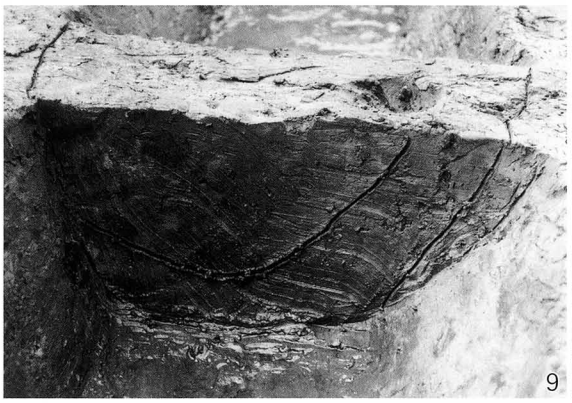
7.溝SD47C－C'〔C地区〕
（西から）

8.溝SD48A－A'〔D地区〕
（南から）

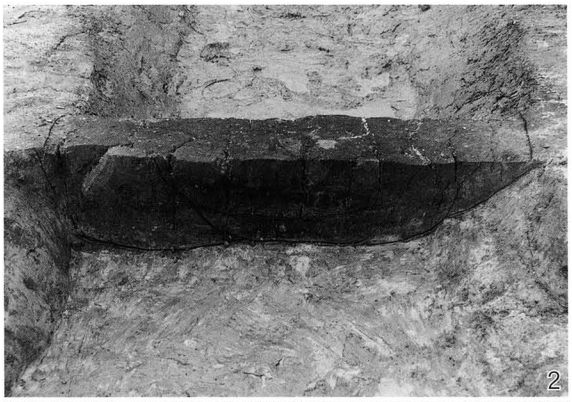


9.溝SD51A－A'〔D地区〕
（南から）

10.溝SD51B－B'〔D地区〕
（南から）

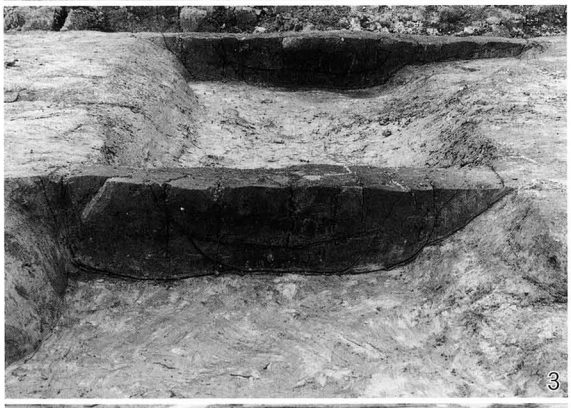


図版7



1.溝SD71A－A'〔E地区〕
（東から）

2.溝SD71B－B'〔E地区〕
（東から）



3.溝SD71〔E地区〕
（東から）

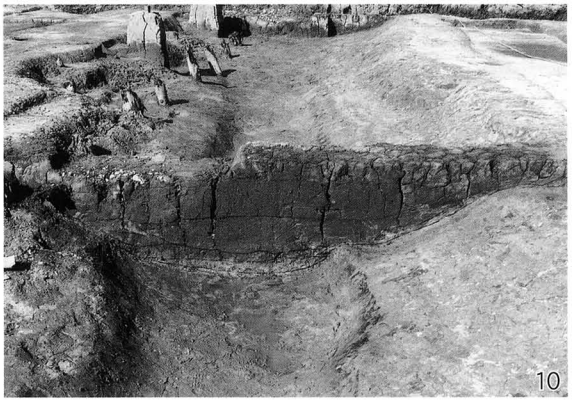
4.溝SD72A－A'〔E地区〕
（東から）

5.溝SD73A－A'〔E地区〕
（南から）

6.溝SD73B－B'〔E地区〕
（南から）

7.溝SD74A－A'〔E地区〕
（南から）

8.溝SD74B－B'〔E地区〕
（南から）

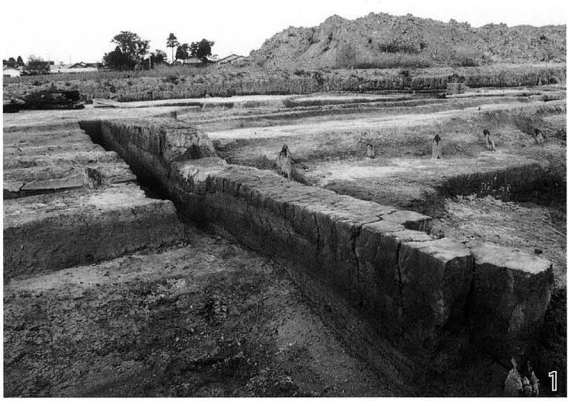


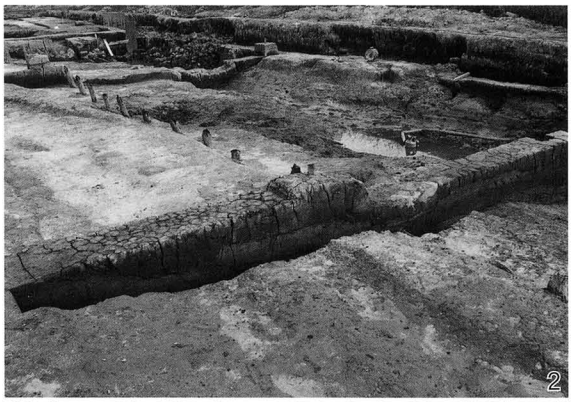
9.土坑SK76B－B'〔E地区〕
（南から）

10.溝SD73C－C'〔F地区〕
（南から）

1.溝SD73〔F地区〕
（南から）

2.溝SD73〔F地区〕
（南から）



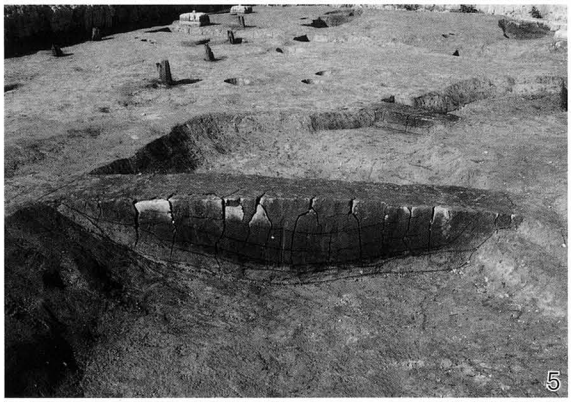


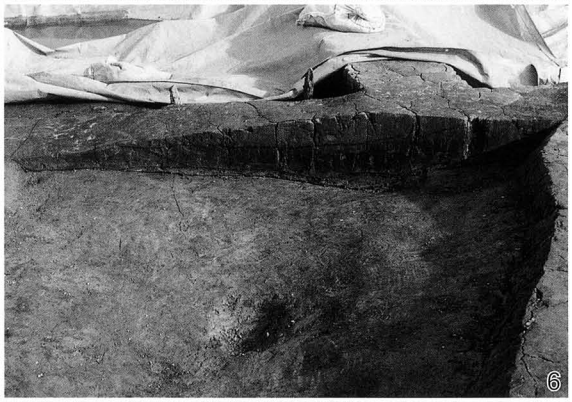
3.土坑SK118〔F地区〕
（東から）

4.溝SD83A－A'〔G地区〕
（西から）

5.溝SD83B－B'〔G地区〕
（南から）

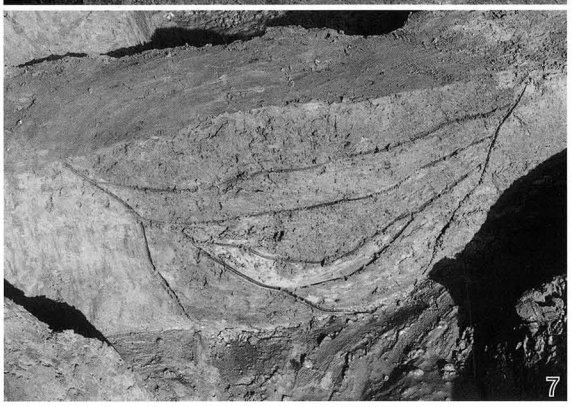
6.溝SD89B－B'〔G地区〕
（西から）





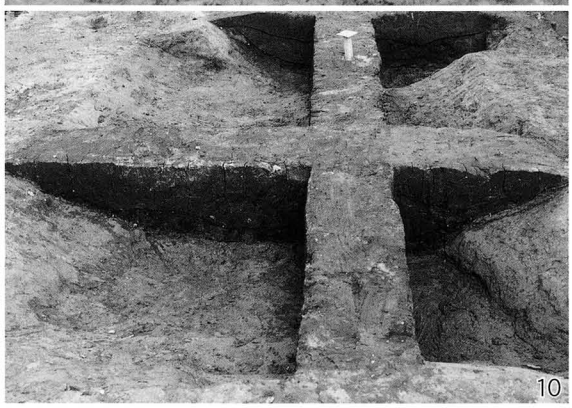
7.溝SD91A－A'〔G地区〕
（南から）

8.溝SD97A－A'〔H地区〕
（東から）



9.溝SD97B－B'〔H地区〕
（東から）

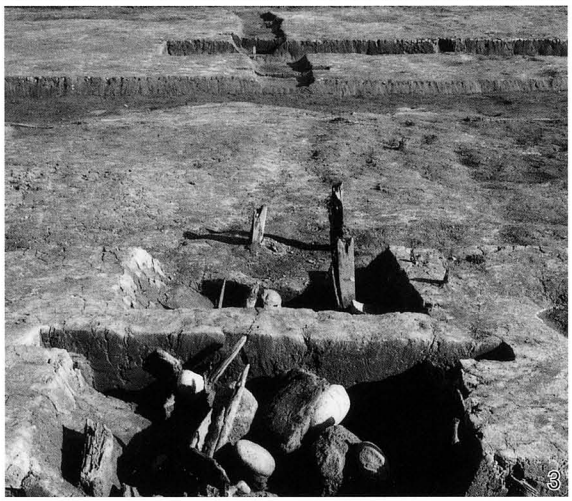
10.土坑SK167C－C'
〔H地区〕（南から）



図版9

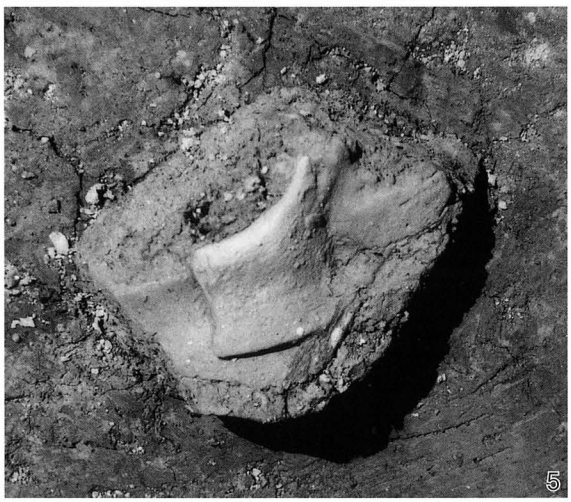
1.溝SD01〔A地区〕
木坑列出土状況
（北から）

2.溝SD01〔A地区〕
遺物出土状況（南から）



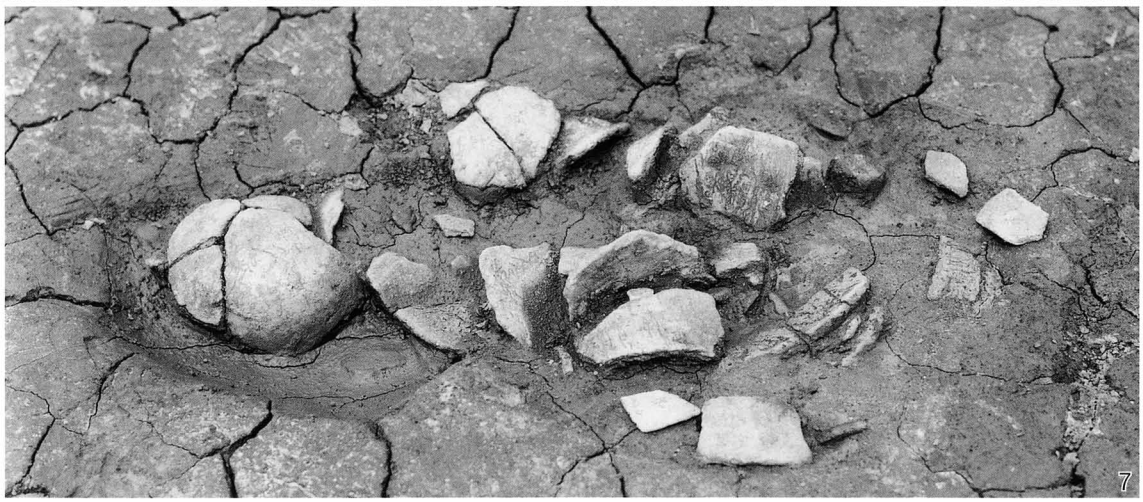
3.溝SD11〔B地区〕
遺物出土状況（西から）

4.溝SD33〔B地区〕
遺物出土状況（西から）



5.土坑SK56〔E地区〕
遺物出土状況（西から）

6.溝SD35〔C地区〕
遺物出土状況（南から）



7.検出面（X：94、Y：3）
〔D地区〕
遺物出土状況（東から）

1.土坑SK81〔E地区〕
遺物出土状況（東から）

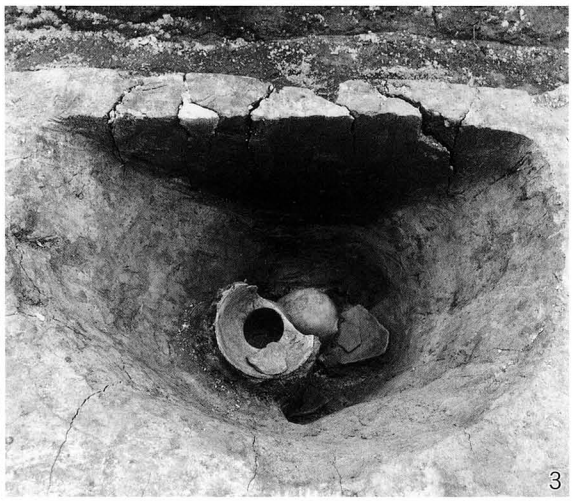
2.土坑SK81〔E地区〕
遺物出土状況（東から）

3.土坑SK81〔E地区〕
遺物出土状況（東から）

4.溝SD71〔E地区〕
遺物出土状況（東から）

5.溝SD72〔E地区〕
遺物出土状況（東から）

図版11



1.土坑SK81〔E地区〕
遺物出土状況（北から）

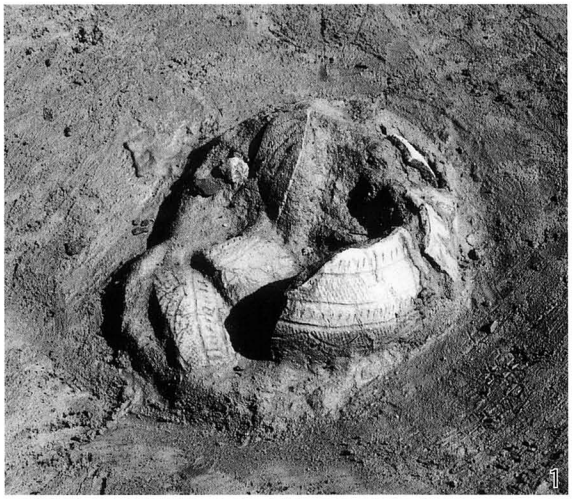
2.土坑SK81〔E地区〕
遺物出土状況（北から）

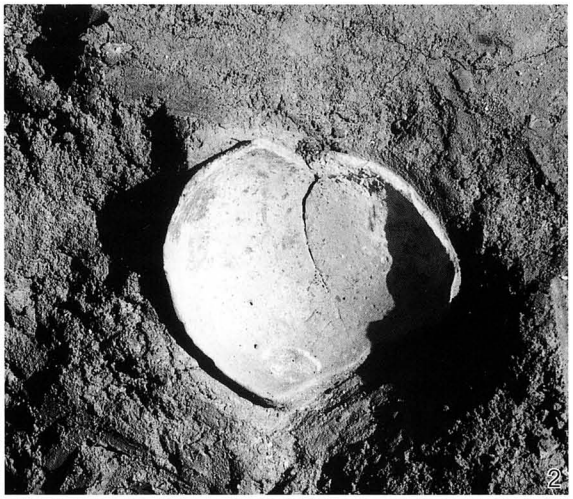
3.土坑SK109〔F地区〕
遺物出土状況（東から）

4.土坑SK81〔E地区〕
遺物出土状況（東から）

1.溝SD89〔G地区〕
遺物出土状況（西から）

2.溝SD91〔G地区〕
遺物出土状況（西から）





3.土器溜りSX01〔H地区〕
遺物出土状況（東から）

4.土器溜りSX01〔H地区〕
遺物出土状況（東から）

5.土器溜りSX01〔H地区〕
遺物出土状況（西から）

図版13

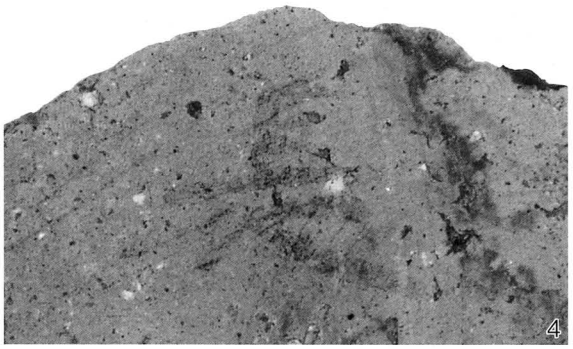
1.溝SD73〔H地区〕
板碑出土状況（南から）

2.溝SD73〔H地区〕
水輪出土状況（北から）

3.溝SD73〔I地区〕
地輪出土状況（南から）

出土遺物
土器〔A・B地区〕
SD01　SD03　SD09
SD10　包含層

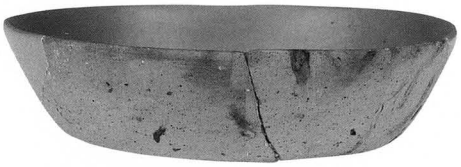
29



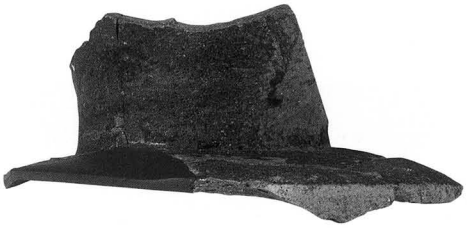
4

11

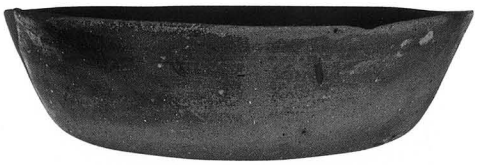
13



3

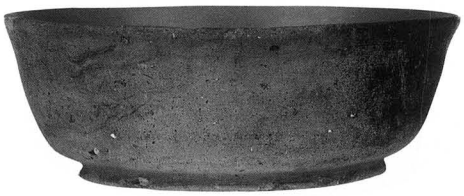


35



32

43



1

45

図版15

出土遺物
土器・陶磁器
包含層〔B・C地区〕

112

64

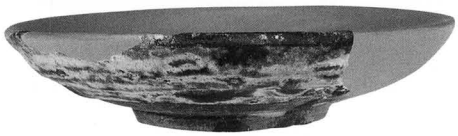
57

69

58

63

62



108

出土遺物
土器・木製品・石製品・
金属製品〔C～F地区〕
SD35　SD37　包含層

148

164

149

91

84

167

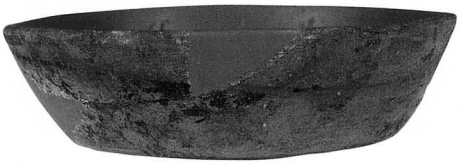
165

181

182

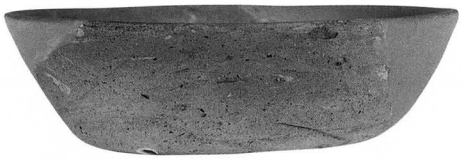
図版17

出土遺物
土器〔A・B地区〕
SD18　包含層

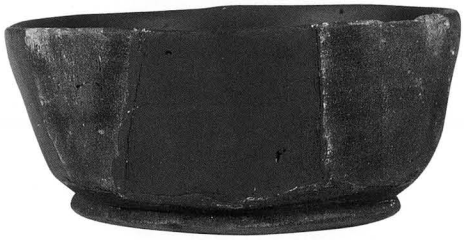


190

192

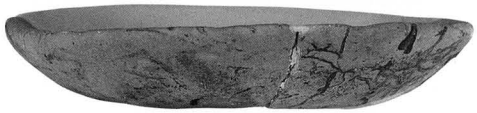


183



191

205



209

206

204

212

213

出土遺物
土器〔C地区〕
SK40　包含層

233

227

229

221

218

234

230

219

235

231

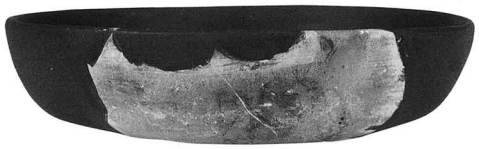
図版19

出土遺物
土器〔C地区〕
包含層

256

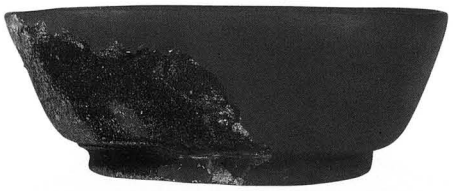
238

254

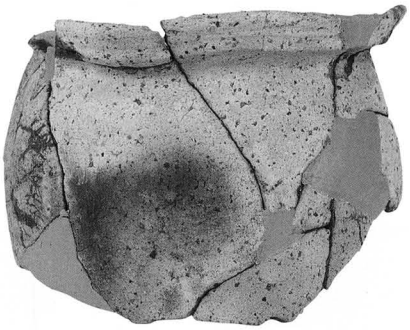


243

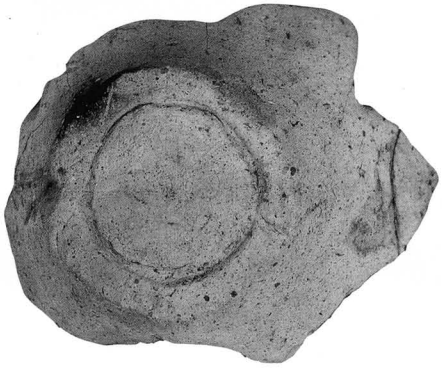
259



240



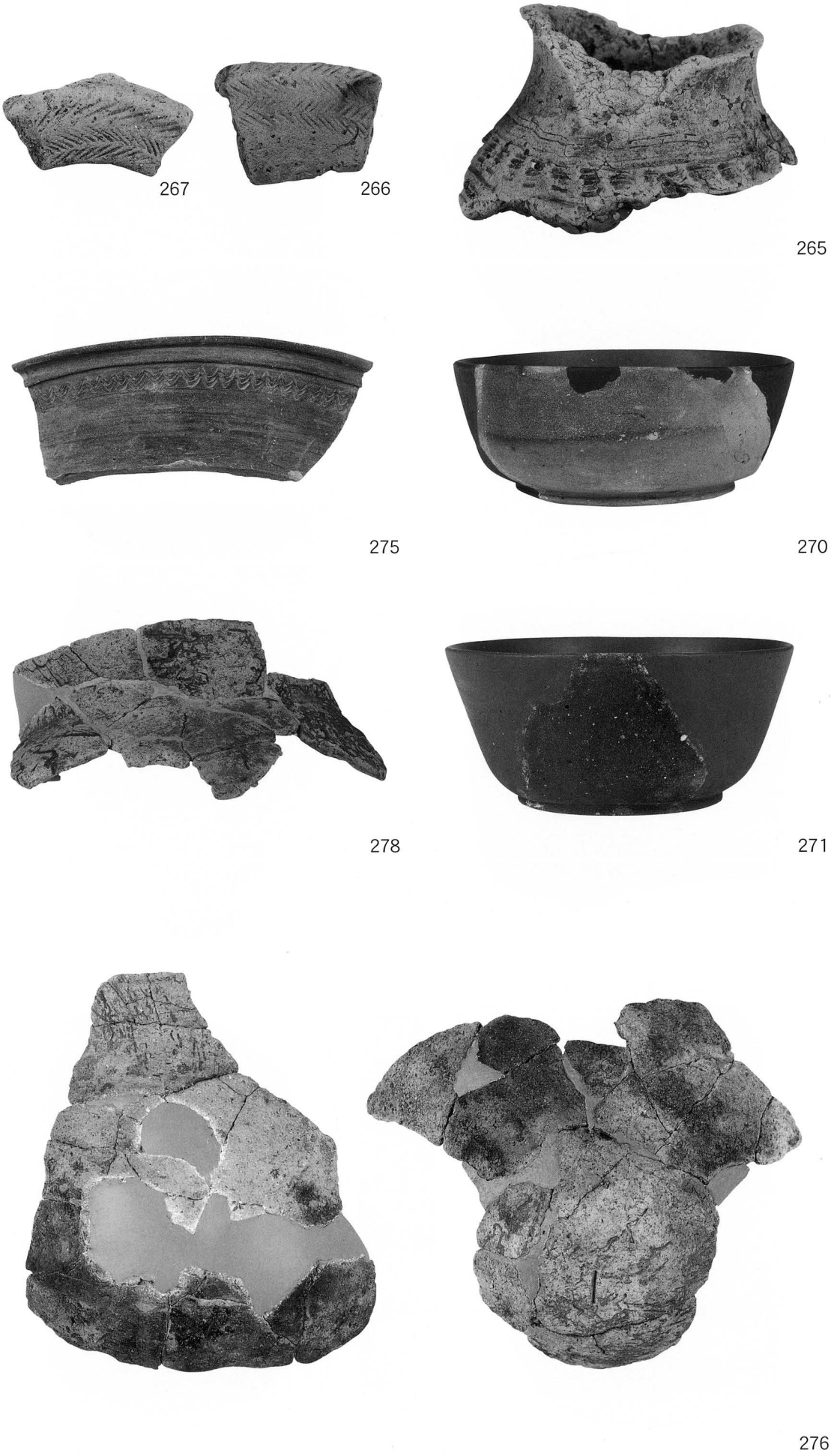
251



250

260

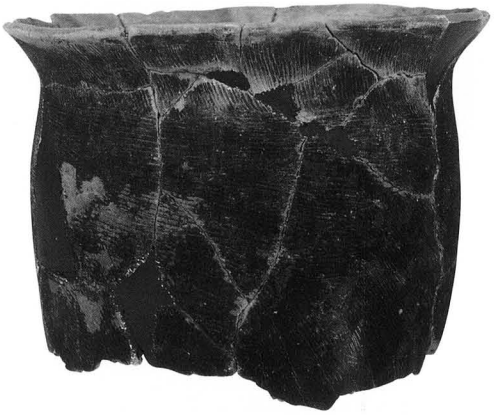
出土遺物
土器〔D地区〕
SD51　包含層



出土遺物
土器・石製品
SK76〔E地区〕

298

293



297

295

300

出土遺物
土器〔E地区〕
SK81

301

306

303

308

307

311

310

図版23

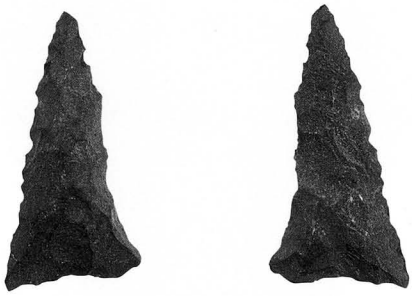
出土遺物
土器・石製品〔E地区〕
SD71～SD73　包含層

319

326

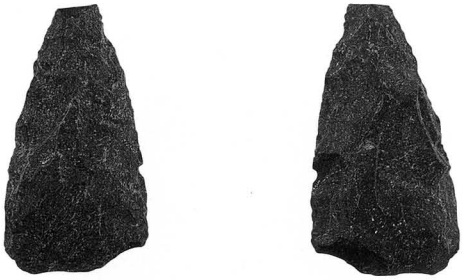
327

321

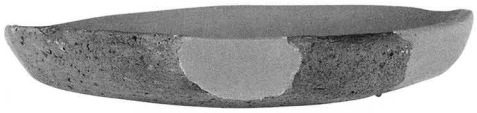


364

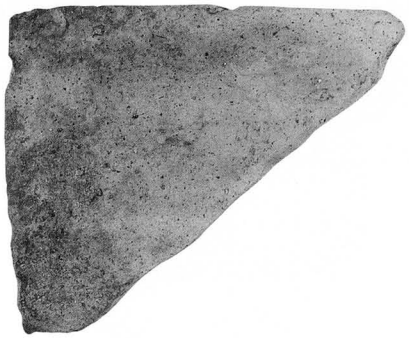
358



363



361



366

出土遺物
土器〔F地区〕
SD80　SK109　包含層

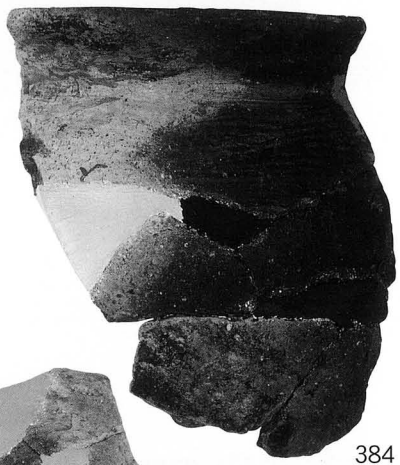
373

380

378

377

383


384

376

382

出土遺物
土器〔G地区〕
SD91

393

398

394

399

395

392

出土遺物
土器・陶磁器・石製品
〔G地区〕
SD73　SD83　SD89
SD91

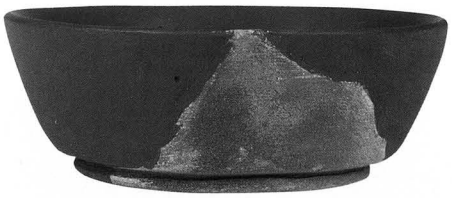
397

402

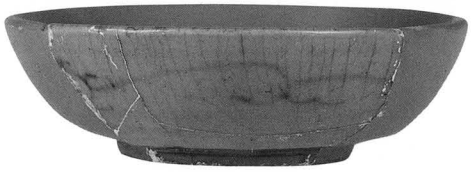
404

413

412



415



422

出土遺物
土器〔H地区〕
SX01

436

433

441

431

439

440

出土遺物
土器〔H地区〕
SX01

444

446

448

449

447

445

出土遺物
土器〔H地区〕
SX01

450

451

455

452

453

454

出土遺物
土器・石製品〔H地区〕
SD73　SD97　SK151
包含層

459

464

468

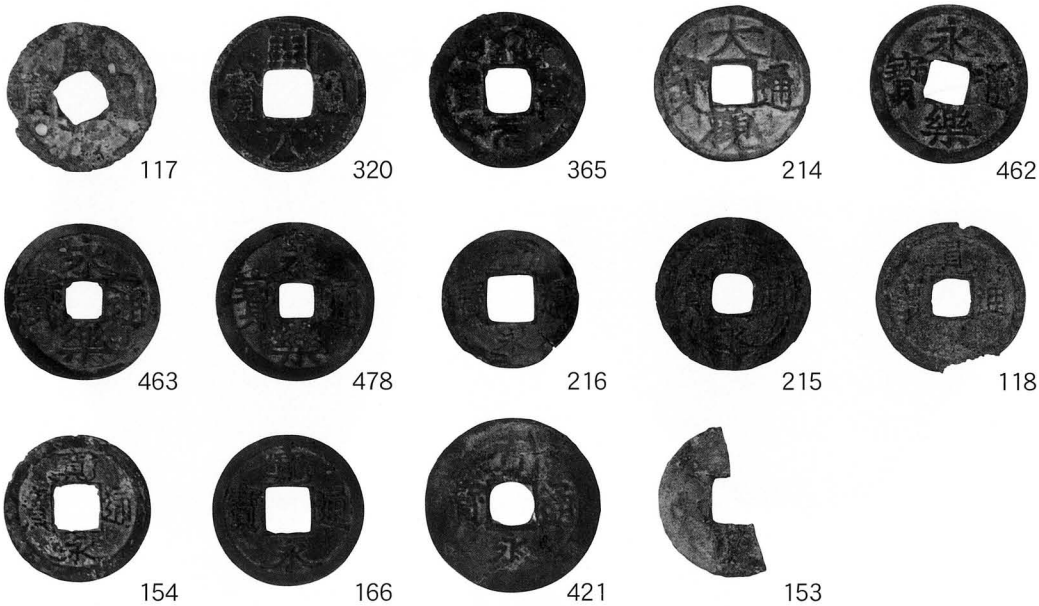
469

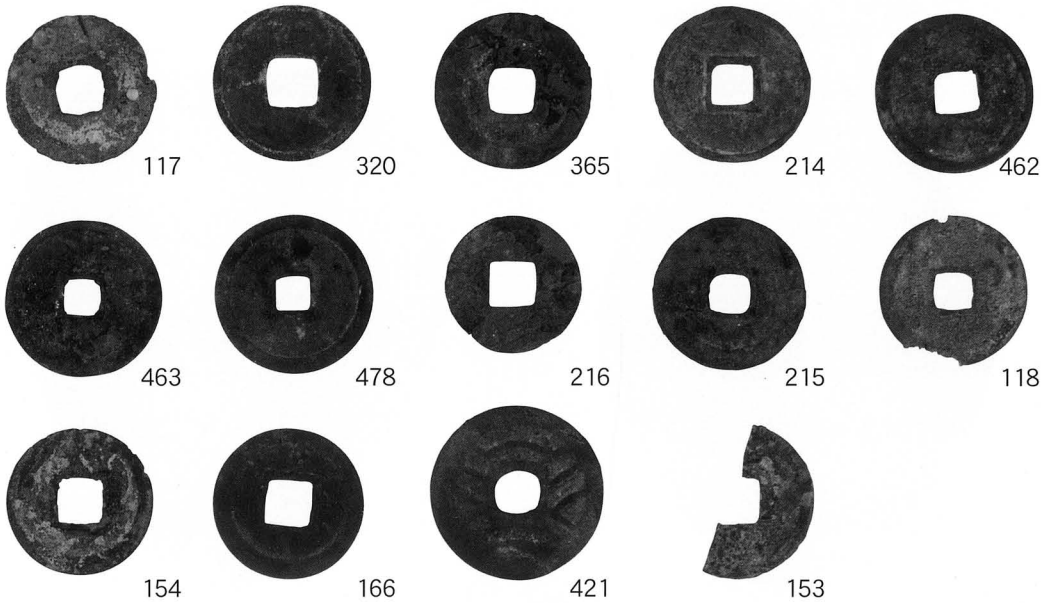
467

471

図版31

出土遺物
獣骨・金属製品
〔B～I地区〕
SD37　SD73　包含層





報告書抄録

ふりがな	こばやしいせき
書名	小林遺跡
副書名	町道北高木小林線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
編著者名	田中　明
編集機関	大島町教育委員会
所在地	〒939－0292　富山県射水郡大島町小島703　TEL0766－52－3854
発行年月日	西暦2003年　3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こばやしいせき 小林遺跡	とやまけんいみずぐん 富山県射水郡 おおしままちこばやし 大島町小林	16382	384008	36度 43分 55秒	137度 4分 28秒	平成9年度 19970820～ 19971217	1,000㎡	幹線町道建設事業に伴う事前調査
						平成10年度 19980511～ 19980909	2,300㎡	
						平成11年度 19990406～ 20000113	4,300㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小林遺跡	集落跡	弥生時代	溝・土坑	弥生土器・石鏃・勾玉・砥石	
		古墳時代	溝・土坑・井戸	土師器	
		古　代	溝・掘立柱建物・土坑	土師器・須恵器	
		中　世	溝・土坑	珠洲・中世土師器 瀬戸美濃・石製品	
		近世以降	溝・土坑	肥前陶磁・越中瀬戸 木製品・金属製品	

富山県射水郡大島町

小林遺跡 －町道北高木小林線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－

2003（平成15）年3月31日　発行

編集・発行　大島町教育委員会

〒939-0292　富山県射水郡大島町小島703　TEL0766-52-3854

印　　刷　株式会社　富山フォーム印刷

〒939-8214　富山県富山市黒崎173番1　TEL076-492-5565